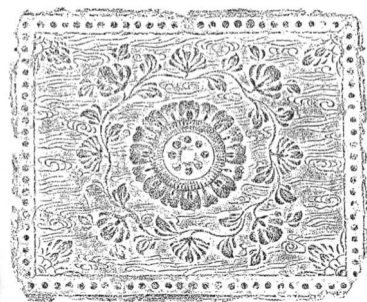


九州歴史資料館年報

令和元年度



九州歴史資料館

は じ め に

当館は、古くから中国大陸、朝鮮半島など対外交流の窓口としての役割を果たしてきた九州の歴史を明らかにすべく、大宰府及び関連遺跡の発掘調査・研究を行ってきました。また、古文書、美術工芸品や考古資料等の収集・保管及び調査を行い、併せてその成果を一般に展示、公開してまいりました。

この年報は、当館が元年度に実施した調査・研究活動と事業の概要を報告するものです。

発掘調査については、大宰府史跡の政庁周辺官衙跡のうち蔵司地区について引き続き調査を行いました。また、災害復旧に関わる発掘調査も行いました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、元年度は、令和2年2月28日から臨時閉館しましたが、臨時閉館までの期間に特別展示「久留米—その歴史と文化—」や企画展示、パネル展示を多数開催いたしました。

普及事業については、広く一般に受講者を募った「九歴講座」・「名誉館長講座」・「九歴ゼミ」・「タベのギャラリートーク」や各講演会等の開催、その他学習支援、出前講座、九歴ボランティアを中心とした古代体験活動、小郡高等学校、小郡市文化協会やNPO法人と共催した多種のイベントを展示と同じく臨時閉館までの期間に展開してまいりました。様々な事業の実施をとおして、多くの方々に親しまれる歴史資料館として活性化を図るとともに、文化財愛護思想の普及に努めているところです。

当館は、九州の文化財の調査・研究の拠点として活動するとともに、より一層県民に親しまれる身近な資料館づくりに邁進いたします。今後とも皆様方の御支援をお願いしますとともに、当館を御利用願いたいと考えております。

この年報が多くの方々に御活用いただければ幸いに存じます。

令和2年10月

九州歴史資料館長

吉 田 法 稔

目 次

1	事業概要	1
(1)	調査・研究	1
(2)	展 示	15
(3)	資料利用	22
(4)	学習支援・博学連携	35
(5)	ボランティア	39
(6)	普及・活用事業	42
(7)	重点施策	54
(8)	広報活動	59
(9)	実習・研修	61
(10)	刊行物一覧	62
(11)	交流事業	63
(12)	協議会等	63
2	九州歴史資料館概要	64
(1)	沿革	64
(2)	施設概要	66
(3)	予算	66
(4)	組織・職員	67
(5)	関係法規	68
3	諸統計	74
(1)	入館者状況	74
(2)	収蔵資料・図書	74
4	日誌抄	75

1 事業概要

(1) 調査・研究

〔学芸調査室学芸研究班〕

◎美術工芸資料に関する調査研究

造形遺品を対象として調査研究を進めている。対象としては、古代から中世にかけての仏像や仏画などの、いわゆる仏教美術と、福岡藩お抱え絵師尾形家を要とする、近世絵画を柱として据えながら、その他の彫刻、絵画、工芸も広く意識して扱うように努めている。このような調査研究を通して、九州や現在の福岡県域が、わが国の歴史の中で、また東アジアの歴史の中で、どのような特色をもち、どのような役割を果たしてきたのか、その一面を明らかにするべく努めている。令和元年度の後半は、新型コロナウイルスの影響により調査を減少させ、年明けになると全く行うことができなくなったものの、前半を主としながら、以下の通りの活動を行った。

○寺社所蔵資料の調査研究

造形遺品が集中する場として、寺社が挙げられる。当館では、地域の歴史において中核的な役割を果たしてきた寺社をとり上げて、そこに伝わる造形遺品を中心とした文化財を悉皆的に調査して、当該寺社を考えることを通して地域の特色を把握しようという調査研究を核としながら、特定地域の造形遺品について集中的に調査を行うことで、その地域の特色を浮かび上がらせようとする調査研究や、地誌をはじめとする各種史資料や、市町村の文化財担当者から得られた情報に基づく調査などを、臨機に組み込みながら調査研究を進めている。

令和元年度は主として、宗像市内と、鎌倉時代の入宋僧神子栄尊関連寺院、高良山ゆかりの寺院の仏像をはじめとする、文化財の調査を行った。宗像市においては、専修寺の阿弥陀如来立像（鎌倉時代）、延寿寺の銅造誕生仏（高麗時代）、野坂神社の面（文永2年・1265年）、許斐山の石造女神坐像（鎌倉時代）、宋風獅子（南宋時代）、小朽仏（平安時代）、長宝寺の不動明王坐像（平安時代）、大威徳明王像（鎌倉時代）、神将形立像（鎌倉時代）、安昌院の銅造菩薩形坐像（高麗時代）などについて、写真撮影と調書の作成を行った。神子栄尊関係では久留米の朝日寺と福聚寺と国分寺、宇佐の円通寺で調査を行い、朝日寺では半丈六の十一面観音立像（鎌倉時代）、福聚寺では高良大社から明治に入り移坐された3軀の本地仏（室町時代）、国分寺では厨子入の高良玉垂命板絵（寛永4年・1627年）、円通寺では阿弥陀如来立像（鎌倉時代）等について、写真撮影と調書の作成を行った。なお、宗像市での調査は市史編纂にかかる、神子栄尊関連寺院や高良山ゆかりの寺院の調査は、特別展「久留米—その歴史と文化—」にかかるものである。その他、長崎県諫



長宝寺不動明王坐像 天祐寺如意輪観音坐像

早市教育委員会の依頼で天祐寺の如意輪観音坐像（鎌倉時代）の調査を行い、長崎県小値賀町の依頼で島内の寺社所蔵文化財の概要把握調査を行うなど、各県ないし市町村からの依頼による調査も適宜組み込みながら行っている。

○九州に偏在する大陸系彫刻の調査研究

九州に偏在している、中国の明時代以前の彫刻、朝鮮半島渡来の彫刻について、調査と研究を進めている。中国の明時代以前の彫刻については、奈良時代以降の日本の彫刻への影響を考える上で重要な存在でありながら、これまで必ずしも進んでいなかった調査を前進させ、より具体的に九州の彫刻への大

陸からの影響や、日本彫刻史における大陸からの影響を考える上での有用な基盤を形成するために、調査と研究を進めているものである。調査は木彫像や塑像等にとどまらず、九州西側にのみ存在する中国製石塔である薩摩塔に刻まれた5軀の尊像、またその他の中国製石造物までを対象としている。薩摩塔については、これまでは九州西北部を主たる調査対象地としてきたが、薩摩における調査の充実が必要であると判断されたため、現存する薩摩塔の中で最大の作例である、鹿児島県南九州市の水元神社の薩摩塔の概要調査を改めて行うなど、新たな展開を始めているところである。なお、その調査成果については、当館の研究論集45等にて報告と考察を行っている。また11月には、寧波を中心とする中国の浙江省地域へ6日間調査に行き、薩摩塔の源や背景についての検討を深めている。



寧波普陀山潮音洞

○福岡県内の絵画調査と研究

九州や福岡県域の歴史や文化の特質を明らかにし、美術のあり方について考える上で、絵画は重大な意義をもった存在である。これまではその中で、仏像と同様に礼拝対象となる仏画については、少しずつ調査研究を重ねてきたものの、例えば寺社にあって、尊像を核とする空間を荘厳していた絵画作品や、私的な空間や折々の集まりをさまざまに彩る江戸時代から近代にかけての絵画作品などは、本格的に手を着けることができていなかった。商家等に、江戸時代から近代にかけての絵画作品が、多量に伝わっているという情報をしばしば耳にしながらも、これまでは十分な対応を行うことができていなかった。しかし絵画担当職員が配置されて以降は、懸案であった福岡県域における絵画の本格的な調査と研究を進めている。

絵画については、今年度も県内各所の絵画作品について、調査研究を行った。特に今年度は、寺社の一枚刷りの境内絵図について、太宰府天満宮を取り上げた研究を行い、企画展を実施した。これまでこうした絵図に主眼を置いた研究はなされておらず、今後も引き続き研究を継続してゆく予定である。また、『新修宗像市史』にかかるものとして、宗像市の旧家のいくつかに伝わる絵画の調査を行った。長い年月の中で失われたものもあるようだが、学界でまだ知られていない近世・近代の絵画も多く見られた。県内各所に、このようにまだ存在の把握がなされていない貴重な絵画が眠っていることが想定され、散逸や劣化が進む前に、悉皆的な調査を行う必要を再確認できた。

また、昨年度に引き続き、福岡藩の御抱え絵師であった尾形家について調査研究を行っている。今年度は、福岡県立美術館に所蔵される尾形家絵画資料中の小方喜六筆「大江山絵巻」画稿について、筑紫女学園大学との共同研究で詞書の翻刻を行い、完了した。成果は来年度刊行の『筑紫女学園大学人間文化研究所年報』に掲載される。

その他、太宰府市が行っている太宰府絵師調査にも、絵画担当職員が調査員の一人として参加している。昨年度は、全国に名の知られた文人である吉嗣拝山を核とする、吉嗣家の絵画資料調査に参加したものである。江戸時代の絵画は、御抱え絵師のみによって制作されていたわけではなく、彼らを柱としながらも、文人画家たちや町絵師たちによっても制作され、それらの創作の総体であった。それゆえに当該地域で活動している文人画家や町絵師たちについても、調査研究を行ってゆく必要があり、そのような観点から調査に参加しているものである。まずしばらくは、調査が継続している太宰府市における絵師調査に参加しながら、県内各地域の様相についても情報収集を進めて、来たるべき総合的な調査に備え、ひいては



小方喜六筆「大江山絵巻」画稿

御抱え絵師を要としながら、福岡県域や九州の江戸時代の絵画について、その総体を構造的に把握することを目指したい。

○文化財の保護活動

当館では、現地で保管が困難ないしは危険であり、かつ当面所在地を離れても、地域の信仰文化に深刻な影響を与えることはないと判断される、文化財としての意義をもった仏像や神像、仏画等々をはじめとする文化財について、受け入れを行っている。この際は、緊急避難を受け入れた上で、地元の環境を整えることに協力し、整えば極力再び地元で保管するというのを、理想の形として心がけている。また、県指定文化財を安置する堂宇や収蔵庫の建て替え等に伴う一時保管を行うこともある。昨年度に大きな動きがあったものとしては、肖像写真や文化財写真で名高い片山撰三撮影の写真資料のうち、九州の文化財に関するネガやポジなどを中心とする写真資料を、片山写真館より寄贈していただいたことがあげられる。芸術的な価値のみならず資料的価値の高いこれらについては、現時点では人員や経費の問題から保管にとどまっているものの、今後価値にふさわしい整理を行い活用してゆく必要がある。

○考古基準資料調査

○古代玄界灘における漁労活動の調査研究

本研究では、玄界灘沿岸地域における弥生・古墳時代の遺跡出土漁労具から、弥生・古墳時代の漁法を復元し、漁労活動や漁労集団、生産活動等について検討を加える予定である。

2年目にあたる今年度は、昨年度から継続中の玄界灘沿岸地域の遺跡出土漁労具の集成を行い、ほぼ終了させた。また漁法の復元可能な資料群を抽出し、関係資料所蔵先での資料調査を開始した。さらに民俗例との比較検討を行うため、民俗資料の漁労具の調査も実施した。

○山岳霊場・信仰遺跡における空間構造の復元的研究 - 豊前等覚寺を事例に -

平成28年度から実施しているもので、福岡県京都郡苅田町の等覚寺関連の遺跡を考古学的に調査してきたもの。今年度は調査内容を取りまとめた報告書を刊行した。『英彦山六峰・等覚寺の山岳信仰の研究 - 豊前等覚寺の山岳寺院・信仰遺跡現地調査報告書 -』（研究代表者：岡寺良，課題番号16K03180，平成28～令和元年度科学研究費補助金基盤研究（C））

○大宰府政庁跡、観世音寺および周辺官衙域など出土貿易陶磁器研究

大宰府政庁跡、観世音寺および周辺官衙域から出土している初期貿易陶磁器（越州窯青磁、邢州窯白磁、長沙窯黄釉褐彩陶）について、周辺官衙遺跡および観世音寺出土品について悉皆的な一覧表の作成を行った。

○福岡県内近世陶磁器研究

特別展「久留米ーその歴史と文化ー」に関して、柳原焼と朝妻焼について久留米市教育委員会、福岡県立美術館、佐賀県立九州陶磁文化館所蔵品について調査を行い、図録作品解説および特論「筑後の茶陶・柳原焼～有馬頼徳と陶工と～」に成果を発表している。柳原焼は久留米藩九代有馬頼徳のお楽しみ窯とされ、筑後の茶陶として特筆すべき位置にある。出土品は少なく、そのほとんどが伝世の本歌、いわゆる「写し」の作品であり、柳原焼独自の個性というものがない。しかし、その「写し」は轆轤回転の向きなどもきちんと把握しており、陶工の技術が非常に高いことが分かった。窯は久留米城内二の丸、桜馬場中央の東の新御殿の庭、新柳原にあったとされ、赤坂焼に焼成を依頼していたことも分かっている。朝妻焼は久留米藩御用窯とされ、窯跡は久留米市合川町隈山周辺で17世紀後半から18世紀前半にかけて染付や青磁、色絵などを焼いており、染付などは近辺の城下町から出土品がある。有田や伊万里の陶工を招き、天草陶石を原料とする。底部に「朝」字銘をもつ。

○特別展「久留米ーその歴史と文化ー」などに関係する考古資料の調査研究

特別展「久留米ーその歴史と文化ー」開催のため、車地遺跡・野口遺跡（旧石器時代）、横道遺跡・正福寺遺跡（縄文時代）、久保遺跡・安国寺遺跡・良積遺跡（弥生時代）、祇園山古墳・隈山古墳・権現塚古墳（古墳時代）、筑後国府遺跡・筑後国分寺遺跡（奈良時代）、石垣山観音寺経塚出土品（平安時代）、

高良大社所蔵考古遺物（弥生～平安時代）の調査を行い、図録の個別解説及び特論「石垣山観音寺経塚と経筒発見史」で成果について発表した。なお、このほか九州山岳霊場遺跡研究会がこの年は高良山と高良大社をテーマとしており、その調査も併せて行い、「高良山の火葬墓」として西谷火葬墓を取り上げ、出土品について調査を行った。また、石垣観音寺（久留米市）および堂ヶ平遺跡（広川町）についても踏査を含む調査を行った。

◎文書・典籍資料の調査研究

当館では、古代から近現代におよぶ各時代の古文書・典籍資料のほか、出土文字資料や写真・映像資料など、広く記録資料を対象として、福岡県域そして九州の歴史的な役割・特質を明らかにすべく、調査研究活動を行っている。

○出土文字資料の調査研究

29年度から、古代大宰府の部内諸司に関する基礎的研究を開始し、出土文字資料や既存の文献史料、大宰府史跡の発掘調査成果をふまえながら、古代大宰府において、様々な職掌を遂行した部内諸司の機能や所在地についての解明を進めている。

当館所蔵の大宰府史跡出土木簡について、31年3月18日（月）に文化審議会より、1300点余の木簡のうち、古代官衙である大宰府の活動によって作成された飛鳥・奈良・平安時代の木簡113点を、「大宰府史跡出土木簡」として、重要文化財に指定するようにとの答申がなされ、令和元年7月23日（火）に官報告示された。

さらに、大宰府史跡出土木簡については、これまで正式報告書で公開してきた再検討の成果を総括し、元年12月7・8日（土・日）に平城宮跡資料館で開催された木簡学会において口頭報告した。

○福岡県史編纂史料等の調査研究

福岡県史編纂史料は、22年度の当館の移転開館に伴い、新たに収蔵した約15万点の史料群である。移管後は、閲覧・レファレンスのほか、未整理史料の整理を引き続き実施し、一方で展示への活用や調査研究も積極的に行っている。このほか、筑豊工業高校資料、太田静六資料等の館蔵資料についても、引き続き調査研究・整理作業に努めている。元年度は、県史編纂史料に含まれる永江純一文書を調査し、その成果を企画展「即位の大礼と福岡県」にて公表した。

○県内所在資料の調査研究

平成29年度より、福岡県戦争遺跡調査の一環として、関係文献資料調査を実施している。こちらは既刊行史料、特に自治体史の集成が主な作業内容で、県下全域における自治体史の戦争・軍事関連項目の記述、およびこれに関する史料を対象として、網羅的に実施するものである。元年度は30年度に引き続き、九州歴史資料館に収蔵されている自治体史を悉皆調査し、各自治体史の戦争・軍事関連記述および史料の集成表を作成し、元年度刊行の調査報告書に、要約したものを掲載した。

また、久留米市と協力して、古代・中世の高良大社文書の調査を行った。古代文書については、29年度より実施していた保存管理班と協力した、蛍光X線分析装置や赤外線スキャナー、実体顕微鏡などを使用した自然科学的調査とともに、料紙とその接続関係、印影などについて詳細な調査を行った。その成果は、元年度特別展「久留米—その歴史と文化—」において公開し、また当館職員も分担執筆した調査報告書が、元年度末に久留米市教育委員会より刊行された。

〔学芸調査室保存管理班〕

◎文化財の保存処置

○木製遺物の保存処理

木製遺物の保存処理は、含水率の測定や樹種同定などの事前調査、トレハロース含浸による強化処置、強化処置後の余分な薬剤を除去する表面処理といった工程で行っている。元年度は、8遺跡 62点の保

存処理を行った。

○金属製遺物の保存処理

金属製遺物の保存処理は、X線CTスキャナや蛍光X線分析装置などの事前調査、土砂や錆を除去するクリーニング、腐食促進因子を除去する脱塩処理、合成樹脂含浸による強化処置といった工程で行っている。元年度は17遺跡294点の保存処理を行った。

○美術工芸・古文書・典籍・歴史資料に対する保存処理

美術工芸・古文書等の保存処置について、現状では文化財の有害生物を対象に、資料への被害状況、劣化状況等の保存状態調査を経て、資料に対して適切な処置を行っている。

今年度は、有害生物の被害がみられたとして、太宰府市および当館受け入れ資料について、処置を行った。

○館内の保存環境整備に関する取り組み

年間をつうじて、第一展示室、特別収蔵庫各室の温湿度測定や空調設備の制御状況の確認、特別収蔵庫周辺の有害生物監視を継続的に行った。今後も、文化財に対する有害生物をできる限り軽減させ、適切な環境のもと、保存できるよう測定や監視等の取り組みを継続する。

○各種文化財の保存対策

資料の保存環境を整備するため、22年度から関係部署と共に、温湿度等の保存環境調査を行っている。今年度、作業を行ったのは、宗像大社神宝館等であり、それぞれ収蔵庫内外に測定地点を定めデータロガを設置、数カ月おきにデータ収集と定期点検を行った。調査により、年間の温湿度挙動の把握を行い、適切な保存環境整備に向けた取り組みの計画・立案を行っている。

○各種文化財の科学的調査

元年度の外部機関に基づく科学的調査は以下のとおりである。

	依頼機関	調査資料	使用機器	依頼日
1	うきは市教育委員会	富永西小敷町遺跡出土砥石	蛍光X線分析	4. 9
2	柳川古文書館	柳河藩土堀家所蔵「神玉」	蛍光X線分析	5. 10
3	福岡県立美術館	高島野十郎作品	デジタルマイクロスコープ	7. 1
4	佐賀県佐賀市教育委員会	三重津海軍所跡出土墨書資料	赤外線スキャナ	7. 31
5	熊本県教育委員会	赤星石道遺跡出土鉄製品・墨書土器	X線CTスキャナ 赤外線スキャナ	8. 22
6	大阪市文化財協会	トレハロース含浸処理実験試料	電子顕微鏡	8. 23
7	熊本県合志市教育委員会	萩迫横穴群出土遺物	X線CTスキャナ	9. 17
8	鹿児島県指宿市教育委員会	敷領遺跡出土鉄製品	X線CTスキャナ	10. 7
9	久留米市教育委員会	高三瀦遺跡出土土器 筑後国府跡89次調査出土土器	赤外線スキャナ 蛍光X線分析	10. 31
10	福岡市埋蔵文化財センター	博多遺跡群出土木簡	赤外線スキャナ	11. 19
11	八女市教育委員会	立山山8号墳出土垂飾付耳飾	蛍光X線分析	3. 16

上記のほか、館蔵資料については随時、科学的調査を実施している。

○外部機関への協力・研修など

(一社)文化財保存修復学会理事会に理事として出席した。また、博物館等の保存施設新築、改築をはじめ、遺物の保存処置、保存環境をはじめとする文化財保存に関する外部機関からの相談・支援依頼に随時対応している。

○船原古墳出土資料に関する共同研究

平成 24 年度に発見され、その後、遺物の取り上げ作業やX線CT調査等の支援を行った古賀市船原古墳遺物埋納坑出土遺物について、平成 26 年度より、古賀市教育委員会と当館との間で協定を締結し、科学的調査や保存処置に関する共同研究を開始している。

今年度も引き続き、これまで撮影したCTデータの解析を進め、現状における遺物の形状や数量等を抽出し、出土位置との照合を行い、全容を把握する作業を行った。遺物のクリーニング作業は、花形杏葉、鉢状雲珠、金銅製馬鈴など合計 180 点、行った。



元年度にクリーニングを終えた遺物

◎平成 29 年 4 月九州北部豪雨による被災文化財救援への対応

29 年 7 月に発生した九州北部豪雨災害により水損した文書の応急的保存処置を行った。

内容は、冷凍保存によるカビ繁殖防止、真空凍結乾燥法による乾燥処置、付着した土砂、カビのクリーニング、折れ、シワ等を伸ばすフラットニングやカビ、虫害が発生している資料への燻蒸処置である。

本年度は、個人蔵古文書、小学校資料、合計 2 件の作業を行った、作業のうち、クリーニング作業については、朝倉市内に作業場所を設けて、実施している。



水損文書の処置作業風景

〔文化財調査室文化財調査班〕

文化財調査班の主たる業務は、国の機関や県及び外郭団体事業に関わる発掘調査及び報告書作成等である。加えて、29 年度より 3 ヶ年をかけて基礎的な調査として「福岡県戦争遺跡調査」を実施し、最終年度である令和元年度末に調査成果を報告書として刊行した。また、県内市町村の埋蔵文化財担当者を対象とした「福岡県文化財担当職員研修」については、市町村に対してアンケートを実施し、内容を見直すため、文化庁調査官を招聘し、埋蔵文化財保護行政講座とあわせた形で 1 回の開催とした。

◎発掘調査及び報告書作成

元年度の本発掘調査は、近年多発する自然災害による復旧事業や災害防止に伴う事業に係る調査が中

心となった。平成 29 年北部九州豪雨災害に関しては、朝倉市教育委員会や福岡県教育庁文化財保護課の担当職員と災害現場を踏査し、事業者側と協議を繰り返したうえで県事業を中心に九州歴史資料館で本発掘調査を実施した。

受託事業として山国川河川改修事業関係（国土交通省九州地方整備局山国川河川事務所）、朝倉地区治山工事（林野庁）事業の 2 件、執行委任事業として大黒川災害関連緊急砂防事業関係 3 件、広域連携交付金（建設）事業 1 件、桂川災害復旧助成事業 1 件、桂川筋河川災害復旧等関連緊急事業 1 件（福岡県県土整備部）、計 6 件を実施した。

整理・報告書作成は、執行委任事業として昨年度発掘調査を実施した主要地方道浮羽草野久留米線歩道設置事業関係（三明寺古墳群）1 冊および東峰村営住宅中原団地建設事業（中原遺跡）1 冊の計 2 冊を刊行した。

以下、令和元年度に実施した発掘調査の概要を掲載するが、詳細については現在整理中であるため、詳細については刊行予定の本報告書に拠られたい。

○山国川河川改修事業関係事業

- ・下唐原東屋敷遺跡 2 次調査（築上郡上毛町大字下唐原）

下唐原東屋敷遺跡は山国川左岸に所在し、山国川の堆積作用によって形成された自然堤防上に立地している。遺構面の標高は 15 ～ 16m であり、大きな高低差は認められないが、調査区の南側から北側にかけて緩やかに標高が低くなっていく。調査区の一部は後世の開発により著しい削平を受けている箇所が存在するが、全体的には遺構・遺物共に良好に遺存していた。検出された遺構は、古墳時代中期頃から奈良時代にかけての竪穴住居跡 35 棟、弥生時代中期頃の竪穴住居跡 3 棟、土坑 40 基、溝 6 条、溝状遺構 4 条、小児甕棺 1 基、円形周溝状遺構 1 基、埋甕 1 基、土器溜まり 1 基、多数のピットなどである。検出された古墳時代以降の竪穴住居跡には、カマドが伴うものが多く、うち 1 基には L 字型カマドが敷設されていた。また、土坑や土器溜まりからは主に弥生中期頃の土器が多量に出土し、良好な一括資料であると考えられる。包含層からは主に弥生中期頃の土器が多量に出土した。本遺跡はこれまでの山国川河川改修事業や圃場整備に係る調査によって解明が進んだ、唐原地域における弥生時代から古代にかけての集落の変遷を補強する調査成果と見られるため、次年度の発掘調査や整理段階でさらなる詳細な検討を行い報告する必要がある。



写真：下唐原東屋敷遺跡（3 区・4 区：反転前、4 区：反転後）

○朝倉地区治山工事事業

- ・上須川古墳群（朝倉市上須川）

上須川古墳群は、朝倉低山地に立地し、尾根の西側斜面上に位置する。防災関連の治山事業に先立つ試掘調査で古墳祭祀に関する遺物が出土し、周辺の円丘状の地形が古墳（1 号墳）である事が確認さ

れ、さらに小石室 1 基が検出されたことから、本発掘調査を実施することとなった。当初予定されていた工事用進入路が 1 号墳付近から外れることになり、調査対象範囲から除外した。

調査は地形測量から着手し、把握した地形に応じて試掘トレンチを拡張、または新設した。各トレンチから原位置は保っていないものの古墳時代後期の遺物が出土しており、周辺に古墳の存在を想定させるものとなった。なお、調査は次年度に継続し、あわせて報告書を作成予定である。



写真：上須川古墳群（作業風景、1 号石室検出状況）

○大黒川災害関連緊急砂防事業等

・竹林庵跡（朝倉市）

本遺跡は朝倉市黒川に所在し、松尾川の北岸（右岸側）に位置する。当遺跡の松尾川を挟んだ南側には中世彦山座主の御所である黒川院跡がある。調査箇所は事業対象範囲内に点在しており、川からやや離れた尾根上の調査区では耕作土直下が基盤層であり、耕地の造成に伴って削平されたと考えられる。川に近い調査区二箇所の内一箇所は、耕地の造成による客土から土師器皿や龍泉窯青磁等を始めた中世の遺物が出土した。しかし、耕地の土留め石垣の裏込めや客土直下の結晶片岩の岩盤層に切り込む小穴から近世～近現代遺物が出土したため、耕地の造成は新しいものと思われる。もう一箇所の調査区では、現代耕作土下位の造成土から中世遺物が出土した他、造成土下位の堆積層から縄文土器や石器が出土した。土器は小片化や磨滅が著しく、状態が悪いものが殆どであり、層中には大小様々な礫が混じっているため、一次的な堆積ではない。今回調査で縄文時代と中世の遺物が出土したが、遺物の供給源である遺跡の本体は今回の調査対象の範囲外に展開すると考えられる。

・黒川院跡第 29 次調査（朝倉市）

調査地点は、筑後川水系の一級河川 佐田川の一支流である馬場谷川の右岸にあたり、流れによって開析された谷の小規模な平地と、一部 上位の台地上に立地する。周辺は、南北朝期から江戸時代初期まで彦山座主が代々居住した「黒川院」と伝わる場所であり、朝倉市教育委員会による 27 次の発掘調査によって、具体的な様相が徐々に明らかになりつつある。特に黒川院の中枢と考えられているオタテ地区



写真：黒川院第 29 次調査遠景

とその南側のオシタンヤシキ地区では、数時期の建物跡等と多量の遺物が出土している。今回の調査地点は、オシタンヤシキ地区と接するため、これと関連した遺構と遺物の発見が期待された。

調査の結果検出した遺構は、柱列、溝、土坑、小穴等である。北端部の台地上の調査区では、径 50 cm 程度の円形柱穴 4 個が等間隔に並び、さらに調査区外に延びる可能性もあることから、掘立柱建物または柵であろう。また、調査区南東部で検出した溝は L 字形に屈曲しており、何らかの区画溝と考えられる。これらの遺構の埋土および遺物包含層からは、龍泉窯系の青磁の優品を始めとする輸入陶磁器や土師器の杯、皿等の遺物が多く出土した。

・南淋寺（朝倉市）

南淋寺は、朝倉市宮野の八坂山麓に所在し、本尊の木造薬師如来坐像（重文）をはじめ国、県、市指定文化財を多数所蔵する、朝倉地域随一の古刹として知られている。寺の創建は平安時代に溯るとされるが、現在地には貞和2（1346）年に移転したとの記録がある。

今回の調査では、薬師堂の裏（北西側）にあたる箇所（Ⅰ区）と、境内西側尾根上の墓地（Ⅱ区）を調査対象とした。Ⅰ区は『筑前国続風土記』などによると山王社がこの付近にあった可能性があることから調査対象としたが、建物の痕跡等の遺構、遺物は確認できなかった。Ⅱ区は現状で確認できた墓標から近世から明治期の主に真言宗時代の歴代の住職を葬った墓と考えられ、昭和時代に一度改葬をされているとされていた。調査の結果、近世から明治期の方形石組区画の墓約20基、墓またはこれに関連すると考えられる石積遺構3基、中世に遡る火葬墓と考えられる土坑1基を確認した。近世以降の遺構については、一部を地下まで掘削して確認したが、埋葬には土葬、火葬の両方があり、1基に複数埋葬が認められる例がある一方で、地下の施設が存在しない供養塔的なものもあるようである。また中央部の石積では、中世の曹洞宗時代の歴代住職墓の墓標を集めて意図的に石材に使用して構築した様子があり、多様な供養の形態が伺えた。

○広域連携交付金（建設）事業等

・辻の上遺跡（第2次調査）

調査地は県道と民家に挟まれた狭小な範囲で、民家の生活上の配慮から調査工程を大きく4つに分け調査を実施した。

調査の結果、近世以後の掘立柱建物跡の柱穴と考えられる遺構数基と溝、現代の攪乱土坑、溝等を確認した。遺物は中世の土師器などが出土したほか、わずかに古墳時代の土師器、須恵器片が出土した。調査区の東は削平、西は現代の大きな攪乱を受けており調査区中央部のみに遺構・遺物が残っていたことを確認した。

今回の調査は調査範囲が狭小であったため、確認した建物の規模を復元するには至らなかった。また、調査地点は個人住居地内（建物および庭）であったため、現代に数回にわたる造成等が行われており、遺構の残りは希薄であった。しかし、古代から近代にかけての遺物が出土し、本調査地及び周辺が古代から現代にかけて居住地として良好な地域であったことが伺えた。

○桂川筋災害復旧助成事業

・荷原地神塔（朝倉市）

本遺跡は荷原川の左岸、水田の中に自然石を積んだ円形の基壇上に石塔を建てたものである。石塔は高さ約0.8m、幅0.56m、厚0.22mを測る自然石を利用したもので、自然面を生かし、際立って加工等を施した痕跡は認められない。表面には、風化等で判読しがたくなっているが「地神」と陰刻している。その他、建立年代や造立に携わった人名などは刻まれていない。裏面も自然面のままである。

基壇は周辺から採取できる自然石を利用したもので、南北約3.0m、東西約2.8m、高さ約0.6mを測る、平面はやや楕円形を呈した円丘状である。土交じりの小礫を積んだ上に少し大きめの礫を積んでいるようだが、積み方を特に意識しているようには見えない。

石塔に築造時期が刻まれておらず、また出土遺物も全く認められていないために本石塔の築造時期を確定することはできないが、一般的に「地神塔」信仰が流行するのが近世～近代にかけてであり、本遺跡もその範疇にあると思われる。

○桂川筋河川災害復旧等関連緊急事業

・荷原岩切堀川（朝倉市）

調査の結果、自然災害や経年の風化などにより洗掘や崩落に至る所でみられ、また、岩質も軟質である事から、人工的に開削をした明確な痕跡（鑿痕など）は踏査の範囲内では認められなかった。他の人工的な造作については、中央付近に堰及び取水口が設けられている他、人工的な石組みとみられる箇所が

1 か所確認できた。また、戦時中の防空壕らしき遺構を確認した。

出土遺物が全く認められていないため、現時点で岩切堀川の築造（掘削）時期を確定することはできないが、機能として、溜池及び周辺水田への灌漑目的の用水が考えられる。岩切堀川中ほどに設置された堰から北側の導水施設を通り、溜池へと続く溝が現在も残っており、荷原川が灌漑用水としての機能を担っていたのは間違いない。導水施設については、現状はコンクリート造の堰が近い時期まで機能していたと考えられるが、その下部に岩盤をくり抜いた取水口がもう一か所存在しており、コンクリート堰築造以前にもほぼ同じ位置で堰を作り溜池へと導水していることが確認できた。この取水口及び導水溝を作った時期が岩切堀川の当初築造時期の可能性もある。



写真：荷原地神塔（左） 荷原岩切堀川（右）

元年度文化財調査班実施の発掘調査および作成報告書一覧

発掘調査

遺跡名	所在地	調査面積（㎡）	調査期間	調査内容	調査原因
下唐原東屋敷遺跡	築上郡上毛町字下唐原	6,400	190508-200318	集落	河川改修
竹林庵跡	朝倉市黒川	530	190613-191018	寺院	砂防ダム建設
黒川院跡第29次調査	朝倉市黒川	2,600	190613-191018	寺院	砂防ダム建設
辻ノ上遺跡	直方市下新入	658	191118-200225	集落	県道拡幅
荷原地神塔	朝倉市上組足軽	10	191219-191223	河川	河川改修
上須川古墳群	朝倉市上須川	700	200114-200306	墳墓	治山
南淋寺	朝倉市宮野	500	200117-200318	寺院	砂防ダム建設
荷原岩切堀川	朝倉市城	2,400	200303-200309	河川	河川改修

作成報告書

タイトル	シリーズ名	調査原因
三明寺古墳群	福岡県文化財調査報告書第272集	県道歩道設置
中原遺跡	福岡県文化財調査報告書第273集	村営住宅建設

◎福岡県戦争遺跡調査

明治維新による近代化が始まってから150年、土地に残された近代の遺産や戦争の痕跡も急速に失われつつあり、戦争に対する人々の記憶も次第に薄まりつつある。

そのような中で福岡県では、県内に所在する近代以降の全ての戦争遺跡を対象に、総合的な緊急分布調査を行うこととし、平成29年度から基礎調査をはじめた。

最終年度となる元年度は、初年度に実施した県内各市町村へ戦争遺跡の調査票を元に重点調査を実施した他、教育庁文化財保護課を事務局として有識者5名からなる「福岡県戦争遺跡調査指導委員会」第4回の委員会を6月9日（日）北九州市で、最終となる第5回の委員会を11月2日（土）に九州歴史資料館で開催した。その後、調査成果をとりまとめた報告書を令和元年度末に刊行し、本調査事業については一連の作業を終了した。

福岡県戦争遺跡調査指導委員会委員名簿

(元年4月1日現在)

	氏 名	所 属 等	専 門
委 員 長	有馬 学	福岡市博物館長 九州大学名誉教授	日本近代史
委 員	三輪 宗弘	九州大学附属図書館教授	日本近代史
	土田 宏成	聖心女子大学教授	日本近代史
	齋藤 達志	陸上自衛隊幹部学校教官 防衛研究所戦史研究センター	戦史
	伊藤 慎二	西南学院大学国際文化学部准教授	考古学



写真：現地調査風景

作成報告書

タイトル	シリーズ名	調査原因
福岡県の戦争遺跡	福岡県文化財調査報告書第274集	埋蔵文化財緊急調査

〔文化財調査室調査研究班〕

調査研究班では、大宰府史跡と関連遺跡の調査研究を主な業務として取り組んでいる。元年度は大宰府史跡の調査として発掘調査を5件実施し、報告書を1冊刊行した。

◎大宰府史跡の発掘調査・報告書作成

元年度は、大宰府史跡発掘調査第10次5ヶ年計画の3年次にあたり、蔵司地区官衙跡の重点発掘調査を実施した。第246次調査については今年度も継続中である。

また、大宰府政庁周辺官衙跡で2ヶ所の確認調査を実施した。

元年度大宰府史跡調査一覧

調査次数	調査地区略称	面接 (㎡)	調査期間	調査地区
大宰府史跡第236次調査	6AYT-A	976	2019.7.24～12.24	政庁周辺官衙跡・蔵司地区官衙跡
大宰府史跡第243次調査	6AYM-D	7.2	2019.5.28	政庁周辺官衙跡・広丸地区
大宰府史跡第244次調査	6AYM-A	9	2019.5.29～7.12	政庁周辺官衙跡・前面広場地区
大宰府史跡第245次調査	6AYT-A	120	2019.5.29～ 2020.3.31	政庁周辺官衙跡・蔵司地区官衙跡
大宰府史跡第246次調査	6AYT-A	94	2019.6.4～ 2020.3.31	政庁周辺官衙跡・蔵司地区官衙跡

報告書は、『大宰府政庁周辺官衙跡Ⅻ―蔵司地区平地部編 1―』を刊行した。

○大宰府史跡第 236 次調査（大宰府政庁周辺官衙跡・蔵司地区官衙跡）

蔵司地区は大宰府政庁跡の西側に位置し、「蔵司」の地名から、大宰府の財政的機能を担った官衙が想定されてきた。

九州歴史資料館では、平成 21 年度より蔵司地区官衙の構造解明に向けた調査を実施している。21～25 年度は遺構の分布や現況の地形の成因などを探るための確認調査、26 年度以降は確認調査成果に基づく重点調査を実施している。

第 236 次調査地は丘陵南東部の広い平坦面である。29 年度以降の調査により、5 棟の礎石建物と 2 棟の掘立柱建物を確認した。

今回の調査によって、蔵司丘陵南東部の平坦面には 6 棟の礎石建物が逆「コ」字状に配置され、中央部は空閑地を形成していたことが分かった。また、礎石建物に遡る時期の掘立柱建物も 2 棟確認した。



大宰府史跡第 236 次空撮（上から）

○大宰府史跡第 243 次調査（大宰府政庁周辺官衙跡・広丸地区）

調査地は政庁周辺官衙の西側に位置する広丸地区で、住宅建て替えに伴う事前確認調査を実施した。

調査の結果、トレンチ南端部分では表土下 1m で黄褐色粘質土の地山を確認したが、トレンチ北側では約 10 cm の整地層及び粗砂層を確認した。整地層である粗砂層上層の暗灰色～青灰色粘質土層から瓦小片や土師器小片が出土した。

○大宰府史跡第 244 次調査（大宰府政庁周辺官衙跡・政庁前面広場地区）

調査地は政庁の南正面に広がる広場地区で、住宅建て替えに伴う事前確認調査を実施した。

過去の調査所見から当該地には暗渠遺構が存在することが予想された。そこで、対象地東側に南北方向の 1 トレンチ、対象地北側に東西方向の 2 トレンチを設定した。

調査の結果、1 トレンチでは区画整理の造成土下層から過去の調査の断ち割りトレンチや整地層を確認した。2 トレンチでは区画整理の造成土下層から整地層や谷地形を確認した。旧調査時の埋め戻し土から瓦土等が出土した。



大宰府史跡第 244 次調査（南から）

○大宰府史跡第 245 次調査（大宰府政庁周辺官衙跡・蔵司地区官衙跡）

第 245 次調査区は前述の第 236 次調査区の西側に続く一連の平坦面である。過去の確認調査によって古代遺構が検出されており、礎石建物も予想されていたことから、元年度から重点調査を実施することとなった。調査区は 1 トレンチと 2 トレンチの 2 ヶ所である。

調査の結果礎石建物は確認されず、本来この場所には礎石建物が建てられていなかった可能性が高いことを確認した。

また、1 トレンチの北側と南側でそれぞれ柱穴列を確認した。北側の柱穴列では柱抜き取り痕も確認したが、遺構の続きは調査区外へと伸びており、柱穴列によ



大宰府史跡第 245 次調査（北から）

て構成される建物等の規模や構造は不明である。

○大宰府史跡第 246 次調査（大宰府政庁周辺官衙跡・蔵司地区官衙跡）

第 246 次調査区は蔵司地区丘陵部の南側にある東西に長い平坦面に位置する。大型礎石建物 SB5000 あるいは平坦面上に広がる礎石建物群に対して南側からの進入口の存在が想定されるため、西側に 1 トレンチ、東側に 2 トレンチと 2 ヶ所のトレンチを設定して調査を実施した。

1 トレンチでは東西方向に並ぶ 4 基の柱穴列を確認した。柱穴列の掘り方は一辺約 1m の方形で、柱間隔は約 210 cm である。柱穴列によって構成される建物等の規模や構造は不明である。

2 トレンチでは多量の瓦が面的に広がって集積している状況を確認した。完形に近い瓦も多く、また木炭片や焼土も確認されたため、隣接する瓦葺建物が焼失等によって倒壊した痕跡、または解体され廃棄された跡と考えられる。

瓦の出土状況と過去に調査した礎石建物跡との関連、及び進入口との関連を確認するため、2 年度も引き続き調査を実施する。

◎大宰府史跡調査研究指導委員会

大宰府史跡の調査研究にあたっては、遺跡の性格上あらゆる分野から総合的に取り組む必要があるため、考古学・歴史学・建築史学・造園学・都市工学・土木工学などの専門家で構成する「大宰府史跡調査研究指導委員会」を設置して、同委員会の指導のもとに 5 ヶ年計画を策定し、その計画に従い調査を進めている。

元年度の指導委員会は、10 月 23 日（水）・24 日（木）の両日に開催した。

10 月 23 日は、平成 30・令和元年度に実施した発掘調査の成果と大野城市・春日市が実施した水城跡整備事業に伴う発掘調査の成果を報告した。その他、大宰府外郭線の調査成果や大宰府発掘 50 年・史跡指定 100 年記念事業を報告した。

10 月 24 日は、大宰府史跡の調査計画と今後の大宰府史跡について、審議が行われた。

大宰府史跡調査研究指導委員会委員名簿

(2 年 3 月 31 日現在)

	氏 名	所 属	専 門
委 員 長	小田富士雄	福岡大学名誉教授	考古学
副委員長	佐藤 信	東京大学名誉教授	歴史学
委 員	坂上 康俊	九州大学大学院教授	歴史学
	森 公章	東洋大学文学部教授	歴史学
	増淵 徹	京都橘大学教授	歴史学
	山中 章	三重大学名誉教授	考古学
	松村 恵司	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所長	考古学
	亀田 修一	岡山理科大学教授	考古学
	箱崎 和久	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所	建築史学
	伊東 龍一	熊本大学大学院教授	建築史学
	渡辺 定夫	東京大学名誉教授	都市工学
	杉本 正美	九州芸術工科大学名誉教授	造園学
	尼崎 博正	京都造形芸術大学教授	造園学
	包清 博之	九州大学大学院芸術工学研究院教授	造園学
	末次 大輔	宮崎大学教授	土木工学



大宰府史跡第 246 次調査（南西から）



調査指導委員会 現地視察（蔵司地区）

◎大宰府外郭線の調査・大宰府外郭線部会

筑紫野市前畑遺跡第13次調査で確認された「土塁状遺構」については、大宰府都城の外郭線を構成する古代の遺構の可能性が指摘されたため、九州歴史資料館では関連市町と連携し、大宰府外郭線を構成する遺構の有無や範囲を確認し、大宰府の構造を理解するための調査研究を行い、今後の保存活用の基礎資料とすることとなった。

【関連市町】

筑紫野市・春日市・大野城市・太宰府市・那珂川市・宇美町・小郡市・佐賀県基山町

【元年度】

・大宰府外郭線検討会（関連市町との連携による調査研究）を年2回開催した。

・大宰府史跡調査研究指導委員会 大宰府外郭線部会を、元年9月12日（木）と2年2月19日（水）の2回開催した。大宰府外郭線検討会（春日・那珂川の踏査）

第1回部会では、これまでの現地調査の状況と羅城に関する既存の研究内容、デジタル立体地形図による古代山城の城壁把握、今後の調査計画について審議が行われた。

第2回部会では、元年度発掘調査予定地の視察と今後の調査計画について審議が行われた。



大宰府史跡調査研究指導委員会 大宰府外郭線部会委員名簿

（2年3月31日現在）

	氏 名	所 属	専 門
部 会 長	小田 富士雄	福岡大学名誉教授	考古学
副部会長	坂上 康俊	九州大学大学院教授	歴史学
委 員	亀田 修一	岡山理科大学大学院教授	考古学
	岩永 省三	九州大学総合研究博物館副館長	考古学
	末次 大輔	宮崎大学教授	土木工学

○大野城跡第56次調査（大宰府外郭線第1次調査）

水城跡東門跡から東へ延びる尾根線は、大野城跡のある四王寺山へと接続しており、大宰府外郭線が想定される有力候補の一つである。土塁状遺構の有無を確認するため、尾根線上に2ヶ所の調査区、合計4つのトレンチを設定した。

1・2 トレンチは直線状の狭い平坦面が30mほど続く地形であり、人為的な造成の可能性が想定されたため掘削を行った。調査の結果、表土直下から地山層が確認されたが遺構は確認されなかった。

3・4 トレンチは平坦地形を有する尾根線上の地点で、現在は頂部に祠が祀られている。調査の結果、古代の遺物は出土したが明確な遺構は確認できなかった。



大野城跡第56次調査 3Tr（北から）

○大土居水城跡第6次調査（大宰府外郭線第2次調査）

大土居水城跡から天神山水城跡へ延びる丘陵部分は大宰府外郭線が想定される有力候補の一つである。土塁状遺構の有無等を確認するため、大土居水城跡の土塁に隣接する尾根線上に3ヶ所のトレンチを設定し調査を実施した。

1 トレンチは大土居水城跡の土塁に隣接する尾根線上である。発掘調査の結果、赤褐色粘性土の地山層が面的に確認されたが古代の遺構は確認されなかった。

2 トレンチは尾根の斜面上である。発掘調査では表土下で地山層を確認し、自然形成による尾根地形であることが分かった。

3 トレンチは尾根頂部で現在は神社境内として利用されている場所である。神社拝殿南側の平坦地について発掘調査を実施した結果、旧表土層の上層に堆積層を確認したが、神社拝殿建築に伴う新しい層位と判断された。また、旧表土層の下層には地山層が面的に広がる様子が確認され、古代に遡る遺構は確認されなかった。

なお、大土居水城跡西側丘陵部については2年度に補足調査を実施する。



大土居水城跡第6次調査 1Tr（東から）

（2）展示

◎常設展示

第1展示室では、「歴史（とき）の宝石箱」をテーマに、旧石器時代から近現代にいたる福岡県の歴史を、遺跡の出土品のほか、仏像・古文書・古地図などの実物資料の展示により、通史的に紹介している。福岡県さらには九州という広い視野から地域の歴史を学ぶことができる。文書や絵画資料については、資料の保全とリピーターの獲得を意図して約2か月ごとに展示替えを行っており、その都度、足を運んでもらえれば新しい資料との出会いがあるようにしている。

第2展示室では、大宰府政庁中門の10分の1復元模型を展示するほか、九州の地形や四国・本州との位置関係がわかるように中央の床面に九州の衛星写真を設置している。

第3展示室では、福岡県内出土の弥生土器や須恵器・古瓦などを時期別に並べ、形や文様・調整技術の移り変わりがわかる展示を行っている。引き出し式のケースには、貿易陶磁などの破片資料を資料群として展示しており、資料本来の多彩な色や文様、胎土等の様子を観察することができる。

第4展示室では、旧石器時代・縄文時代の炉跡や弥生時代の甕棺墓など、現地で保存することができない遺構を切り取って保存処理を施し、地中の遺跡を覗き込むような形で床下に展示している。

第1・3展示室については、天井高6m・面積200㎡を超える特定天井（吊り天井）であるため、耐震改修工事が必要となった。工事の内容としては、天井や設備を撤去した上で、天井下地を鉄筋で製作し、躯体と緊結して建物と一体化を図り、天井材および設備機器の再設置を行った。あわせて、天井照明をLED化し、タブレット等で遠隔操作できるスポットライトも新設した。特にこれまで露出展示の際に天井からのスポットライトがないため、展示物が暗くてよく鑑賞できないとの指摘があったが、この度、改善することができた。改修工事自体は30年度末に完了したが、展示環境を整えるための養生期間も含めて平成30年8月14日（火）から令和元年10月11日（金）までの期間、第1・3展示室を閉室することにした。

特別展「久留米」ののち、引き続き企画展「船原古墳の世界」「炭都・三池―「明治日本の産業革命遺産」企画展2―」「福岡の工芸1 甘木絞り」を同時開催した。したがって、常設展示のオープンは実質、令和2年1月28日からとなった。



改修後の第1展示室

＜常設展示「歴史の宝宝箱」展示構成＞

- 第1章 旧石器・縄文時代 狩猟と採集
- 第2章 弥生時代 稲作とクニ
- 第3章 古墳時代 北部九州の古墳文化
- 第4章 古代Ⅰ 大宰府史跡
- 古代Ⅱ 西海道大宰府
- 古代Ⅲ 仏教美術
- 第5章 中世Ⅰ その後の大宰府
- 中世Ⅱ 武士と戦乱の世
- 第6章 近世 「太平の世」の福岡
- 第7章 近代Ⅰ 「福岡県」の誕生とあゆみ
- 近代Ⅱ 絵図の世界

◎特別展「久留米—その歴史と文化—」

会期：令和元年 10 月 12 日（火）～ 12 月 8 日（日）

会場：第 1・2・4 展示室

主催：九州歴史資料館 共催：久留米市

後援：久留米市教育委員会

内容：本展は、福岡県の南西部に位置し、筑後地域最大の都市である久留米市域の歴史と文化を紹介する展覧会である。また、当館が福岡県内の歴史文化遺産を地域ごとに紹介する特別展の第二弾として、久留米市と共催で実施した。

久留米地域の歴史と文化は、筑後川や筑後平野、耳納山地など、水と緑に恵まれた自然と肥沃な大地のなかで刻まれ育まれてきた。同地は古来より水陸の交通の要衝として重要視され、古代には筑後国府が置かれた。筑後平野を見渡す高良山は筑後一の霊山として人びとの心の拠り所となってきた。そして、その風土のなかで優れた人材や美術作品・工芸品が育まれた。

本展は、「久留米の地宝」「高良大社とゆかりの宝物」「神子栄尊」「近代洋画と久留米」「久留米の伝統工芸」の五つの章からなり、久留米ゆかりの文化財を通して、久留米の歴史と文化を知ることができる展示内容とした。10 月 27 日にはからくり人形「弓曳き童子」の実演も行った。

具体的に「久留米の地宝」では、久留米を代表する旧石器から古代までの出土品に加えて、高良大社伝来の銅鏡や観音寺の経塚遺宝を展示した。「高良大社とゆかりの宝物」では、重文の平家物語や県指定の高良大社画縁起のほか、神仏分離で山を離れた高良玉垂宮の本地仏（秘仏）も特別出品された。「神子栄尊」では、久留米生まれの入宋僧である神子栄尊の頂相彫刻をはじめ、栄尊開山である久留米の朝日寺の十一面観音立像や宇佐の円通寺の阿弥陀如来立像など、ゆかりの尊像の数々が一堂に会した。「近代洋画と久留米」では、青木繁や坂本繁二郎はもとより二人を育てた森三美をはじめ、松田諦晶・古賀春江・吉田博・高島野十郎など「筑後画壇」を代表する洋画家の作品が並んだ。「久留米の伝統工芸」では、柳原焼・朝妻焼や田中久重の「からくり人形」、久留米絣・久留米藍胎漆器・久留米切子などを紹介した。

主な展示資料：福岡県指定文化財 画文帯神獸鏡 祇園山古墳出土（当館）、久留米市指定文化財 くらなし玉 隈山古墳出土（久留米市教育委員会）、福岡県指定文化財 毘沙門天立像（観音寺）、福岡県指定文化財 筑後国神名帳・大友宗麟書状（高良大社）・重要文化財 平家物語（同）、福岡県指定文化財 高良大社画縁起（同）、重要文化財 高良山良寛起請文（五條家）、玉垂宮本地仏（福聚寺）、福岡県指定文化財 神子栄尊坐像（朝日寺）、久留米市指定文化財 十一面観音立像（同）、宇佐市指定文



特別展「大宰府への道」ポスター

化財 神子栄尊坐像頭部（円通寺）、わだつみのいろこの宮下絵 青木繁（福岡県立美術館）、筑後川遠望 高島野十郎（同）、窓 古賀春江（同）、筑後風景 森三美（久留米市美術館）、放水路の雲 坂本繁二郎（同）、褐釉流掛双耳火入 柳原焼（佐賀県立九州陶磁文化館）、染付草花文皿 朝妻焼（同）、藍被せガラス幾何学文デカンター（久留米市教育委員会）、久留米市指定文化財 弓曳き童子 田中久重作（同）、蒔絵秋野鹿図硯箱 藍胎漆器（同）、木綿地呉竹文布団表 久留米緋（（公財）久留米絣技術保存会）

総点数：200 点（重要文化財 2 件 13 点、県指定文化財 5 件 23 点、市指定文化財 6 件 6 点を含む）

図録：A4 版、128 頁、印刷部数 2,000 部、頒価 800 円

◎企画展示

元年度は、第 1 展示室の一部および第 2・4 展示室を会場として、5 回の企画展を実施した。企画展は、例年、学校教育支援を目的としたもの、文化財調査室が行う発掘速報展、館蔵品を紹介するコレクション展、第 1 展示室の約 3 分の 1 を使って行う大型の企画展というラインナップとなっている。元年度は、第 1 展示室が天井の耐震改修工事にともなって 10 月 11 日まで閉室だったため、企画展の回数が例年に比べて少なくなっている。

春には小学 6 年生の歴史学習を支援する第 49 回企画展「きゅうおにとタイムトラベラー大昔のくらしと国づくり」を開催した。これまで速報展として実施してきた文化財調査室担当の企画展については、今年度は当館に隣接し福岡県指定史跡である三沢遺跡の発掘調査が開始されることから第 50 回企画展「発掘成果展 2019－三沢遺跡と三国丘陵周辺の遺跡－」として、三沢遺跡をはじめ三国丘陵に所在する弥生時代の遺跡を紹介する展示を行った。

元年度に特徴的な企画展としては、当館が 26 年度より古賀市教育委員会と共同研究を行ってきた船原古墳出土品の研究成果展である第 51 回企画展「船原古墳の世界」や当館が長年にわたって収集してきた太宰府天満宮の境内絵図を太宰府天満宮所蔵品とあわせて紹介した第 54 回企画展「太宰府天満宮境内絵図－版画の絵図にみる江戸・明治－」などがある。

○第 49 回企画展「きゅうおにとタイムトラベラー 大昔のくらしと国づくり」

会期：31 年 3 月 18 日（火）～元年 7 月 15 日（月・祝）会場：第 2・4 展示室

内容：福岡の大昔の人たちは、どのような服を着たり、食べ物を食べたりしてくらしていたのか。また、日本の国はどのように形作られてきたのか。そのような大昔の歴史の疑問を、九州歴史資料館のイメージキャラクター・きゅうおにが、縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良時代をタイムトラベルをしながら探る展覧会である。

教育普及の観点を重視し、小学校高学年の歴史学習がより楽しく、わかりやすくなる展示とし、実物資料のほか、レプリカやイラストパネルを多用した結果、第 1 展示室では実践しにくかった、子どもたちにもわかりやすい展示を実践した例となった。

会期中には、小郡市内の小学校 6 年生の社会科見学の一環として、当館の利用が多数見られた。

なお、当展覧会は、平成 24 年度から毎年行っているが、昨年から古墳時代の章を新設し、これによって縄文時代から古代まで、通史で展示ができるようになった。

また、年度後半の令和 2 年 3 月 24 日（火）から、当企画展とほぼ同じ内容にて第 55 回企画展「きゅうおにとタイムトラベラー大昔のくらしと国づくり」を開催している（詳細は令和 2 年度年報に掲載予定）。会期中の入館者数は 9,694 名である。



きゅうおにとタイムトラベラーのポスター

○第 50 回企画展「発掘成果展 2019「三沢遺跡展と三国丘陵周辺の遺跡」

会期：元年 7 月 17 日（水）～ 10 月 6 日（月・祝）

会場：第 2・4 展示室

内容：当館では県内各地に所在する遺跡の発掘調査を継続的に実施しており、郷土の歴史を知る上で数々の成果を挙げている。平成 23 年度から毎年、前年度に行った発掘調査の成果を公開する企画展示「発掘速報展」を開催していたが、令和元年度は本年から実施する県指定史跡三沢遺跡の文化財調査についての周知および気運醸成のため、過去に実施した調査成果について実物資料およびパネルを展示するとともに、小郡市が実施した周辺遺跡の実物資料およびパネルの展示を行った。会期中の入館者数は 4,928 名である。

関連事業として、会期中の 7 月 26 日（金）に当館第 2 展示室においてタベのギャラリートークを実施し、15 名の参加を得た。

○第 51 回企画展「船原古墳の世界」

会期：元年 12 月 21 日（土）～令和 2 年 2 月 24 日（月）

主催：九州歴史資料館

会場：第 1 展示室（弥生～大宰府コーナー）

内容：平成 25 年 3 月、古賀市に所在する船原古墳に隣接して遺物埋納坑（1 号土坑）が発見された。これは土坑に古墳副葬品が埋納されるという国内初の発見であった。

その副葬品も、わが国初の発見である。金銅製歩揺付飾金具（雲珠）、ガラス装飾付辻金具・雲珠や、国内 3 例目で、九州初の馬冑など、貴重な発見が相次いだ。発見以後、当館は古賀市教育委員会と共同研究として、遺物の科学的調査や保存処理を進めており、徐々に成果を積みあげている。これら出土遺物は、豪華で種類、量が豊富であることなどから、学術的な評価が高く、発見以後、報道や TV 番組が企画。放映されるなど、広く一般県民にも注目されており、出土遺物の公開が待ち望まれているところである。

本展では、本年度でほぼ全ての種類のクリーニング作業が進捗したことを契機に、展示可能な実物を公開することで、これまでの研究成果を紹介し、船原古墳の理解を深めてもらった。

船原古墳出土遺物は、これまで当館の特集展示や古賀市歴史資料館で、一部、公開されていたが、船原古墳全体の出土遺物が一堂に会するのは、本展が初めてである。

なお、関連事業として、企画展関連イベント「VR 船原 - 船原古墳発掘現場を体感する -」を 1 月 12 日（日） 13:30 から 16:30 に開催した。これは、大量に遺物が埋納された遺物埋納坑（1 号土坑）の発見時の状態を VR で体感できるもので、本来、専門家しか入ることが許されない遺物埋納坑に入り、間近で出土した遺物を見ることができものである。当日は子供から大人まで 100 名が体験した。

○第 52 回企画展「炭都三池～「明治日本の産業革命遺産」企画展 2」

会期：元年 12 月 21 日（土）～2 年 1 月 26 日（日）

主催：「明治日本の産業革命遺産」福岡県世界遺産連絡会議

共催：九州歴史資料館、北九州市立自然史・歴史博物館、大牟田市石炭産業科学館

会場：九州歴史資料館 1 階 第 1 展示室（中世・近世・近代コーナー）

内容：「明治日本の産業革命遺産」は、近代日本の重工業分野の発展を示す世界文化遺産で、福岡県内



企画展発掘成果展 2019「三沢遺跡」ポスター



企画展「船原古墳の世界」配布カタログ

では官営八幡製鐵所や三池炭鉱が構成資産に含まれている。これについては30年度より、「明治日本の産業革命遺産」福岡県世界遺産連絡会議が主催となり、福岡県内の関連博物館等において巡回展が開催されてきた。

元年度においては、当館もこの巡回展に共催として参加し、企画展を開催した。三池炭鉱と、炭鉱が所在した大牟田の町に関する資料を展示し、福岡県と日本の近代に必要な役割を果たした炭都・三池について紹介した。会期中の入館者数は2,416名である。

なお会期中の2年1月19日（日）には記念講演会「世界遺産（石炭産業）「明治の三池と筑豊」」（講師：荻野喜弘九州大学名誉教授）を開催し、61名の参加があった。

○第53回企画展「甘木絞り」

会期：元年12月21日（火）～2年3月22日（日）

主催：九州歴史資料館（中世・近世・近代コーナー）

会場：第2・4展示室 ※第1展示室2年1月26日（土）まで 第2・4展示室2年3月22日（日）まで

内容：30年10月より第1展示室が改修工事のため、ほぼ1年にわたり常設展示が見ることができなかったが、そのリニューアルに際して、福岡県の工芸作品にスポットをあてた企画展として「甘木絞り」をとりあげた。甘木絞りは江戸時代後期ごろに誕生し、旧甘木市中心部で作られた絞り染めだが、昭和26年（1951）には廃絶してしまい、現在、その技術を残す人々も少なくなった。

そのような中で、現在、甘木絞りの技術を保存しようという連絡協議会が立ち上がり、その技術の保存に注目が集まっている。本展覧会では、第一展示室を中心に往時をしのぶ明治～昭和初期までの作品や製作工程がわかる資料（甘木歴史資料館所蔵品）と第2・4展示室にて現在技術を継承、学んでいる甘木絞り連絡協議会の方々の作品を1期から3期にわけて、あわせて60点ほど展示を行った。会期中の入館者数は2,416名である。なお、会期中の2年1月31日（金）にギャラリートークを行った。しかし、コロナウィルスによる感染拡大のため、会期途中で閉幕を余儀なくされた。甘木絞りでぬぐい作り体験やグッズの販売などもあわせて行う予定だったが、中止となった。

○第54回企画展「太宰府天満宮の境内絵図—さいふまいりの江戸・明治—」

会期：2年1月29日（水）～3月22日（日）※新型コロナウイルス感染拡大のため、2月28日（金）より中止

会場：第1展示室（中世・近世・近代コーナー）

内容：太宰府天満宮は、古くから現在にいたるまで広く信仰を集めているが、江戸時代、太宰府天満宮に参詣し周辺の名所を訪問することは「さいふまいり」と称され流行した。江戸時代後期から明治期にかけてさいふまいりに訪れた人々が持ち帰った参拝みやげのひとつに、一枚刷りの境内絵図がある。太宰府天満宮の境内を俯瞰し、時に周辺の名所を描き込むなどしたこれらの絵図は、時代によって木版、銅版、石版などの技法で制作されており、歴史資料としてはもちろん、絵画資料としても興味



企画展「炭都三池～「明治日本の産業革命遺産」企画展2」



企画展『甘木絞り』展示風景



企画展「太宰府天満宮の境内絵図—さいふまいりの江戸・明治—」展示風景

深いものである。本展では、太宰府委天満宮と九州歴史資料館が所蔵している 20 種の一枚刷りの境内絵図を一堂に展示し、さらに近世・近代の太宰府の様子を偲ぶことができる絵画作品もあわせて紹介した。展示総数は 28 件 32 点。近世・近代の太宰府天満宮とその周辺の様子を描いたものとしてその重要性は認識されつつも、まとめでの紹介がされたことはなかった版画の境内絵図が、初めて一堂に会する貴重な機会となったとともに、絵画を主軸とした展覧会の開催は当館初の試みともなった。会期中の入館者数は 2,214 名である。

なお、会期中の 2 月 15 日（土）には企画展開催記念講演会「さいふまいの名所の今昔」（講師：宮崎亮一氏（太宰府市教育委員会文化財課））を開催するとともに、当館学芸員によるギャラリートークも行い、78 名の参加者があった。2 月 28 日（金）に予定していたギャラリートークは、新型コロナウイルスの影響で中止となった。

◎パネル展

パネル展は、県内各地に残る多様な文化財を紹介し、またこれまで福岡県が行ってきた調査研究の成果を公開することを目的に、当館 2 階文化情報広場等において実施している。

元年度は、例年行っている西谷正名誉館長の写真展、福岡県内の鉄道遺産、保存科学機器による最新成果を紹介するパネル展などのほか、文化庁製作のパネルによる「記念物 100 年」も開催した。一方で、毎年行っていた筑紫地区文化財パネル展は、開催時期が新型コロナウイルス感染拡大に重なり、中止を余儀なくされた。また正面玄関右側の回廊では、三沢遺跡の紹介するパネル展も行っている。

○元年度パネル展「シルクロードの文化遺産（3）—海の道—」

会期：元年 6 月 18 日（火）～9 月 16 日（月・祝）

主催：九州歴史資料館

会場：九州歴史資料館 2 階 文化情報広場

内容：シルクロードはかつて、ユーラシア大陸の間で人・物・文化の交流を担った交通路である。この沿線地域には、数多くの遺跡や遺物など、歴史的に重要な文化遺産がある。シルクロードを通った文物や文化の中には、九州を経て日本へと伝わったものもあり、これらの文化遺産は、九州や日本の歴史・文化にも関連のあるものといえる。そしてこのシルクロードの文化遺産については、当館の西谷正名誉館長が長年研究を行い、数多くの写真も撮影されており、平成 28 年度以降パネル展「シルクロードの文化遺産」シリーズとして、2 回にわたり開催してきた。

シリーズ最終回の展示となった本展では、海の道を取り上げた。玄海灘の沖ノ島から始まり、朝鮮半島沿岸、中国沿岸を経て東南アジアの海沿いへと至る地域の文化遺産を取り上げ、遺跡や風景、また陶磁器生産地や沈没船からの出土品、そしてこれらの地域と日本、福岡県とのつながりを紹介した。会期中の入館者数は 5,188 名である。なお令和 2 年度「シルクロードの文化遺産」には西谷名誉館長写真による新シリーズ「邪馬台国への道」を予定して（3）—海の道—ポスター



○元年度パネル展「福岡鉄道遺産ものがたり 7～筑後地区編～」

会期：元年 9 月 18 日（火）～元年 12 月 15 日（日）

主催：九州歴史資料館

会場：九州歴史資料館 2 階 文化情報広場

内容：近代の福岡県では、濃密な鉄道網が形成され、戦前から数多くの鉄道施設も建設されてきた。これらの鉄道施設の中には、今なお「鉄道遺産」として現存しているものもある。これらは、近代におけ

る福岡県の交通を物語る貴重な文化遺産でもあり、当館ではこれまでも「福岡鉄道遺産ものがたり」シリーズとして、6回に渡り県内各地の鉄道遺産を紹介してきた。

シリーズ7回目の本展では、同年度特別展「久留米—その歴史と文化—」に合わせて、久留米を中心とする筑後地区の鉄道遺産を取り上げた。久留米を起点とする久大本線と、かつて筑後地区に縦横に延びていた鉄道・軌道の橋梁やトンネル、駅舎、さらに保存車両の写真を展示し、筑後地区の鉄道遺産と鉄道の歴史について紹介した。会期中の入館者数は8,976名である。

◎元年度パネル展「記念物 100 年」

会期：元年 12 月 17 日（火）～2 年 3 月 1 日（日）

主催：九州歴史資料館

会場：文化情報広場 2 階 文化情報広場

内容：令和元年度は、現在につながる記念物保護制度が施行されてから 100 周年にあたる。文化庁ではこれを記念して「記念物 100 年」展のパネルデータを作成し、全国各地の自治体や博物館等に広くパネル展の開催を募集した。当館もこれに応募し、文化庁製作の記念物に関するパネルを印刷、展示したものである。史跡、名勝、天然記念物について、主なものの大型写真や過去と現在との対比写真、記念物を守るための各地の取り組みを紹介した。

なお、本来は令和 2 年 3 月 1 日まで開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により、2 月 27 日を以て当館が臨時休館となったため、その時点で展示中止となった。

◎元年度パネル展 平成 30 年度筑紫地区文化財写真展「ちくし再発見～ぶらり、古墳めぐり～」

会期：元年 3 月 3 日（火）～3 月 15 日（日）※中止

主催：筑紫地区社会教育振興協議会 文化財部会

共催：九州歴史資料館・九州国立博物館

会場：九州歴史資料館 2 階 文化情報広場

内容：筑紫地区文化財写真展は、筑紫地区（大野城市・春日市・太宰府市・筑紫野市・那珂川市）の文化財を紹介すべく、毎年実施される巡回パネル展である。今回のパネル展では、「ぶらり、古墳めぐり」をテーマとし、筑紫地区の古墳について紹介する予定であったが、開催直前に新型コロナウイルスの感染拡大が発生して臨時休館となり、開催中止となった。

◎関連展示

◎関連展示「大宰府と万葉集—大伴旅人・家持と梅花の宴—」

会期：令和元年 4 月 9 日（火）～10 月 6 日（日）

会場：第 2・4 展示室

内容：4 月 29 日の新元号「令和」決定記念特別講座「大宰府と万葉集—大伴旅人・家持と梅花の宴」（講師：当館学芸員 松川博一）の開催に合わせて、その内容に関わる大宰府史跡出土資料を展示した。新元号「令和」が天平 2 年（730）に大宰府で催された大伴旅人主催の「梅花の宴」歌群の序文を出典と



「福岡鉄道遺産ものがたり 7 ～筑後地区編～」ポスター



「記念物 100 年」展示状況



関連展示「大宰府と万葉集—大伴旅人・家持と梅花の宴—」の様子

することから、その舞台となった大伴旅人邸の所在地についての三つの説を紹介し、その候補地である坂本八幡宮周辺(後背地区官衙跡)や月山東官衙跡から出土した土器や硯などを展示した。あわせて、「令和」の出典となった西本願寺本万葉集(複製)のほか、大伴旅人・山上憶良が歌に詠んだ大野山(大野城跡)や水城跡の鬼瓦などの出土品も紹介した。当初は6月9日までの会期であったが、テレビ・新聞をはじめ反響が大きかったため会期を延長した。

○県庁ロビー展示「祝 新元号「令和」 令和のふるさと 福岡県」

会期：令和元年4月22日(月)～5月10日(金)

会場：福岡県庁 県民ロビー

内容：新元号が福岡県ゆかりの「令和」に決定したことを祝して、「令和のふるさと 福岡県」をテーマとしたパネル展を県庁で実施することになったことから、九州歴史資料館としてパネル原稿の作成や文化財写真の提供などで協力をした。「新元号「令和」の出典 万葉集とは?」「「梅花の宴」の行われた大伴旅人邸はどこ?」などの問いに答えるような形で県民にわかりやすい内容になるように努めた。あわせて、大宰府研究の拠点である九州歴史資料館と開催中の関連展示「大宰府と万葉集―大伴旅人・家持と梅花の宴―」を紹介した。また、大宰府政庁跡出土の鬼瓦のレプリカを持ち込み、ハンズオン展示も行った。

(3) 資料利用

本館では、他機関の展示のため所蔵資料の貸出を行っている。考古資料のほか、文書資料、写真資料も貸出しており、平成31・令和元年度においては以下のとおり利用があった。また、他機関や学生による資料調査などの一時利用を受け入れており、平成25年度から、土日の閲覧希望にも、基本的に対応するようになった。平成31・令和元年度の実績は考古資料貸出49件、同一時利用62件(延べ79日間)、写真資料貸出・掲載許可120件、文書・典籍資料貸出9件、同一次利用43件である。

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	九州国立博物館	3点	門田遺跡出土鉄戈等	「海の道、アジアの路」(平常展)の展示のため	31.4.9-9.3
2	“福岡市経済活用文化局文化財活用部 史跡整備活用課”	33点	『史跡福岡城 発掘調査概報』図面等	史跡福岡城跡および鴻臚館跡の発掘調査のため	31.4.23-1.5.31
3	荒神谷博物館	13件	浜山遺跡B地点出土有鉤銅釦鏃型(破片)等	特別展「ムナカター海の民のクニー」の展示のため	1.7.4-1.9.4
4	行橋市歴史資料館	5点	辻垣ヲサマル遺跡大溝出土土製模造鏡等	「豊穰の祈り―瀬祓い神事―」の展示のため	1.6.18-10.25
5	小郡市埋蔵文化財調査センター	1点	大宰府史跡出土宝篋印塔基礎石	「～九州南北朝最大の合戦～大原合戦展」の展示のため	1.7.11-8.19
6	太宰府市文化ふれあい館	3点	大野城跡出土瓦等	「まるごと太宰府歴史展2019」の展示のため	1.7.26-1.11.7
7	小郡市埋蔵文化財調査センター	1点	薬師堂遺跡出土刻骨	「動物の考古学」の展示のため	1.9.5-2.1.24
8	新修宗像市史編集委員会	2点	古野A1号墳出土丸玉他	調査研究のため	1.9.5-13
9	吉野ヶ里歴史公園	45件	辻垣ヲサマル遺跡出土土器他	「倭人伝のクニを探るⅠ―邪馬台国と豊の国・豊前―」	1.9.10-1.11.19

10	行橋市歴史資料館	60 点	延永ヤヨミ園遺跡出土土器他	特別展「山城と武士の歴史」の展示のため	1. 9. 25-12. 25
11	千葉県立房総のむら資料館	1 点	銀冠塚出土銀冠レプリカ	企画展「龍角寺古墳群とその時代」の展示のため	1. 9. 25-12. 18
12	宮崎県立西都原考古博物館	13 点	大宰府政庁周辺官衙出土須恵器他	企画展「漆黒の輝き 赤の祈り ～ウルシの考古学」	1. 12. 18-2. 3. 18
13	九州国立博物館	17 点	牛頸窯跡群出土須恵器他	「海の道、アジアの路」(平常展)の展示のため	1. 12. 19-2. 5. 21
14	伊都国歴史博物館	3 点	奈良尾遺跡出土埴仏他	企画展「糸島仏」の展示のため	2. 1. 20 - 2. 3. 18
15	九州国立博物館	14 点	観世音寺出土瓦他	特集展示「筑紫の神と仏」の展示のため	2. 3. 5-2. 9. 15
16	大野城心のふるさと館	36 点	大野城跡出土刻書柱痕等	「再々発見！古代山城と水城・大野城」の展示のため	30. 11. 1-31. 1. 23
17	古代歴史文化協議会九州国立博物館	6 点	古野 A1 号墳出土丸玉等	「玉ー古代を彩る至宝ー」の展示のため	30. 10. 9-31. 3. 8
18	大宰府展示館	22 点	大宰府政庁跡出土瓦等	「大宰府史跡発掘 50 年記念展 大宰府史跡ものがたり」の展示のため	30. 11. 7-31. 1. 9
19	文化庁	21 点	大宰府出土木簡	指定調査のため	31. 1. 18-5. 17
20	大宰府展示館	11 点	大宰府政庁跡出土瓦等	常設展示のため	
21	太宰府市文化ふれあい館	13 点	大宰府政庁跡出土瓦等	「碑帖辿歴ー拓本で紡ぐ史跡のかたち」	31. 3. 26-
22	国立科学博物館	19 点	西新町遺跡出土ガラス小玉等	「ビーズー自然をつなぐ、世界をつなぐー」	31. 4. 2-
23	那珂川町教育委員会	一式	国境石垣写真	五ヶ山ダムの便益施設等に設置する遺跡の解説看板に使用するため	30. 1. 16-30. 3. 31
24	須恵町教育委員会	一式	一の浦遺跡および篠堀遺跡出土遺物、写真および図面	資料調査のため	30. 3. 1-30. 3. 31

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	九州国立博物館	3 点	門田遺跡出土鉄戈等	「海の道、アジアの路」(平常展)の展示のため	31. 4. 9-9. 3
2	“福岡市経済活用文化局文化財活用部史跡整備活用課”	33 点	『史跡福岡城 発掘調査概報』図面等	史跡福岡城跡および鴻臚館跡の発掘調査のため	31. 4. 23-1. 5. 31
3	荒神谷博物館	13 件	浜山遺跡 B 地点出土有鉤銅釧鑄型(破片)等	特別展「ムナカター海の民のクニー」の展示のため	1. 7. 4-1. 9. 4
4	行橋市歴史資料館	5 点	辻垣ヲサマル遺跡大溝出土土製模造鏡等	「豊穰の祈りー瀬祓い神事ー」の展示のため	1. 6. 18-10. 25
5	小郡市埋蔵文化財調査センター	1 点	大宰府史跡出土宝篋印塔基礎石	「～九州南北朝最大の合戦～大原合戦展」の展示のため	1. 7. 11-8. 19

6	太宰府市文化ふれあい館	3 点	大野城跡出土瓦等	「まると太宰府歴史展 2019」の展示のため	1. 7. 26-1. 11. 7
7	小郡市埋蔵文化財調査センター	1 点	薬師堂遺跡出土刻骨	「動物の考古学」の展示のため	1. 9. 5-2. 1. 24
8	新修宗像市史編集委員会	2 点	古野 A 1 号墳出土丸玉他	調査研究のため	1. 9. 5-13
9	吉野ヶ里歴史公園	45 件	辻垣ヲサマル遺跡出土土器他	「倭人伝のクニを探る I - 邪馬台国と豊の国・豊前 -」	1. 9. 10 - 1. 11. 19
10	行橋市歴史資料館	60 点	延永ヤヨミ園遺跡出土土器他	特別展「山城と武士の歴史」の展示のため	1. 9. 25-12. 25
11	千葉県立房総のむら資料館	1 点	銀冠塚出土銀冠レプリカ	企画展「龍角寺古墳群とその時代」の展示のため	1. 9. 25-12. 18
12	宮崎県立西都原考古博物館	13 点	大宰府政庁周辺官衙出土須恵器他	企画展「漆黒の輝き 赤の祈り ～ウルシの考古学」	1. 12. 18-2. 3. 18
13	九州国立博物館	17 点	牛頸窯跡群出土須恵器他	「海の道、アジアの路」(平常展)の展示のため	1. 12. 19-2. 5. 21
14	伊都国歴史博物館	3 点	奈良尾遺跡出土埴仏他	企画展「糸島仏」の展示のため	2. 1. 20 - 2. 3. 18
15	九州国立博物館	14 点	観世音寺出土瓦他	特集展示「筑紫の神と仏」の展示のため	2. 3. 5-2. 9. 15
16	大野城心のふるさと館	36 点	大野城跡出土刻書柱痕等	「再々発見！古代山城と水城・大野城」の展示のため	30. 11. 1-31. 1. 23
17	古代歴史文化協議会 九州国立博物館	6 点	古野 A1 号墳出土丸玉等	「玉ー古代を彩る至宝ー」の展示のため	30. 10. 9-31. 3. 8
18	大宰府展示館	22 点	大宰府政庁跡出土瓦等	「大宰府史跡発掘 50 年記念展 大宰府史跡ものがたり」の展示のため	30. 11. 7-31. 1. 9
19	文化庁	21 点	大宰府出土木簡	指定調査のため	31. 1. 18-5. 17
20	大宰府展示館	11 点	大宰府政庁跡出土瓦等	常設展示のため	
21	太宰府市文化ふれあい館	13 点	大宰府政庁跡出土瓦等	「碑帖辿歴ー拓本で紡ぐ史跡のかたち」	31. 3. 26-
22	国立科学博物館	19 点	西新町遺跡出土ガラス小玉等	「ビーズー自然をつなぐ、世界をつなぐー」	31. 4. 2-
23	那珂川町教育委員会	一式	国境石垣写真	五ヶ山ダムの便益施設等に設置する遺跡の解説看板に使用するため	30. 1. 16-30. 3. 31
24	須恵町教育委員会	一式	一の浦遺跡および篠堀遺跡出土遺物、写真および図面	資料調査のため	30. 3. 1-30. 3. 31

考古資料の貸出一覧（長期）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	京都国立博物館	4 点	甕棺	展示等利活用のため	1. 7. 1-4. 6. 30
2	京都国立博物館	1 点	筑後石人山石棺石膏製模型	展示等利活用のため	29. 1. 1-2. 12. 31
3	大韓民国国立羅州文化財研究所	1 点	道場山遺跡甕棺	常設展示のため	29. 2. 1-2. 1. 31

4	九州国立博物館	269 件	門田遺跡出土細石刃等	文化交流展示室展示等のため	31. 4. 1-2. 3. 31
5	国立歴史民俗博物館	9 点	広田遺跡出土浅鉢・深鉢等	総合展示のため	31. 4. 1-2. 3. 31
6	岩手県立博物館	4 点	永岡遺跡・牟田々遺跡出土土器、永岡遺跡甕棺	展示及び調査研究のため	31. 4. 1-2. 3. 31
8	粕屋総合庁舎	20 点	箱崎遺跡出土資料	展示ケース展示のため	31. 4. 1-2. 3. 31
9	甘木歴史資料館	42 件	高原遺跡・立野遺跡・天園遺跡・冶部ノ上遺跡・楠田遺跡・上の原遺跡・才田遺跡・菩提寺古墳群・仙道古墳・真奈板遺跡・観音塚古墳・湯の隈古墳出土資料	常設展示のため	31. 4. 1-2. 3. 31
10	求菩提資料館	10 点	銅製経筒・草花双鳥鏡・蓬莱鏡	常設展示のため	31. 4. 1-2. 3. 31
11	福岡市博物館	2 点	西新町遺跡出土土器	常設展示のため	31. 4. 1-2. 3. 31
12	老司公民館	6 点	大宰府史跡出土瓦	展示ケース展示のため	31. 4. 1-2. 3. 31
13	古都大宰府保存協会	40 点	大宰府史跡出土資料	大宰府展示館常設展示のため	31. 4. 1-2. 3. 31
14	大野城市牛頸ダム記念館	”104 点 8 点”	”牛頸須恵器窯跡出土資料牛頸須恵器窯跡写真パネル”	牛頸ダム記念館における展示のため	31. 4. 1-2. 3. 31
15	筑紫野市歴史博物館	108 点	剣塚遺跡・剣塚 3 号墳・道場山遺跡・萩原遺跡・八隈遺跡・峠山遺跡出土資料	常設展示のため	31. 4. 1-2. 3. 31
16	直方市教育委員会	72 点	内ヶ磯窯跡出土陶器	直方市美術館別館展示のため	31. 4. 1-2. 3. 31
17	古賀市教育委員会	19 点	水上遺跡・太田町遺跡・川原庵山 8 号墳・久保長崎遺跡出土資料	古賀市歴史資料館展示のため	31. 4. 1-2. 3. 31
18	春日市教育委員会	6 点	伯玄社遺跡・柏田遺跡・御供田遺跡出土品・伝昇町出土鏡片	常設展示のため	31. 4. 1-2. 3. 31
19	伊都国歴史博物館	246 点	三雲南小路遺跡出土資料等	展示等利活用のため	31. 4. 1-2. 3. 31
20	八女市教育委員会	1 点	真浄寺古墳出土短甲 2 号	岩戸山歴史資料館常設展示のため	31. 4. 1-2. 3. 31
21	小郡市埋蔵文化財調査センター	”262 箱 一式”	”津古内畑遺跡第 3, 4, 5 次調査出土資料津古内畑遺跡第 3, 4, 5 次調査図面及び写真”	報告書作成のため	31. 4. 1-2. 3. 31

22	筑前町教育委員会	177 箱	依井遺跡・堂の浦遺跡・君ヶ原遺跡・大刀洗病院遺跡・高上遺跡・仙道古墳群・仙道古墳出土資料	筑前町歴史民俗資料館等で利活用のため	31. 4. 1-2. 3. 31
23	粕屋町歴史資料館	76 箱	駕与丁池遺跡・辻畑遺跡・西尾山古墳群・脇田山古墳・井山古墳群出土資料	展示等利活用のため	31. 4. 1-2. 3. 31
24	香春町教育委員会	84 点	陣山屋敷遺跡・湯無田遺跡・古坊遺跡出土資料	町民センター歴史資料室展示のため	31. 4. 1-2. 3. 31
25	みやこ町教育委員会	23 点	徳永川ノ上遺跡・鋤先遺跡・居屋敷遺跡出土資料	みやこ町歴史民俗博物館常設展示のため	31. 4. 1-2. 3. 31
26	鞍手町教育委員会	10 件	銀冠塚古墳・神崎遺跡・古門窯跡・新北向山遺跡・新北高木遺跡・音丸城跡・段ノ上遺跡・中屋敷遺跡・八尋旭古墳・新延貝塚出土資料	鞍手町歴史民俗資料館等で利活用のため	31. 4. 1-2. 3. 31
27	篠栗町教育委員会	117 点	高田遺跡・トラノ尾遺跡・塚元遺跡出土資料	篠栗町歴史民俗資料室展示のため	31. 4. 1-2. 3. 31
28	須恵町教育委員会	419 点	乙植木古墳群出土資料	須恵町歴史民俗資料館展示のため	31. 4. 1-2. 3. 31
29	福津市教育委員会	78 点	津屋崎古墳群出土資料等	福津市歴史資料館展示のため	31. 4. 1-2. 3. 31
30	筑波大学	一括	立明寺古墳群出土資料	大学における教育等に活用するため	31. 4. 1-2. 3. 31
31	太宰府館	9 点	大宰府史跡出土瓦	太宰府館における展示のため	31. 4. 1-2. 3. 31
32	宮城県多賀城跡調査研究所	23 点	大宰府政庁跡出土磁器	時期の産地・年代同定する参考資料にするため	31. 4. 1-2. 3. 31
33	埼玉県立歴史と民俗の博物館	2 点	永岡遺跡出土甕棺上下甕	常設展示のため	30. 9. 1-1. 8. 31
34	栃木県立博物館	2 点	門田遺跡、甕棺上下甕	常設展示のため	30. 10. 1-1. 9. 30

考古資料の一時利用（資料見学等）

番号	利用者（機関）	点数	利用資料名	利用目的	利用日
1	うきは市教育委員会	2 点	仁右衛門畑遺跡Ⅰ出土須恵器等	報告書作成のため	31. 4. 9
2	荒神谷博物館	24 点	浜山遺跡 B 地点出土有鉤銅釧鑄型（破片）等	特別展「ムナカター海の民のクニー」の展示のため	31. 4. 17

3	“福岡市経済活用文化局文化財活用部史跡整備活用課”	一式	史跡福岡城跡出土瓦等	史跡福岡城跡および鴻臚館跡の発掘調査のため	31. 4. 23
4	個人	7 点	三雲遺跡出土鉄剣等	調査研究のため	31. 4. 23
5	個人	28 点	西新町遺跡出土石製品等	調査研究のため	1. 5. 4-5. 5
6	千葉県立房総のむら風土記の丘資料館	一式	銀冠塚出土銀製天冠等	展示のための資料調査	1. 5. 5
7	個人	13 件	唐人塚遺跡出土勾玉等	調査研究のため	1. 5. 8
8	奈良県立橿原考古学研究所	5 点	若八幡宮古墳出土三角縁二神二獣鏡等	調査研究のため	1. 5. 19
9	吉野ヶ里歴史公園	46 点	辻垣ヲサマル遺跡出土壺等	展示のための資料調査	1. 6. 4
10	個人	33 点	川原庵山遺跡出土鉄製品等	論文作成のため	1. 6. 4
11	個人	2 点	辻垣長通遺跡出土土製品等	調査研究のため	1. 6. 8
12	個人	30 点	三雲遺跡出土石杵等	調査研究のため	1. 6. 9
13	個人	17 点	十双遺跡出土石製品等	調査研究のため	1. 6. 11・12・14
14	個人	16 点	塚元 1 号墳出土鉄製品等	調査研究のため	1. 6. 14
15	個人	一式	鈴ヶ山 2 号墳出土鉄器等	論文作成のため	1. 6. 15
16	個人	19 点	三雲遺跡出土石製品等	調査研究のため	1. 6. 15-6. 16
17	個人	1 点	延永ヤヨミ園遺跡出土鉄製品	調査研究のため	1. 6. 19
18	個人	6 点	砥上上林遺跡出土陶磁器	調査研究のため	1. 6. 20
19	個人	21 点	三雲遺跡出土石製品等	調査研究のため	1. 6. 22-6. 23
20	個人	36 点	貝元遺跡出土石製品等	調査研究のため	1. 6. 25・26・28・29
21	宮崎県立西都原考古博物館	14 点	太宰府史跡出土木簡等	展示のための資料調査	1. 6. 25
22	個人	31 点	西新町遺跡出土石製品	調査研究のため	1. 7. 5
23	行橋市歴史資料館	63 点	延永ヤヨミ園遺跡出土土器等	展示のための資料調査	1. 7. 12
24	個人	5 点	御笠川南条坊遺跡出土石製品等	調査研究のため	1. 8. 28
25	個人	12 点	大宰府史跡出土鬼瓦他	調査研究のため	1. 9. 17
26	個人	1 点	観世音寺出土漆紙文書	調査研究のため	1. 9. 18
27	個人	9 点	曲り田遺跡出土石製品等	調査研究のため	1. 9. 27
28	個人	50 点	十双遺跡出土石製品等	調査研究のため	1. 9. 28
29	個人	50 点	十双遺跡出土石製品等	調査研究のため	1. 10. 12-14
30	個人	59 点	十双遺跡出土石製品等	調査研究のため	1. 10. 19
31	個人	61 点	十双遺跡出土石製品等	調査研究のため	1. 10. 22
32	個人	235 点	大宰府史跡出土鑄造関連遺物等	調査研究のため	1. 10. 29
33	個人	61 点	十双遺跡出土石製品等	調査研究のため	1. 10. 29
34	個人	7 点	大宰府史跡出土土製地蔵等	調査研究のため	1. 10. 29
35	個人	2 点	大宰府史跡出土土製仏頭等	調査研究のため	1. 11. 7

36	個人	67 点	十双遺跡出土石製品等	調査研究のため	1. 11. 10
37	個人	一式	上町遺跡・本町遺跡出土 銭貨	調査研究のため	1. 11. 11
38	個人	5 点	田中幸夫資料銅鏡	調査研究のため	1. 11. 20
39	個人	8 点	貝元遺跡出土石製品等	調査研究のため	1. 11. 21
40	個人	1 点	田中幸夫資料鈴釧	論文作成のため	1. 11. 22
41	個人	一式	勝浦井ノ浦古墳出土馬具 等	調査研究のため	1. 11. 27
42	個人	一式	勝浦峯ノ畑古墳出土ガラ ス玉	調査研究のため	1. 12. 16-20
43	個人	149 点	内ヶ磯窯跡出土陶器等	論文作成のため	1. 12. 2
44	個人	13 点	三雲遺跡出土石製品等	調査研究のため	1. 12. 12・20
45	個人	2 点	門田遺跡出土鉄製品等	調査研究のため	1. 12. 15
46	個人	4 点	門田遺跡出土鉄製品等	調査研究のため	1. 12. 16
47	個人	1 点	乙植木 2 号墳出土須恵器	調査研究のため	1. 12. 26
48	個人	100 点	曲り田遺跡出土土器等	調査研究のため	2. 1. 8
49	長野県立歴史館	74 点	三雲南小路遺跡出土銅鏡 等	展示のための資料調査	2. 1. 18
50	個人	2 点	観世音寺出土瓦等	調査研究のため	2. 2. 17-18
51	個人	5 点	山田 1 号墳出土襴玉等	調査研究のため	2. 2. 18
52	個人	一式	新原・奴山第 41 号墳（勝 浦峯ノ畑古墳）出土玉等	調査研究のため	2. 2. 20
53	九州国立博物館	7 点	宗原遺跡出土石器等	展示のための資料調査	2. 2. 21
54	個人	一式	高崎 2 号墳出土鉄製品等	論文作成のため	2. 2. 24
55	韓国文化財研究所	一式	原遺跡出土土器等	調査研究のため	2. 2. 24
56	熊本市熊本城調査研究 センター	20 点	矢加部町屋敷出土瓦	調査研究のため	2. 2. 25
57	兵庫県立考古博物館	3 点	伯玄社遺跡出土石器	展示のための資料調査	2. 2. 28
58	個人	18 点	以来尺遺跡出土石製品 他	調査研究のため	2. 3. 24-25
59	個人	1 点	仁右衛門畑遺跡Ⅱ出土土 器	報告書作成のため	2. 3. 24
60	大野城市心のふるさと 館	10 点	雨窪前田遺跡群出土銭 他	展示のための資料調査	2. 3. 24
61	個人	50 点	汐井掛遺跡出土玉 他	調査研究のため	2. 3. 25
62	個人	50 点	徳永川ノ上遺跡出土玉 他	調査研究のため	2. 3. 26

文書・典籍資料の貸出一覧（長期）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	筑豊高等学校	223 点	筑豊工業高校資料	資料室における展示	2・4・1-3・3・31
2	福岡県青少年科学館	90 点	筑豊工業高校資料	常設展示	2・4・1-3・3・31
3	九州国立博物館	1 点	筑豊工業高校資料	常設展示	2・4・1-3・3・31

文書・典籍資料の貸出一覧（短期）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	菊池川二千年の歴史と名 宝実行委員会（熊本県立 美術館）	3 点	五条家文書	「日本遺産認定記念 菊池川 二千年の歴史 菊池一族の戦 いと信仰」展における展示	元 . 7. 19- 元 . 9. 1

2	太宰府市文化ふれあい館	1点	原山無量寺古図（複製）	「まるごと太宰府歴史展2019」展における展示	元 . 8 . 3 - 元 . 11. 3
3	福岡県教育庁筑豊教育事務所	7点	筑豊工業高校資料	展示のため	元 . 10. 1 - 2. 3. 31
4	「明治日本の産業革命遺産」福岡県世界遺産連絡会議（福岡県世界遺産室）	2点	絵葉書・永江文書	「炭都・三池～「明治日本の産業革命遺産」企画展2～」における展示	元 . 11. 16 - 2. 3. 22
5	大牟田市立三池カルタ・歴史資料館	11点	伊東尾四郎文書	企画展「石炭と三池藩一石炭発見一」	元 . 12. 17 - 2. 3. 22
6	太宰府市文化ふれあい館	2点	永江文書・地図絵図史料	「太宰府と鉄道展～想いをつなぐ時間旅行」における展示	2. 4. 1 - 2. 7. 19

文書・典籍資料等の一時利用（資料見学等）

番号	利用者（機関）	点数	利用資料名	利用目的	利用日
1	個人	3点	福岡藩関係史料（紙焼）	調査研究	31. 4. 2 - 31. 4. 11
2	筑紫女学園大学	102点	福岡日日新聞・九州日報（紙焼）	調査研究	31. 4. 2 - 2. 2. 23
3	個人	8点	地図絵図史料	調査研究	31. 4. 7
4	西日本文化協会	3点	永江文書	調査研究	31. 4. 13
5	個人	13点	野田大塊文書	調査研究	31. 4. 21
6	個人	1点	日本紡績協会所蔵資料（紙焼）	調査研究	元 . 5. 19
7	個人	1点	福岡藩関係資料	調査研究	元 . 5. 22
8	個人	84点	野田大塊文書・永江文書	調査研究	元 . 5. 22 - 元 . 5. 23
9	新修宗像市史編さん委員会	71点	福岡日日新聞・福陵新報・西日本新聞・九州日報（紙焼）	市史編纂	元 . 5. 24 - 2. 2. 24
10	宇美町	21点	糟屋郡史編纂史料・永江文書	町誌編纂	元 . 6. 2 - 元 . 10. 2
11	福岡大学考古学研究室	2点	林（美）文書	調査研究	元 . 6. 8
12	個人	1点	藤井（甚）文書	調査研究	元 . 6. 16
13	長崎大学	1点	筑紫新聞	調査研究	元 . 6. 18
14	仙台高等専門学校	7点	永江文書・地図絵図史料・林（美）文書	調査研究	元 . 6. 23
15	京都府立大学大学院	5点	林（美）文書・福岡藩関係史料	調査研究	元 . 7. 7
16	個人	5点	福岡藩関係史料	調査研究	元 . 7. 24
17	個人	5点	福岡藩関係史料	調査研究	元 . 8. 4
18	九州大学大学院	127点	松村（ム）文書・林（美）文書・高島文書・足立文書・羽野文書・川島文書・アーカイブズ間の連携に関する研究—アナログとデジタル—（図書）	調査研究	元 . 8. 6 - 元 . 8. 21
19	九州産業大学商学部	23点	瀬高酒造合資会社資料・永江文書・福岡日日新聞・福岡県酒造組合沿革史（図書）・西日本新聞	市史編纂	元 . 8. 7 - 元 . 8. 8
20	個人	1点	米多比（善）文書（紙焼）	調査研究	元 . 8. 12
21	個人	41点	糟屋郡史編纂史料・福岡藩関係資料・御笠郡土木資料仮目録	調査研究	元 . 9. 16

22	立命館大学	125 点	野田大塊文書・永江文書・福岡日日新聞・西日本新聞社史（図書）・西日本新聞百年史（図書）	調査研究	元 . 9. 18- 元 . 9. 19
23	大野城市教育委員会	1 点	福岡日日新聞	調査研究	元 . 10. 14
24	大牟田市立三池カルタ・歴史資料館	45 点	伊東尾四郎文書	展示準備	元 . 11. 7
25	個人	2 点	福岡藩関係資料・水城文書	調査研究	元 . 11. 9- 元 . 11. 22
26	個人	8 点	野田大塊文書	調査研究	元 . 11. 9
27	大刀洗町立図書館	2 点	後藤（健）所蔵史料（紙焼）	調査研究	元 . 11. 12
28	個人	1 点	岸田文書	調査研究	元 . 11. 17
29	九州大学	1 点	絵葉書	調査研究	元 . 11. 20
30	篠栗町教育委員会	2 点	糟屋郡史編纂史料	調査研究	元 . 11. 30
31	九州産業大学	26 点	林（美）文書	調査研究	元 . 12. 3
32	同志社大学経済学部	1 点	林（道）文書（紙焼）	調査研究	元 . 12. 7
33	筑紫女学園大学人間文化研究所	21 点	鳥居文書	調査研究	元 . 12. 15-2. 1. 5
34	柳川古文書館	12 点	永江文書・九州文化史研究所紀要 44 号（図書）	市史編纂	元 . 12. 26
35	日田市教育庁世界遺産推進室	7 点	福岡日日新聞	調査研究	2. 1. 29
36	九州大学附属図書館	48 点	福岡藩関係史料	調査研究	2. 2. 1
37	個人	7 点	福岡藩関係史料・福岡県史編纂史料	調査研究	2. 2. 8
38	個人	17 点	安高文書	調査研究	2. 2. 8-2. 2. 24
39	九州大学	13 点	有田（建）文書	調査研究	2. 2. 14
40	国士舘大学文学部	9 点	野田大塊文書	調査研究	2. 2. 14
41	茨城大学教育学部	7 点	花瀬村庄屋文書・園田文書・野田大塊文書・鍵水文書・永江文書・柳川古文書館刊行の史料目録（図書）	調査研究	2. 2. 15
42	個人	11 点	農業関係資料	調査研究・市史編纂	2. 2. 19
43	個人	1 点	福岡県管内絵図（データ）	調査研究	2. 2. 24

写真資料等の貸出・掲載許可一覧

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
1	朝日新聞出版 週刊朝日編集部	2	桂川王塚古墳石室 他	『週刊朝日』5月28日号掲載
2	福岡県立アジア文化交流センター	5	九州歴史資料館建物外観 他	文化交流展示看板掲載
3	福岡県立公文書館	1	福岡市鳥瞰図	エントランスでの看板掲載
4	西日本リビング新聞社	1	九州歴史資料館建物外観	リビング福岡4月26日号掲載
5	TVQ九州放送	2	王塚古墳石室玄室前壁 他	番組「ちょっと福岡行ってきました！」再放送放映

6	(株) NHK 文化センター札幌支社	3	西本願寺万葉集 複製他	講演『「令和」と大宰府－大友旅人・家持と梅花の宴－』の募集広告に掲載
7	(株) NHK 文化センター福岡総支社	1	西本願寺万葉集 複製他	講演『「令和」と大宰府－大友旅人・家持と梅花の宴－』の募集広告掲載
8	(株) 第一法規	1	筑前大宰府水城の一部切堀図	『月刊文化財』7月号掲載
9	(株) はる制作室	1	大宰府政庁復元模型	『TJMOOK 最新調査でわかった日本の古代完全保存版』掲載
10	(株) ネクサス	1	王塚古墳石室写真	番組「にっぽん！歴史鑑定」放映
11	荒神谷博物館	8	汐井掛遺跡全景（西北から） 他	特別展「ムナカタ－海の民のクニ－」図録・パネル掲載
12	(株) KADOKAWA	1	西新町遺跡出土朝鮮半島系土器	『朝鮮半島の前方後円墳（仮）』掲載
13	西日本文化協会	1	金鉾試掘地図（宗像郡吉武村）〈地域史収集資料 1549-9〉	『西日本文化』491号掲載
14	西日本文化協会	2	『八幡製鉄所労働運動誌』原稿 他	『西日本文化』491号掲載
15	熊本県立装飾古墳館	3	大宰府史跡出土老司Ⅰ式軒丸・軒平瓦 他	企画展「いにしへの蓮の装飾」～蓮華文をたどる～パネル掲載
16	(株) ベストセラーズ	2	徳永川ノ上遺跡出土鉄剣 他	『保存版 日本と天皇のはじまりを知る 古代史の謎』掲載
17	(株) 吉川弘文館	2	井上薬師堂遺跡出土木簡 他	『新しい古代史2 文字文化の広がり』掲載
18	NHK 福岡放送局	21	西新町遺跡出土石製品 他	『時論公論』放送
19	(株) VSQ	2	大野城跡太宰府口城門イラスト 他	『もち浜S特報ライブ』放送
20	個人	2	野田卯太郎文書	個人研究
21	戎光祥出版(株)	1	弓張岳砦と岩石城遠景	『戦国武士の履歴書』掲載
22	九州テレ・コミュニケーションズ(株)	3	推定金光寺出土火葬骨壺 他	情報番組『2755』にて放映
23	(株) グレイル	1	大宰府政庁復元模型	『地形と海路から解き明かす！あなたの知らない古代史／ハンディ版』
24	一般社団法人 国際文字文化検定協会	1	三雲南小路遺跡出土鏡	『文字文化を先人に学ぶ 文字だ！（第38号）』掲載
25	西日本文化協会	1	福岡藩関係資料No.470〔大阪陣大 屏風仕立覚書〕	『西日本文化』492号掲載
26	大学情報センター(株)	1	大野城と基肄城	高校卒業程度認定試験問題ウェブサイト掲載
27	吉野ヶ里公園管理センター	5	周防灘上空から行橋市街地を見る 他	特別企画展『よみがえる邪馬台国』展示掲載
28	NHK 福岡放送局	16	西新町遺跡出土石製品 他	『時論公論』放送

29	九州テレ・コミュニケーションズ（株）	8	大宰府史跡出土円面硯	情報番組『2755』にて放映
30	斎宮歴史博物館		大宰府政庁跡全景 他	連携公開講座『西の都・大宰府と沖ノ島 東の都・斎宮と伊勢神宮』掲載
31	個人	1	野田卯太郎文書	個人研究
32	（株）グレイル	1	三雲南小路遺跡出土ガラス製垂飾と硬玉勾玉	『いまこそ知りたい天皇と日本の始まり』掲載
33	福岡県地方史研究連絡協議会	5	永江文書 他	『地域史福岡』166号掲載
34	個人	2	若八幡宮古墳出土三角縁神獣鏡レプリカ	作品集掲載
35	愛媛県歴史文化博物館	3	大宰府政庁周辺官衙跡出土石製風字硯 他	常設展に展示
36	西日本文化協会	1	林（美）文書『柏原合薬再製所凡図』	『西日本文化』秋季号（第492号）掲載
37	千葉県立房総のむら資料館	1	銀冠塚出土銀冠複製品	企画展『龍角寺古墳とその時代』展示
38	荏田町教育委員会	2	英彦山十二社権現曼荼羅 他	歴史講座の講演会記録掲載
39	伊都国歴史博物館	7	三雲南小路遺跡出土鏡 他	特別展『玄界灘の交易要衝『一支国』』展示
40	吉野ヶ里町	3	五ヶ山ダム施工地航空写真 他	吉野ヶ里町文化祭展示
41	太宰府天満宮	1	大宰府政庁復元模型	社報『飛梅』秋号（192号）掲載
42	行橋市歴史資料館	16	延永ヤヨミ園遺跡遠景 他	特別展『山城と武士の歴史』展示
43	甘木歴史資料館	3	木造十一面観音立像 他	『温故』第60号掲載
44	ブルガリア弥生展実行委員会	1	栗田遺跡出土丹塗磨研土器	『ブルガリア弥生展』展示
45	個人	1	遠賀町高屋出土方格規矩文鏡	『考古学研究』66巻3号掲載
46	NHK 大阪拠点放送局	1	学校院跡出土人面墨書土器	NHK スペシャルにて放映
47	大牟田市	一式	『福岡鉄道遺産ものがたり3』パネル資料	『炭鉱の祭典2019』展示
48	木簡学会	10	本町遺跡出土木簡	『木簡研究』第41号掲載
49	みやこ町歴史民俗博物館	1	皆見大塚古墳石室内	『博物館たより』156号掲載
50	海鳥社	2	三沢遺跡試掘写真他	『私の東アジア考古学』掲載
51	八女市教育委員会	1	金烏の御旗（八幡大菩薩旗）	八女市紹介映像に使用
52	福岡教育大学	一式	『福岡鉄道遺産物語1～6』パネル資料	大学開放推進事業『教育大に行ってみよう！』展示
53	新泉社	5	X線CTスキャン装置 他	「遺跡を学ぶ」141『船原古墳』掲載
54	九州テレ・コミュニケーションズ（株）	7	浦城跡航空写真 他	情報番組『2755』にて放映
55	伝統文化実行委員会	3	松崎城跡調査地全景 他	『松崎城跡と霊鷲寺をたずねて』説明資料掲載

56	古都保存協会	6	大宰府政庁跡出土墨書土器 他	『特別史跡水城跡文化遺産巡りマップ』掲載
57	新泉社	1	勝浦井ノ浦古墳石室写真	「遺跡を学ぶ」141『船原古墳』掲載
58	オフィステイク 2	2	九州鉄道案内図、大宰府政庁模型	『福岡のトリセツ』掲載
59	株式会社五番街	2	王塚古墳石室	『偏愛ムラタ美術館 新展開』掲載
60	西日本文化協会	4	大宰府出土木簡等	『西日本文化』新年号(第493号)掲載
61	(株)雄山閣	3	永岡甕棺遺跡等	片岡宏二著『邪馬台国論争』掲載
62	春日市教委	4	爪形文土器等	文化財ガイドブック掲載
63	共同テレビジョン	1	大宰府政庁模型	テレビ番組『チョコちゃんに叱られる』放映
64	八女市教育委員会	3	金烏の御旗(八幡大菩薩旗) 他	講演会『征西将軍府と五条氏について』掲載
65	西都原考古博物館	1	観世音寺出土漆紙文書赤外線写真	企画展『漆黒の輝き 赤の祈り』展示
66	海鳥社		大宰府政庁復元模型 他	森弘子著『大宰府と万葉の歌』掲載
67	北九州市	1	香月村寿命唐戸通舟景	『グラ・マップ北九州2020』掲載
68	(株)レクレオ	1	見つかったぎっちゃんの道具	テレビ番組『短歌で胸キュン』放映
69	個人	22	『伊東尾四郎文書』 他	『レコードマネージメント』77号掲載
70	大牟田市石炭産業科学館	34	筑豊鉱山学校旧蔵炭坑関係写真 他	企画展『筑豊と三池』展示
71	(株)日本アートセンター	1	大野城跡百間石垣	『タテ割り 日本史』第5巻「戦争の日本史」掲載
72	兵庫県立考古博物館	1	白玉製腰帯複製品	企画展『ひょうごの遺跡 2020—調査研究速報—』展示
73	伊都国歴史博物館	1	奈良尾遺跡出土埴仏	企画展『糸島仏』展示
74	みやこ町歴史民俗博物館	1	皆見大塚古墳出土単鳳環頭大刀	みやこ町デジタルミュージアムに掲載
75	碧水社	27	大宰府政庁跡関連写真 他	『週刊 日本の城』(第159号)掲載
76	古都大宰府保存協会	3	大宰府政庁跡写真 他	『都府楼』(第51号)掲載
77	古都大宰府保存協会	29	大野城跡写真 他	『都府楼』(第51号)掲載
78	ジョーモネスクジャパン	1	中村石丸遺跡出土土器	『ジョーモネスクジャパン』(16号)掲載
79	海鳥社	2	大宰府政庁跡関連写真 他	『大宰府と万葉の歌』掲載
80	NPO 朝鮮通信使縁地連絡協議会	10	黒田家文書 朝鮮人来聘記 他	『ユネスコ「世界の記憶」 朝鮮通信使に関する記録—17世紀～19世紀の日韓の平和構築と文化交流の歴史』掲載

81	NHK 大阪拠点放送局	3	下原遺跡遺構写真 他	『歴史ヒストリア 歴史ニュース 2019』 放映
82	田川市石炭・歴史資料館	2	旧筑豊工業高等学校所蔵写真 他	『史跡筑豊炭田遺跡群保存活用計画・三井田川鉱業所伊田坑跡編』 保存計画報告書掲載
83	宮若市教育委員会	1	珍敷塚古墳奥壁	竹原古墳解説映像
84	読売新聞	1	内ヶ磯窯跡全景	『西国風土記』 掲載
85	個人	2	博多駅地下工事出土弥生土器	『福岡市博物館紀要第 29 号』 掲載
86	同成社	一式	汐井掛遺跡出土玉 他	『玉からみた古墳時代の開始と社会変革』 掲載
87	みやま市教育委員会	7	福岡県史編纂史料 他	『みやま市史通史編』 掲載
88	九州郵船	2	九州郵船航路景勝鳥瞰図	『九州郵船 100 周年記念誌』 掲載
89	直方市教育委員会	2	旧筑豊工業高等学校所蔵写真 他	『筑豊炭田遺跡群展』 展示
90	みやこ町郷土研究会	1	徳永川ノ上遺跡出土鉄製品	『郷土誌みやこ』 第 14 号掲載
91	個人	2	徳永川ノ上遺跡出土鉄製品 他	『邪馬台国は豊國』 掲載
92	古都大宰府保存協会	3	太宰府史跡鋤入れ式写真 他	『都府楼 第 51 号』 掲載
93	太宰府市教育委員会	1	太宰府名区一覧	説明版に掲載
94	西日本文化協会	1	野田卯太郎文書	『西日本文化』 第 494 号掲載
95	九州国立博物館	1	内ヶ磯窯跡全景	文化交流展示掲載
96	九州国立博物館	一式	宗原遺跡出土石器他	特別展『海幸山幸』 展示
97	西日本新聞社	1	怡土城跡航空写真	『国史跡 怡土城』 掲載
98	小郡市教育委員会	2	三沢遺跡航空写真他	『国指定史跡 三沢遺跡』 掲載
99	筑摩書房	4	大宰府政庁と大野城 他	『古代史講義【宮都篇】』 掲載
100	九州国立博物館		観世音寺出土瓦 他	特集展示『筑紫の神と仏』 展示
101	九州テレ・コミュニケーションズ(株)	2	大宰府政庁跡航空写真 他	情報番組『2755』にて放映
102	直方市教育委員会	4	旧筑豊工業高等学校所蔵写真 他	『筑豊炭田遺跡群 旧筑豊石炭鉱業組合直方会議所及び 救護練習所模擬坑道』 保存活用計画書掲載
103	九州国立博物館	1	紫草木簡	文化交流展にて展示
104	小竹町	2	旧筑豊工業高等学校所蔵写真 他	新庁舎ロビーにて展示
105	みやこ町歴史民俗博物館	3	延永ヤヨミ園遺跡出土墨書土器 他	『博物館たより』 160・161 号掲載
106	宗像市教育委員会	1	薦岳城 他	リーフレット掲載
107	筑紫野市教育委員会	17	王塚古墳 他	五郎山古墳館にて展示

108	ジャパン通信情報センター	1	蔵司地区写真	『文化財発掘出土情報』5・6月号掲載
109	大野城心のふるさと館	15	大宰府政庁復元模型 他	『歴史教科書でみる考古名品』展示
110	RKB映画社	1	隠元和尚像	『発見！筑紫の歴史 時空の旅人』にて放映
111	木更津市郷土博物館 金のすず	2	高崎2号墳出土単鳳環頭大刀 他	『金鈴塚古墳出土品再整理報告書』掲載
112	太宰府公文書館	12	齋藤秋圃作「十二月月風俗図絵巻」 他	『太宰府市公文書館紀要一年報 太宰府学一』第14号掲載
113	クリエイティブ・スローライフ	1	延永ヤヨミ園遺跡掘立柱建物	『西日本工業大学紀要 第50号』掲載
114	個人	2	塚崎東畑遺跡出土土器 他	『古代文化』掲載
115	九州芸文館	3	内ヶ磯窯跡出土陶器 他	『福岡の桃山茶陶展』図録掲載
116	難波別院	1	観世音寺絵図	『月刊 南御堂』掲載
117	九州国立博物館	6	観世音寺梵鐘	文化交流展示掲載
118	兵庫県立考古博物館	1	伯玄社遺跡出土磨製石鏃	『弥生時代って知ってる？』展示
119	柳川市教育委員会	13	永江家文書 他	柳川の歴史7『幕末維新と自由民権運動』掲載
120	甘木歴史資料館	5	楠田遺跡出土品 他	『甘木歴史資料館常設展示案内』掲載

(4) 学習支援・博学連携

◎学習支援活動

○来館学習

元年度も、小学6年生や中学1年生が歴史を学習する時期に合わせて、4～7月に開催する企画展「きゅうおにとタイムトラベル」を開催した。ここでは、福岡県内の遺跡から出土した資料を教材として、学習指導要領のねらいに迫ることができるよう、来館学習を行った。縄文時代と弥生時代の道具を比較し、それぞれの特色が読み取れるよう子どもたちに問いを投げかけ、視点を示してから見学をさせた。長い期間、豊かな自然の中で狩猟や採集の生活が営まれていたことや農耕が始まったころの人々の生活や社会の様子が分かるように、道具を通してそれらを使っていた人々の暮らしに目を向けさせた。来館学習用のワークシートを作成して配布し、気づいたことや考えたことを記入できるようにした。

第1展示室では、自由見学を中心とし、子どもたちが個々に「お気に入り」の資料を自由に見て回る活動を行った。子どもたちは、関心をもったものについて質問し、多くの展示資料の中からそれぞれに「お気に入り」を見つけ、それがどんなものなのかメモを取っていた。

第4展示室では、遺構展示してあるものが使われていた当時の人々の様子を思い浮かべられるよう解説をした。さらに、中庭では、取り上げた遺物を科学を駆使して分析し、丁寧に修復・整理し、記録する作業についての説明を行った。子どもたちは、興味深そうに見聞きしていた。

学校団体関係者の来館者総数は以下のとおりである。



小学校来館学習の様子

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数
4 月 17 日 (水)	小郡市立小郡小学校 (6 年生)	125 名
4 月 24 日 (水)	大刀洗町立菊池小学校 (6 年生)	54 名
5 月 15 日 (水)	福岡建設専門学校 (専門学校)	180 名
5 月 17 日 (金)	小郡市立大原小学校 (6 年生)	52 名
5 月 31 日 (金)	小郡市立三国小学校 (6 年生)	165 名
6 月 14 日 (金)	小郡市立のぞみが丘小学校 (6 年生)	116 名
6 月 21 日 (金)	久留米市立青峰小学校 (6 年生)	27 名
7 月 5 日 (水)	小郡市立のぞみが丘小学校 (5 年生)	116 名
10 月 4 日 (金)	久留米大学附設中学校 (1 年生)	135 名
2 月 14 日 (金)	鞍手町立剣南小学校 (6 年生)	42 名
	来館学習総数	1012 名

○スクールミュージアム事業

スクールミュージアム事業は、福岡県内の公立小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校を対象として、一般財団法人福岡県教職員互助会、福岡県立美術館、福岡県青少年科学館及び当館が合同で実施しているものである。四者で児童・生徒の鑑賞活動や科学体験活動、歴史・考古資料見学・考古学体験活動にかかる合同事業を行うことにより、情操教育、美術教育、科学教育、歴史教育の活性化及び地域文化の振興発展に寄与することを目的としている。当館は平成 27 年度から参画し、本年度は小学校 5 校、特別支援学校 1 校が来館した。



スクールミュージアムの様子

事前に学校との打ち合わせを行い、学習進度、児童・生徒の興味・関心、先生方のねらいを十分に聞いてプログラムを作成したことで、各学校のニーズに答えることができた。

例えば、久留米市立西牟田小学校は、学校側から、子どもたちの歴史学習に対する関心を高められるように体験活動を多く取り入れて欲しいという要望があったために、縄文土器や弥生土器、銅剣や銅矛等に実際に触れ、重さや手触りなどを感じてもらったり、遺物の修復・整理作業の疑似体験を土器パズルを用いて行ってもらったりした。子どもたちは、興味・関心をもって活動に取り組んでいた。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	来館者
5 月 9 日 (木)	宗像市立南郷小学校 (6 年生)	34 名
5 月 10 日 (金)	久留米市立西牟田小学校 (6 年生)	54 名
6 月 4 日 (火)	朝倉市立甘木小学校 (6 年生)	75 名
6 月 21 日 (火)	行橋市立行橋北小学校 (6 年生)	64 名
9 月 6 日 (金)	鞍手町立剣北小学校 (6 年生)	34 名
12 月 13 日 (金)	福岡県立久留米聴覚特別支援学校 (中 1 ～ 3 年生)	15 名
	スクールミュージアム総数	276 名

○中学校職場体験

元年度も、12 校 55 名の中学生を受け入れ、職場体験を行った。館内の見学、土器の展開、拓本、図書整理作業など、博物館ならではの仕事のほか、警備、受付、清掃など、いろいろな業務を体験してもらった。このことをとおして、多くの人たちの様々な仕事によって館全体の事業が成り立っていることや、共に働く同僚の大切さなどに気づかせ、日常生活における自分の生き方や在り方を考えさせることを目指した。



中学校職場体験の様子

実施日と参加学校団体は、以下のとおりである。

期日	学校名	人数
5月30日（木）～5月31日（金）	小郡市立大原中学校（2年生）	4名
6月4日（火）～6月5日（水）	小郡市立小郡中学校（2年生）	2名
6月11日（火）～6月12日（水）	小郡市立三国中学校（2年生）	4名
7月9日（火）～7月10日（水）	太宰府市立学業院中学校（2年生）	6名
8月1日（木）～8月2日（金）	筑紫野市立筑紫野中学校（2年生）	2名
9月11日（水）～9月12日（木）	春日市立春日野中学校（2年生）	6名
9月11日（水）～9月12日（木）	大野城市立大利中学校（3年生）	6名
11月27日（水）～11月28日（木）	筑紫野市立二日市中学校（2年生）	3名
11月27日（水）～11月29日（金）	春日市立春日南中学校（2年生）	6名
1月21日（火）～1月22日（水）	大野城市立大野中学校（2年生）	5名
2月18日（火）～2月19日（水）	筑紫野市立筑紫野南中学校（2年生）	5名
2月27日（木）～2月28日（金）	筑紫野市立筑山中学校（2年生）	6名
職場体験総数		55名

○高校生インターンシップ

元年度も、高校教育課より委託を受けて行う「福岡県教育庁等高校生インターンシップ」を2回、また、県立三井高等学校が独自で実施するインターンシップを1回実施した。インターンシップでは、中学生職場体験よりも内容を充実させ、歴史系博物館ならではのプログラムを提供した。職業体験の機会を提供し、勤労観・職業観を養い、職業選択能力の伸長への支援を目指した。高校生にとっては、自己の生き方・在り方を考える時間となったと考える。

研修の内容、参加学校・人数は以下のとおりである。

	午 前	午 後
1日目	開講式、オリエンテーション、館内見学、受付業務体験	発掘調査見学・体験
2日目	関連展示見学、整理作業、保存科学実習	展示解説研修、拓本
3日目	図書業務、まとめ作成、閉講式	

期 日	学校名	人数
7月24日（水）～ 7月26日（金）	福岡県教育庁等高校生インターンシップ（2年生） 京都1・福岡1・福岡中央3・城南1・京都1・福岡1・福岡中央3・城南1	6名
7月30日（火）～ 8月1日（木）	福岡県立三井高等学校（2年生）	3名
8月6日（火）～ 8月8日（木）	福岡県教育庁等高校生インターンシップ（2年生） 博多青松1・伝習館2・三池1・嘉穂1・輝翔館1	6名
インターンシップ総数		15名

○出前講座

元年度は、福智町の小学校1校、春日市、筑紫野市、太宰府市の中学校6校、福岡市の高等学校1校から依頼を受け、出前講座を行った。小学校からは、社会科の学習と関連して、「古代大宰府について」の話をして欲しいということで、大宰府史跡の発掘を行っていた学芸員が出前講座を行った。中学校からは、キャリア教育の一環として「学芸員の仕事」というテーマ、修学旅行の事前学習として「仏像の見かた」というテーマで話をして欲しいという依頼と「古代体験」をして欲しいという依頼があった。

「学芸員の仕事」では、学芸員という仕事について知ってもらい、自分の職業選択に対する関心を高めてもらうことを目的として、学芸員が出前講座を行った。「仏像の見かた」では、京都や奈良の寺院にある仏像の紹介などをしながら、仏像についての興味・関心を高めてもらうことをねらいとして、仏教美術を専門とする学芸員が出前講座を行った。「古代体験」については、職員とボランティアで対応した。高等学校からは、中学校にもあった「学芸員の仕事」というテーマで話をして欲しいということで、学芸員が出前講座を行った。

○発掘体験

発掘体験は埋蔵文化財への理解促進のため、発掘現場の状況に応じて可能な範囲で開催している。元年度は重点事業として確認調査を行っている三沢遺跡において近隣の小学校に呼び掛けて発掘体験を実施した。また、学校からの要望を受けて大宰府遺跡蔵司地区の発掘現場での発掘体験も実施した。

日程	対象	遺跡名
11月10日(日)	三国小学校歴史クラブ8名	三沢遺跡



中学校出前講座のようす



発掘体験の様子

○教員のための博物館の日 in きゅうれき～見て触って博物館を楽しもう～

期日：元年8月7日(水)

内容：学校による当館の活用促進を図るために、まずは学校の先生方に「博物館の教育資源」である「ひと・もの・こと」を知ってもらい、博物館を楽しんでもらおうと企画したものである。当日は、県内の小、中、高等学校、特別支援学校の先生方8名に参加していただき、博物館の楽しさを味わってもらった。内容は、以下のとおりである。



教員のための博物館の日のようす

時間	内 容	場 所
13:00～13:20	受 付	文化情報広場
13:20～13:30	開会行事(オリエンテーション)	研修室
13:30～14:20	館内見学(床下・中庭解説、バックヤードを含む)	第4展示室、一般収蔵庫、新収蔵庫他
14:20～14:30	休 憩	
14:30～14:55	飛び出すむかしの宝物(オンデマンド体験)	研第4展示室
14:55～15:30	当館所蔵の文化財の紹介 近世～近代中心	研修室
15:30～15:40	閉会行事(アンケート記入)	研修室

○博物館とともに地域を学ぶ「大宰府史跡フィールドワーク」

期日：令和元年11月22日(金)

内容：令和2年度は、特別史跡大宰府跡が、わが国最初の史跡指定となって100周年にあたる。この機会に、改めて先生方に大宰府の歴史や発掘調査について知っていただき、身近な史跡を通して地域の歴史や文

化財を学ぶ授業に役立ててほしいと考え、企画した。当日は、太宰府市の小、中学校の先生方 10 名に参加していただき、大宰府史跡について学んでもらった。内容は、以下のとおりである。

時間	内 容	場 所
13:30 ～ 14:00	受 付	蔵司発掘現場駐車場
14:00 ～ 14:10	開会行事（オリエンテーション）	大宰府展示館横
14:10 ～ 15:30	大宰府政庁跡周辺フィールドワーク	大宰府政庁跡周辺
15:30 ～ 15:40	休 憩	
15:50 ～ 16:20	発掘現場見学	蔵司発掘現場
16:20 ～ 16:30	まとめ（アンケート記入）	蔵司発掘現場

○久留米の歴史を知る in 九州歴史資料館 ～特別展「久留米ーその歴史と文化ー」から～

期日：令和元年 11 月 29 日（金）

内容：地域社会に対する誇りと愛情をもった児童・生徒の育成ためには、地域の教材をいかした社会科学習が大切である。しかし、地域教材の開発に困難さを感じている先生方も少なくない。そこで、そのような悩みを解消するために、特別展で取り上げる地域である久留米市の小・中学校の先生方を対象として企画したものである。当日は、久留米市の小・中学校の先生方 7 名に参加していただいた。

次年度は、特別展が福岡の至宝、名品の里帰り展となるため、対象をどこの地域の先生方にするかは検討中である。当日の日程は、以下のとおりである。

時間	内 容	場 所
13:00 ～ 13:15	受 付	文化情報広場
13:15 ～ 13:25	開会行事（オリエンテーション）	研修室
13:25 ～ 14:15	講話～久留米の歴史と文化財～	研修室
14:20 ～ 15:10	特別展観覧〔展示解説〕	第 1 展示室
15:10 ～ 15:25	休 憩	
15:25 ～ 15:45	地域の歴史資料の解説	研修室
15:45 ～ 16:15	地域の歴史資料を使った教材の紹介	研修室
16:15 ～ 16:30	閉会行事（アンケート記入）	研修室

（５）ボランティア

◎九歴ボランティア

移転開館時から設置している当館のボランティア（通称「九歴ボランティア」）は、3 年を一期として活動している。31 年度は、第 4 期目の初年度である。30 年度に新規ボランティアを募集して研修を実施し、31 年度 4 月から、新規ボランティア 12 名、継続ボランティア 22 名の計 34 名で始動した。土日・祝日の古代体験プログラムの実施や館主催の講演会・イベントの運営支援、来館学習や各種団体への対応補助、ボランティア主催のイベントなど、多くの場面で活躍している。毎月第二土曜日に行われるボランティア研修では、古代体験を提供する際の注意点や工夫点など、活動をよりよくするための意見や要望が出され、組織全体として積極的に活動することができた。

《研修会》

○定例研修会

九歴ボランティアとしての知見・識見を高めること、ボランティア間の交流を図ることを目的として、毎月第二土曜日の午前中（10:00 ～）に定例研修会を開催している。前半は、先月までの活動報告と今後の予定やイベントにおける役割分担の確認、活動日の調整である。後半は、学びある実践研修として、古代体験にかかわる内容や当館学芸員による展示解説を計画、実施した。

近年、放課後等デイサービスの利用が増え、ボランティア内から「子どもたちへの声かけや接し方」

について学びたいという声があがっていたため、ボランティアの意識向上と個に応じた来客対応を目指し、外部講師を招いての研修（小学校主幹教諭によるロールプレイングを取り入れた研修）を実施した。31年度は、例年よりも古代体験にかかわる回数が多かった。実践研修の内容は以下のとおりである。

回 数	開催日	実践的研修の内容
第1回	4月13日	鑄造体験「型の種類と鑄造の作業工程における注意点」
第2回	5月11日	土器パズル「土器パズルの活用方法と収納方法」
第3回	6月8日	古代体験「古代衣装の着付け」
第4回	7月13日	展示解説「床下展示」と「中庭バックヤード」
第5回	8月10日	発掘成果展「三沢遺跡と三国丘陵の遺跡」解説 「保存科学の成果」講義と保存科学実習室見学
第6回	9月14日	ボランティア活動における子どもへの寄り添い方（外部講師）
第7回	10月12日	新メニュー「竪穴住居組み立て」に挑戦
第8回	11月9日	特別展「久留米ーその歴史と文化ー」解説
第9回	12月14日	古代体験における成果と課題（話し合い）
第10回	1月11日	企画展「甘木絞」解説
第11回	2月8日	企画展「船原古墳の世界」解説
第12回	3月14日	ボランティア自主研修発表会※中止（コロナウィルス感染症拡大防止のため）

このほか、元年5月28日に福岡教育大学教職大学院の来館学習では、学校教育での九州歴史資料館の活用についての講和と館内見学・ハンズオン体験を提供した。令和2年1月24日には筑紫地区中学校社会科研究会の研修会で、館の紹介と館内見学、ハンズオン体験を提供した。

○バス研修会・交流会

31年度は、令和元年10月1日（火）に実施した。熊本県立装飾古墳館、歴史公園鞠智城・温故創生館、方保田東原遺跡を訪れ、古代について学ぶとともに、現地ボランティアと交流した。九州歴史資料館を9:00に出発し、熊本県立装飾古墳館に向かった。装飾古墳館では、学芸員から装飾古墳についての詳しい解説があり、ボランティアも熱心にメモを取るなどして学んでいた。鹿央物産館で昼食後、歴史公園鞠智城・温故創生館へ移動し、見学（現地ボランティアによる屋内、屋外展示解説）、ボランティアとの座談会を行った。座談会は、展示解説において注意していることや工夫していることを出し合うとともに、スキルアップにかかわる研修のありかたについて意見交換するなど、有意義な時間となった。

また、方保田東原遺跡では、発掘調査の成果について説明を受けた。遺跡全体の一割程度しか発掘調査が済んでいないことを知り驚くと同時に、「巴形銅器」など特殊な祭器が発掘されていることに興味をかきたてられていた。ボランティア17名、九州歴史資料館職員7名参加。



熊本県鞠智城・温故創生館での見学



熊本県鞠智城・温故創生館でのボランティア交流会

◎ボランティア活動

○古代体験・バックヤードツアー

土日・祝日に実施している古代体験では、これまでの土器パズルに須恵器・土師器が加わった。平日を含めて実施依頼のあった団体については、館内案内や古代体験、むかしの遊び（ぎっちゃん、投壺な

ど)に対応した。放課後等デイサービスの団体予約が増える傾向にある。

31年度の古代体験メニュー及び体験の実績は以下のとおりである。

古代体験アイテム及びバックヤード解説	体験者
「鑄造体験（和同開珎・ミニ銅鏡・ミニ銅矛）」（有料）	442名
「DAZAIFU デザインコレクション①（拓本とり）」	332名
「DAZAIFU デザインコレクション②（瓦マグネット作り）」（有料）	164名
「古代の衣装を着てみよう（古代衣装の試着）」	277名
「パズル土器（復元体験）」	1,834名
「大宰府政庁建物の復元」	342名
「触って感じてみよう銅矛・銅剣」	717名
「きゅうおに」のぬりえに挑戦しよう!!	331名
飛び出すむかしの宝箱（ハンズオン体験）	135名
バックヤード（第4展示室含む）解説	498名
むかしのあそび	251名
体験者延べ人数	5,323名

○ボランティア第二展示室解説

31年度は、「床下展示」や「バックヤード」解説に加え、ボランティアによる第2展示室の解説をはじめた。「展示解説をする上での注意点」など事前研修を行い、その後は、展示が変わる毎に主担当の学芸員から解説、指導を受けた。展示解説ボランティアは11名で、実際に活動を開始したのは8月中旬からである。

【実施したもの】

- ・発掘成果展「三沢遺跡と三国丘陵の遺跡」
- ・関連展示「大宰府と万葉集―大伴旅人・家持と『梅花の宴』―
- ・企画展「甘木紋り」

以前から展示解説を希望していたボランティアもあり、活動意欲が増すひとつのきっかけとなった。



解説研修の様子

○ボランティアイベントの開催

25年度末から開始した、九歴ボランティアが主体的に企画・実施する事業である。27年度からは、福岡県教育文化奨学財団の助成事業を受け、その一部を「博物館こども古代体験推進事業」として実施している。歴史系博物館実施のイベントとして「昔の遊び」「伝統的な技術」にこだわり、会場に関連する出土資料のパネルを設置したり、歴史的背景がわかる絵や文章を載せた資料を配布したりするなど、歴史・文化の普及に力を注いだ。

31年度「ボランティアイベント」の実施は、以下のとおりである。

○縄文ポシェット作り

会期：6月15日（土）

内容：青森県の有名な縄文時代の遺跡である三内丸山遺跡から出土したポシェット風網籠を、クラフトテープで作る大人向けの講座である。ボランティアが講師となり、2時間で実施したが、時間が足りない人も見られた。19名の参加があった。



縄文ポシェット作りのようす

○大人組紐講座

会期：5月16日（木）、23日（木）、11月21日（木）、28日（木）

内容：24～26年度の研修によってボランティアが習得した「クテ打ち組紐技法」を活用し、初めて大人向けの講座を実施した。道具を使わず指だけで組紐ストラップを作る技術を要するもので、慣れるま

では時間がかかるが、作り方を習得すれば糸の組み合わせを変えるだけで独自のストラップを完成させることができる。大人向けのため、初級編、応用編と2回連続講座とし、多様な組み方を学ぶ機会を提供した。ボランティアの希望により、受講者に対してアンケートを実施したが、ボランティアの対応や講座の内容として、ほとんどが「大変満足」「満足」の評価であった。来年度も継続して実施する予定である。5月は34名、11月は26名の参加があった。

○機織り体験

期日：8月3日（土）・2月11日（火・祝）

内容：簡易機織り機で「機織り」を体験するブースを設けた。8月は小郡市の七夕神社では旧暦に合わせて祭事を行っているため、旧暦の七夕に合わせて実施した。機織り体験だけでなく、七夕の由来などにも触れ、年中行事への興味関心を高めていける内容とした。8月は24名、2月は19名の参加があった。

○MyおひなさまとMy組紐※中止

期日：2月29日（土）

内容：毎年、節句の時期に子ども対象として開催しているイベントである。ひな飾りづくりについては、年度ごとに反省と改善を繰り返すことで、お雛様の折り方や小道具などの種類を増やし、幼児から大人（保護者）まで楽しめる内容となっている。事前準備を終え、当日を待つばかりであったが、中止となった。

○「子ども土器づくり教室」

期日：3月8日（日）※中止

内容：手回しロクロを活用した土器づくりを開催予定であったが、中止となった。

○出張古代体験

外部からの依頼に応じて、職員やボランティアが古代体験を出張するもので、元年度は5件実施した。大野城心のふるさと館は職員のみで、地域文化祭とみやこ町へはボランティアのみで実施した。このほかのそみが丘「生楽館」の「さぎっちょう」へはぎっちょう道具と古代衣装の貸出を行った。なお、みやこ町公民館では鋳造体験を導入する予定である。



大人組紐講座のようす



機織り教室のようす



熊本県装飾古墳館での古代体験のようす

実施日	イベント名	参加者数
6月23日（土）	熊本県立装飾古墳館「ミュージアムキッズ in 古墳館」	98名
7月21日（火）	大野城心のふるさと館1周年イベント	約120名
7月22日（日）	小郡アンビフェスタ	約200名
10月20日（日）	のそみが丘「地域文化祭」	約120名
2月16日（日）	みやこ町公民館「古代体験教室」	12名

（6）普及・活用事業

各種講座、講演会、ゼミなどを開催して専門的な内容の深化を図る一方、一般を対象とした各種イベントや子ども向けの体験講座、職員による来館団体への館内案内などを実施することで、文化財愛護思想の普及や文化財の活用に資するとともに、来館者の誘致を図った。

◎講座・講演会

○九歴講座

内容：毎月第2土曜日に当館や3分館の学芸員の他、市教育委員会等の外部講師を招いて実施する講座である。元年度は延べ975名の方が受講した。なお3月は新型コロナウイルス感染拡大のため中止され、令和2年7月に代替開催としたが、感染拡大の長期化を受け、最終的に中止された。



開演日、演題、講師、受講者数は次のとおりである。

九歴講座のようす

回	開催日	演題	講師（所属）	受講者数
第1回	4月13日	徳田玉龍	國生 知子（甘木歴史資料館）	62名
第2回	5月11日	筑豊炭田遺跡群の歴史的価値について	嶋田 光一（飯塚市歴史資料館）	68名
第3回	6月8日	屋形古墳群と筑後の装飾古墳	吉村 靖徳（九州歴史資料館）	118名
第4回	7月13日	福岡県の近代和風建築	松本 将一郎（文化財保護課）	53名
第5回	8月10日	幕末の道中日記を読む	田淵 義樹（柳川古文書館）	97名
第6回	9月14日	市民にまもられた三沢遺跡の今日的意義	山崎 頼人（小郡市埋蔵文化財調査センター）	134名
第7回	10月12日	久留米の原始・古代遺跡	神保 公久（久留米市教育委員会）	78名
第8回	11月9日	神子栄尊と久留米の仏像	井形 進（九州歴史資料館）	88名
第9回	12月14日	大宰府跡蔵司地区の最新発掘調査成果	大庭 孝夫（九州歴史資料館）	87名
第10回	1月11日	国史跡安德台遺跡の価値	岩満 聡（那珂川市教育委員会）	92名
第11回	2月8日	修験と薬	相良 悦子（求菩提資料館）	98名
第12回	3月14日	藤原広嗣の乱	松川 博一（九州歴史資料館）	中止
受講者数総計				975名

○名誉館長講座

内容：西谷正名誉館長を講師とする、主に第4土曜日に実施する全12回の連続講座である。通年のテーマは「烏丸鮮卑東夷伝の考古学」である。定員160名に対し200名の受講申し込みを受けた。なお、新型コロナウイルス感染拡大を受け、第11回と第12回は中止された。そのため第10回までの出席者を対象に、皆勤賞に発行している。

開催日、演題、受講者数は次のとおりである。

回数	開催日	演題	受講者数
第1回	4月27日	烏丸	192名
第2回	5月25日	鮮卑	174名
第3回	6月22日	東夷伝（1）挹婁	161名
第4回	7月27日	東夷伝（2）東沃沮	170名
第5回	8月31日	東夷伝（3）夫餘	169名
第6回	9月28日	東夷伝（4）高句麗	138名
第7回	10月26日	東夷伝（5）濊	160名
第8回	11月23日	東夷伝（6）韓①馬韓	158名
第9回	12月21日	東夷伝（6）韓②弁韓	120名
第10回	1月25日	東夷伝（6）韓③辰韓	143名
第11回	2月22日	東夷伝（7）倭人 1. 暮らし	中止
第12回	3月28日	東夷伝（7）倭人 2. 邪馬台国への道	中止
受講者数総計			1585名

回数	開催日	演題	受講者数
第1回	4月27日	烏丸	192名
第2回	5月25日	鮮卑	174名
第3回	6月22日	東夷伝（1）挹婁	161名
第4回	7月27日	東夷伝（2）東沃沮	170名
第5回	8月31日	東夷伝（3）夫餘	169名
第6回	9月28日	東夷伝（4）高句麗	138名
第7回	10月26日	東夷伝（5）濊	160名
第8回	11月23日	東夷伝（6）韓① 馬韓	158名
第9回	12月21日	東夷伝（6）韓② 弁韓	120名
第10回	1月25日	東夷伝（6）韓③ 辰韓	143名
第11回	2月22日	東夷伝（7）倭人 1. 暮らし	中止
第12回	3月28日	東夷伝（7）倭人 2. 邪馬台国への道	中止
受講者数総計			1585名

○九歴ゼミ

内容：第2・第4水曜日の夜18：30～20：00（18：00受付開始）まで実施する、当館の学芸員を講師とした連続講座である。7～9月、10～12月、1～3月の年間3期、各期6回ずつ開講した。毎回多数の応募があり、可能な限り受け入れる方向で対応した。結果、本年度は応募者全員を受講生とした。なお第3期は新型コロナウイルス感染拡大により、第3回を以て中止となった。

開催期間、演題、講師、各期（6回）延べ受講者数は次のとおりである。

期	開催期間	演題	講師	延べ受講者数
第1期	7月3日～ 9月25日	大宰府・太宰府天満宮史料を読む～大宰府の歴史編～	酒井 芳司	212名
第2期	10月9日～ 12月25日	福岡県の彫刻と絵画	井形 進 日野 綾子	254名
第3期	1月8日～ 3月25日	大宰府・太宰府天満宮史料を読む～菅原道真編～	松川 博一	134名 (中途中止)
受講者延べ数総計				600名

○特別展・企画展記念講演会

内容：特別展や企画展の開催を記念して講演会を実施した。また福岡県に縁のある新元号「令和」決定を記念し、記念講演会も2回開催した。

元年度は特別展・企画展記念講演会の、開催日、演題、講師、受講者数は以下のとおりである。

開催日	演題	講師	受講者数
11月16日	特別展記念講演会 「筑後川流域からみた古代史の展開」	田中正日子氏 (元第一経済大学教授)	148名
1月19日	企画展記念講演会 「世界遺産（石炭産業）『明治の三池と筑豊』」 ※主催は「明治日本の産業革命遺産」 福岡県世界遺産連絡会議	荻野喜弘氏 (九州大学名誉教授)	61名
2月15日	企画展記念講演会 「さいふまいりの名所の今昔」	宮崎亮一氏 (太宰府市文化財課)	78名
受講者数総計			1262名

○新元号「令和」決定記念特別講座「大宰府と万葉集—大伴旅人・家持と梅花の宴」

期日：令和元年4月29日（月・祝）14:00～16:30

会場：九州歴史資料館 第1展示室・研修室

主催：九州歴史資料館

内容：新元号「令和」誕生の舞台となった大宰府で花開いた万葉筑紫歌壇をテーマとした特別講座を開催した。講師は当館学芸員の松川博一が務め、決定当初から話題となった大伴旅人邸の所在地をめぐる諸説を詳しく紹介するとともに、大伴旅人の大宰府で過ごした日々を旅人や山上憶良らの万葉歌を通じてたどった。当日は改修工事終了後の第1展示室を第1会場とし、研修室を第2会場としてモニターで聴講できるようにした。550名の参加者があった。

○新元号「令和」記念特別講演会「新元号「令和」と大宰府と～万葉の世界～」

期日：令和元年6月2日（日）14:00～16:30

会場：西鉄ホール

主催：九州歴史資料館

内容：新元号が福岡県ゆかりの「令和」となったことを記念して、その出典となった『万葉集』をテーマとした講演会を開催した。本講演会では、万葉学者として著名である奈良大学教授上野誠氏に、「令和」の元となった「梅花の歌三十二首」の序文をはじめ、本県を舞台として花開いた「万葉筑紫歌壇」について講演をいただき、そのあとで当館学芸員の松川博一とその時代背景などをめぐって対談を行った。応募者多数のため抽選となり、当日は425名の参加者があった。



新元号「令和」記念特別講演会のようす

○夕べのギャラリートーク

内容：当館では、他の観覧者の鑑賞の妨げにならないよう、第1展示室での展示解説を差し控え、その代わりに解説シートを無料で配布している。24年度からの新規事業として、当館の学芸員が、展示を担当した展示物について解説を行うギャラリートークを実施した。平成28年度までは、一旦閉館したのちに、18:30より再度開館、ギャラリートークは19:00より20:00までとしていたが、より参加者の層と利便性を再考し、平成29年度よりプレミアムフライデー（毎月最終金曜日）の実施とし、開催時間も閉館直後の16:30から17:30とした。



ギャラリートークの様子

本年度は5回予定したが、第5回は新型コロナウイルス感染拡大により中止された。開催日、内容、講師、受講者数は次のとおりである。なお、下記の他に特別展・企画展記念講演会に合わせて、ギャラリートークが開催されたこともある。

回	開催日	内容	講師	受講者数
第1回	7月26日	企画展「三沢遺跡と三国丘陵周辺の遺跡」	進村 真之	15名
第2回	10月25日	特別展「久留米—その歴史と文化—Part1」 近代洋画を中心に	日野 綾子	11名
第3回	11月29日	特別展「久留米—その歴史と文化—Part2」 久留米の伝統工芸	遠藤 啓介	8名
第4回	1月31日	企画展「甘木絞り」	遠藤 啓介	9名
第5回	2月28日	太宰府天満宮の境内絵図	日野 綾子	中止
参加者数総計				43名

○出前講座

内容：県政の課題など、県民の希望のテーマについて県職員がわかりやすく説明する「ふくおか県政出前講座」や放送大学など、県民の要請を受けて計 68 回の講座に赴いた。

元年度の実績は以下のとおりである。

	開催日時	依頼者	タイトル	会場	講師	参加者
1	5 月 12 日（日）	豊前市自然と歴史を守る会	仏像のみかた	豊前市総合福祉センター	井形 進	50 名
2	5 月 18 日（土）	直方市教育委員会（直方市歴史講座）	直方と筑豊の鉄道史	直方市中央公民館	渡部 邦昭	28 名
3	5 月 22 日（水）	第一学院高校博多校	学芸員の仕事	第一学院高校博多校	遠藤 啓介	50 名
4	5 月 25 日（土）	筑紫南コミュニティ運営協議会 ふるさと創生部会	鹿児島本線の歴史と原田駅	筑紫南コミュニティセンター	渡部 邦昭	40 名
5	5 月 26 日（日）	太宰府万葉の会	朝倉宮巡見	志波小学校他	小田 和利	25 名
6	5 月 29 日（水）	大宰府史跡解説員	朝倉宮巡見	志波小学校他	小田 和利	27 名
7	5 月 29 日（水）	筑紫野中学校	仏像のみかた	筑紫野中学校	井形 進	180 名
8	6 月 5 日（水）	太宰府市立太宰府中学校	古代のあそび	太宰府市立太宰府中学校	小田 和利	25 名
9	6 月 6 日（木）	福岡県高等学校地理研究会	福岡の装飾古墳	九州歴史資料館	吉村 靖徳	10 名
10	6 月 11 日（火）	つくし郷土史会	筑紫野の軌道	筑紫野市歴史博物館	渡部 邦昭	30 名
11	6 月 12 日（水）	舞鶴公民館	大宰府史跡等について	舞鶴公民館	小田 和利	22 名
12	6 月 12 日（水）	香椎東校区ねんりんクラブ連合会	福岡市東区の鉄道史－香椎線を中心に－	香椎東公民館	渡部 邦昭	31 名
13	6 月 12 日（水）	太宰府市立太宰府中学校	古代のあそび	太宰府市立太宰府中学校	小田 和利	25 名
14	6 月 14 日（金）	立石コミュニティセンター	大宰府史跡	大宰府史跡	小田 和利	29 名
15	6 月 22 日（土）	福岡県教育委員会	「福岡県戦争遺跡調査」の概要	福岡県立図書館	小川 泰樹	146 名
16	6 月 23 日（日）	大牟田市立三池カルタ・歴史資料館	菅原道真 その生涯と伝承	大牟田市立三池カルタ・歴史資料館	松川 博一	40 名
17	7 月 20 日（土）	大牟田市手鎌地区公民館	大宰府と万葉集	大牟田市手鎌地区公民館	松川 博一	80 名
18	7 月 30 日（金）	国立金海博物館	三国時代 馬冑と馬甲の研究成果と課題	国立金海博物館	小林 啓	50 名
19	8 月 21 日（水）	レスポアール久山	首羅山周辺の古仏	レスポアール久山	井形 進	41 名
20	8 月 23 日（金）	大刀洗町生涯学習課	大宰府史跡について	大刀洗ドリームセンター	小田 和利	17 名
21	8 月 23 日（金）	九州山岳霊場遺跡研究会	高良山と筑後の山岳霊場遺跡	久留米商工会館	酒井 芳司 岡寺 良	157 名
22	8 月 26 日（月）	筑紫南高年クラブ	仏像について	筑紫南コミュニティセンター	井形 進	57 名
23	8 月 30 日（金）	北九州教育事務所館内文化財等行政担当者研修	江戸時代の絵画－福岡県内の作品を中心に－	岡垣町地域交流センター	日野 綾子	20 名
24	9 月 4 日（水）	熊本県教育委員会	水損紙資料を救う	氷川文化財事務所	加藤 和歳	22 名
25	9 月 7 日（土）	大刀洗町公民館	大宰府と万葉集	大刀洗町中央公民館	松川 博一	40 名
26	9 月 8 日（日）	入部公民館	大宰府と万葉集	早良区入部公民館	松川 博一	20 名
27	9 月 13 日（金）	立石コミュニティセンター	大宰府への道－古代都市と交通－	立石コミュニティセンター	小田 和利	16 名

28	9月13日(金)	福岡よかもんひろば	福岡鉄道遺産ものがたり	福岡県庁	渡部 邦昭	22名
29	9月17日(火)	ちくしの高年大学	宝満山の歴史	筑紫野市生涯学習センター	酒井 芳司	20名
30	9月17日(火)	上津コミセン	大宰府史跡について	久留米市上津校区コミセン	小田 和利	24名
31	9月24日(火)	NPO 法人福岡城市民の会	福岡における装飾古墳の世界	福岡市パインビル	吉村 靖徳	80名
32	9月27日(金)	久原小学校	観世音寺	観世音寺	井形 進	67名
33	10月10日(木)	経友会	大宰府史跡	オリエンタルホテル福岡	小田 和利	37名
34	10月16日(水)	立石コミセン	大宰府史跡巡研	政庁跡・水城・観世音寺	小田 和利	27名
35	10月19日(土)	求菩提資料館	等覚寺の山岳信仰と彦山六峰	求菩提資料館	岡寺 良	30名
36	10月20日(日)	行橋市ふるさと歴史講座	福原長者原遺跡と古代の官衙	行橋市歴史資料館	岡田 諭	30名
37	10月30日(水)	放送大学	大宰府争乱史	九州歴史資料館	小田 和利 松川 博一 酒井 芳司 岡寺 良	30名
38	10月30日(水)	上毛町歴史講座	上毛町の歴史	下唐原東屋敷遺跡	梶佐古幸謙	10名
39	11月2日(土)	アクロス・文化学び塾	古代の久留米	アクロス福岡	酒井 芳司	30名
40	11月3日(日)	太宰府学講座	太宰府の九州支配の成立	太宰府市文化ふれあい館	酒井 芳司	41名
41	11月7日(木)	歴史に学ぶコース	大宰府と天神信仰	北九州市立年長者大学校周望学舎	松川 博一	42名
42	11月12日(火)	安川地区老人クラブ連合会	秋月街道の幻の鉄路	安川コミュニティセンター	渡部 邦昭	110名
43	11月13日(木)	筑紫歴史クラブ	斉明筑紫征西	筑紫野市歴史博物館	小田 和利	25名
44	11月13日(木)	四港会	大宰府史跡等について	ANAクラウンプラザホテル福岡	松川 博一	146名
45	11月16日(土)	田川市教育委員会	“運べ石炭！トーク！筑豊の鉄道史”	田川市市民会館	渡部 邦昭	30名
46	11月30日～12月6日	文化振興課	九州歴史資料館所蔵の中国名品展	九州芸文館	小田 和利	700名
47	12月3日(火)	ちくしの高年大学	菅原道真公と大宰府	筑紫野市生涯学習センター	松川 博一	20名
48	12月7日(土)	春日市立春日南中学校	学芸員の仕事	春日市立春日南中学校	遠藤 啓介	76名
49	12月7日(土)～12月8日(日)	木簡学会	大宰府の官衙と木簡	奈良文化財研究所	松川 博一	150名
50	12月7日(土)～12月8日(日)	木簡学会	大宰府成立期の木簡	奈良文化財研究所	酒井 芳司	150名
51	12月8日(日)	北筑後文化財行政連絡協議会	北筑後の鉄道敷設とその背景	九州歴史資料館	渡部 邦昭	30名
52	12月11日(水)	若潮学級	福岡県の歴史と文化財	岡垣町中央公民館	井形 進	58名

53	1月11日(土)	小郡市埋蔵文化財調査センター	稲吉老松神社の菅公縁起絵—絵画としての描かれ方に着目して—	小郡市埋蔵文化財調査センター	日野 綾子	50名
54	1月14日(火)	のぞみが丘校区コミュニティセンター生楽館	福岡鉄道遺産ものがたり～平成筑豊鉄道編～	内田三連橋梁・油須原駅等	渡部 邦昭	24名
55	1月17日(金)	八女市矢部公民館	筑紫君磐井の乱	八女市矢部公民館	酒井 芳司	11名
56	1月18日(土)	斎宮歴史博物館	西の都・大宰府と沖ノ島 東の都・斎宮と伊勢神宮	九州国立博物館	酒井 芳司	280名
57	1月21日(火)	春日市立春日野中学校	仏像のみかた	春日市立春日野中学校	井形 進	268名
58	1月22日(水)	若葉神津会	福岡県の歴史と文化財について	若葉つどいの家	吉村 靖徳	20名
59	1月24日(金)	春日市立春日中学校	仏像のみかた	春日市立春日中学校	井形 進	181名
60	1月25日(土)	筑紫南コミュニティ運営協議会	令和と大宰府	筑紫南コミュニティセンター	松川 博一	30名
61	1月26日(日)	福智町教育委員会	筑豊の鉄道史	福智町図書館・歴史資料館	渡部 邦昭	30名
62	2月2日(日)	「明治日本の産業革命遺産」福岡県世界遺産連絡会議	石炭と鉄道と福岡県	なかまハーモニーホール	渡部 邦昭	40名
63	2月2日(日)	大野城市考古学講座	文字資料で読み解く牛頸須恵器窯跡	大野城市心のふるさと館	酒井 芳司	30名
64	2月6日(木)	春日市立春日西中学校	仏像のみかた	春日市立春日西中学校	井形 進	223名
65	2月11日(火)	のぞみが丘校区コミュニティセンター生楽館	福岡鉄道遺産ものがたり～北九州地区編～	直方市石炭記念館・門司港駅・九州鉄道記念館等	渡部 邦昭	24名
66	2月13日(木)	ふるさと再発見・やめ郷土史学級	大宰府と万葉集(梅花の宴)	八女市民会館おきなす八女	松川 博一	28名
67	2月18日(火)	高蔵市民センター	福岡県の歴史と文化財について	北九州市立高蔵市民センター	吉村 靖徳	9名
68	2月27日(木)	福智町立伊方小学校	古代大宰府について	福智町立伊方小学校	小田 和利	56名

◎一般来館者対応事業

当館の施設や事業内容を知っていただき、文化財やその保護・保存の重要性をより深く理解していただくために、来館者の展示資料に関する質問や、館外からのレファレンスへの対応のほか、来館者対応事業として館独自のサービスを職員が行っている。

○来館者への施設・展示解説

来館者により深く当館を理解していただくために、事前申込みのあった団体に対して、職員による中庭回廊や施設の解説、平日のボランティアによる古代体験の対応などを行っている。また施設の解説については、当日申込みの団体に対しても可能な限り対応している。解説の依頼はシニアクラブや生涯学習関係団体を中心ではあるが、学童保育など古代体験と合わせて当館を利用したいという団体も利用されている。

元年度は74団体、延べ2500名の方々に案内を行った。

○収蔵品オンデマンド「飛び出すむかしの宝物」

来館者の多様な閲覧希望に対応するとともに、収蔵品の普及・公開の促進を図るため、来館者が閲覧したい収蔵資料をその場で見ることのできるコーナーである。土・日・祝日限定で、収蔵品の活用・公開の促進を図るため、「飛び出すむかしの宝箱」として来館者が閲覧したい収蔵資料をその場で見ることのできるコーナーを設け、多様な閲覧希望に対応している。実施日に閲覧希望者が申請すれば、収蔵

品に触れることができるとともに、埋蔵文化財担当者から解説を聞くこともできる。

今年度からは利用実績等を考慮し、メニューの大幅な変更を行った。結果、現在4テーマ、18メニューを公開している。元年度の利用状況は次のとおりで、安定して利用件数が多いのが1テーマの縄文時代・弥生時代で、通常は気軽に手にできない古代の遺物に触れられる点が人気の要因であろう。逆に企画展示に合わせて設定した三沢遺跡に関するテーマは、設置場所が通常と異なり、サービスの実施が分かりづらかったことが影響してか利用件数が極めて少ない結果となった。利用者別では一般成人が87名と最も多く、次いで小学生以下の54名となる。家族連れの場合は、通常成人と小学生以下の子どもという構成となるので、傾向としては納得できる。中学・高校生の利用が4名と極めて低く、この層に訴求するメニューについても今後考える必要があるだろう。総利用件計は173件で、10月までの第1・3展示室閉室による来館者の減少、および新型コロナウイルス感染症の影響により、3月から臨時休館となったため利用実績が昨年度より大幅な減少となったが、次年度については現在のテーマ・メニューを継続し、利用実績を勘案しながら今後の事業展開を行うこととする。

テーマ	利用件数
1テーマ 縄文時代・弥生時代	71件
2テーマ 古墳時代～中世	60件
3テーマ 近世	21件
4テーマ 近代	20件
企画テーマ 三沢遺跡（期間限定）	1件
利用者数総計	173名

◎体験教室・イベント

当館に親しんでいただき、またあらゆる世代に歴史や文化財を身近に感じていただくことを目的として、各種の体験教室やイベントを開催している。

元年度も恒例の夏休みを中心に、小学生などを対象とした体験教室を中心に、大人にも楽しんでもらえるようにコンサートなども行った。他機関や団体との連携イベントなどの開催し、秋には博物館子ども古代事業「古代体験まつり」を実施した。

○桜コンサート

期日：31年4月7日（日）10：00～16：00頃

主催：桜コンサート実行委員会

共催：九州歴史資料館・三国中校区なかよし地域ネット人権のまちづくり推進連絡会

内容：28年度から共催で実施しているイベントである。地域のまちづくり協議会が共同で立ち上げた実行委員会が開催するもので、地域の個人や団体の参加型のコンサートである。数々の音楽好きの方々が、中庭で素晴らしい演奏やパフォーマンスを繰り広げた。また、当館の古代体験も知ってもらえる機会となり、多くの方が体験を楽しまれた。参加者は829名であった。



桜コンサートの様子

○小郡高等学校琴部演奏会茶道部茶会

期日：31年4月28日（日）11：00～14：00

内容：当館の近隣に所在する福岡県立小郡高等学校の琴部は、外部講師を招いて練習を行う本格的な活動をされている。当館の移転開館記念セレモニーやイベントでの演奏がご縁で、27年度から卒業演奏会当館を会場に開催している。30年度からは茶道部の茶会も加わった。当日は第4展示室を会場に午前中に茶道部の茶会を2席行い、午後には赤い毛氈を敷き、16



小郡高等学校琴部演奏会の様子

名の生徒と教員による優美な琴の演奏が行われた。また、書道部も八角堂で作品展示を行った。参加者は150名であった。

○なるほど！！こども歴史教室(会期:令和元年8月23日(金))

内容：一般来館者のほか、小学生などの児童・生徒にも楽しくわかりやすい博物館を目標に展示、普及活動を行っている。この普及事業の一環として行う本事業は、夏休み中の小学生に歴史や文化財に対する知的好奇心をかきたて、それに応えるものとして行うものである。「関連展示 大宰府と万葉集一大伴旅人・家持と『梅花の宴』」で大宰府政庁から発掘された瓦や埴を見学するとともに、拓本してそれをうちわにする制作を通し、大宰府政庁跡の存在や拓本の役割やその楽しさを子どもたちに分かりやすく伝える。参加者は6人だったが、みな楽しんでうちわづくりにいそしんでいた。なお、教育実習の一環として、大学生が子供たちにうちわづくりの実際の過程を説明した。



子ども歴史教室の風景

○ナイトミュージアム in きゅうれき 夏

期日：元年6月15日(土) 15:30～20:15

内容：閉館後の博物館を見学するという非日常の体験を提供し、夏休みの思い出づくりに寄与することにより、館に対する興味と親しみをもたせる。閉館後から夜間という時間帯を生かし、夜の博物館探検、万葉コンサートを実施した。ホテル観賞も計画したが、天候と時期が遅かったことから中止した。39名が参加した。



万葉コンサートのポスター

○きゅうれき七夕イベント

期日：元年8月3日(土)

内容：当イベントは、幅広い層に楽しんでいただく内容にすることで、地域の方々に来館してもらい、当館の事業を理解してもらう機会としたものである。本年度は、小郡市で活動する午前スタジオM2によるキッズダンス、午後は児童劇団つばさとバンブーオーケストラ主宰者荒川秀毅氏によるケーナの演奏、小郡市で活動するライフステージvivos「ノーマライゼーションコンサート」を実施した。300名の参加があった。



スタジオM2によるキッズダンスの公演

○九州歴史資料館特別展記念茶会 & 第5回あすみマルシェ

期日：元年10月27日(日) 10:00～15:00

内容：九州歴史資料館では、元年10月12日(土)から12月8日(日)の会期で、特別展「久留米ーその歴史と文化ー」を開催した。その開催を記念して企画した本茶会は、小郡市文化協会裏千家との共催で平成25年度から特別展開催期間中に実施しているもので、元年度は西鉄あすみパビリオンのあすみマルシェを同時開催し相乗効果を図った。なお、当日は久留米市教育委員会によるからくり人形弓曳き童子の実演も実施し、384名が参加した。



記念茶会のポスター

○文化財めぐり(令和元年11月24日(日))

内容：特別展「久留米ーその歴史と文化ー」に關係して、バスツアー「久留米の伝統工芸を楽しむ」を企画した。本展覧会では、かつて生産されていた柳原焼などの茶道具や現在でも久留米で生産されている久留米絣や藍胎漆器などを展覧したので、その生産や販売現場を見学し、実際に工芸品に触れる機会を持つ文化財めぐりとなった。当日は、当館で特別展を見学し昼食後にバス

に乗り込み、有馬記念館「大名の風流 有馬家ゆかりの茶道具」を見学、学芸員の方の話を聞き、青木繁生家および榊井上籃胎漆器の見学(スペースの関係で参加者を半々にして交代で見学、いずれもボランティアの方や店員の方のお話を聞く)、久留米緋の松枝哲也氏、松枝小夜子氏の工房「藍生庵」にて実際の久留米緋の生産についてお話を伺い、その現場を見学した。39名参加(事務局含む)。



文化財めぐりの様子

○アクロスミュージアムコンサート

期日：元年 11 月 10 日（日）13：30～15：30

内容：アクロス福岡との共催事業で実施している事業で、例年特別展に合わせて開催記念イベントとしてしている。博物館でプロのアーティストによる本物の音楽に触れてる機会を作ること、当館に親しんでいただくとともに、特別展を観覧いただき、本県の歴史や文化への理解の深化と文化財保護思想の普及に資することを目的とした。

大人から子どもまで広い年代の方に楽しんでもらえるように、著名な楽曲である「愛の挨拶」「赤いスイートピー」「ずいずいずっころばし」などを、山口大輔（パーカッション）、八谷和歌子（パーカッション）、藤田一行（パーカッション）の3名によりパーカッションアンサンブルを奏でいただいた。参加者は171名であった。



アクロスミュージアムコンサートのポスター

日程	プログラム
13：30～14：00	アクロスミュージアムコンサート 第1部
15：00～15：30	アクロスミュージアムコンサート 第2部

○博物館子ども古代体験推進事業「古代体験まつり」

期日：元年 11 月 30 日（土）10：00～15：00

内容：過去にボランティアバス研修で訪れた県内の3つの博物館・資料館と、関係の深い機関が行っている古代体験を招聘して当館で一日で体験できるようにした。糸島市伊都国歴史博物館からは「銅鏡・銅剣・巴形銅器の铸造体験」、宗像市海の道むなかた館からは「土笛作り」、八女市岩戸山歴史文化交流館からは「石庖丁作り」と「弓矢体験」、小郡市埋蔵文化財調査センターからは「印鑑作り」、春日市奴国の丘資料館からは「勾玉作り」と「奴国せっけん」が出展し、当館からも新しく導入した「竪穴住居組み立て体験」とイベントメニューの「復元石館発掘体験」「機織り体験」、人気の「古代衣装試着」・「ぎっ



北野たけし画展示の様子



古代体験の様子

ちょう」・「投壺」を出展した。また、北野たけし氏の絵画を当日だけエントランスで展示し、150名の参加があった。

○ナイトミュージアム in きょうれき 2019 冬 & おもちゃ病院 in 九州歴史資料館

期日：元年 12 月 22 日（日）15：30～20：00

内容：閉館後の博物館を見学するという非日常の体験を提供し、冬休みの思い出づくりに寄与することにより、館に対する興味と親しみをもたせる。閉館後から夜間という時間帯を生かし、青少年科学館職員によるサイエンスショーと科学工作教室、夜の博物館探検、おはなし会を実施した。同時におもちゃ病院 in 九州歴史資料館を開催し、好評を博した 51 名が参加し、おもちゃ病院にも 17 名が参加した。



○いつでもまち旅「バックヤードツアー in 九州歴史資料館」

主催：久留米まち旅博覧会事務局

共催：九州歴史資料館

青少年科学館による科学工作教室のようす

おもちゃ病院のようす

内容：「いつでもまち旅」は、久留米まち旅博覧会事務局主催の事業で、自元に暮らす人々が普段から慣れ親しんだ地域の宝物で、自らが訪れる人をもてなす手作りの旅プランをコンセプトに行っている。当館は平成 26 年度から「いつでもまち旅」に参画しており、一般の来館者が立ち入ることのできない博物館の裏側を学芸員が案内するバックヤードツアーと本物の瓦を用いた拓本のブックカバーの作成を行っている。参加人数は約 10 名であった。

◎その他の機関・団体との共催事業

普及・活用事業にはその他の機関・団体との共催事業があるが、当館を会場としたものについては（6）の項に掲載し、ここでは館外で実施された事業を掲載する。

○全国歴史民俗系博物館協議会

7 月 11 日（木）・12 日（金）に、札幌市において全国歴史民俗系博物館協議会（歴民協）の第 8 回年次集会が開催された。11 日は北海道博物館にて総会と研究集会が行われ、12 日は施設見学会があった。北海道から沖縄におよぶ全国の博物館関係者を中心に、85 名が参加した。

歴民協は、23 年 3 月 11 日の東日本大震災をきっかけに設立され、全国を 9 つのブロックに分け、館長が設立の呼びかけ人となった 12 館が、各ブロックの幹事館となった。九州ブロックは、九州国立博物館と九州歴史資料館が幹事館を務めている。

1 日目の総会では、令和元年度の活動方針をめぐって、とくに歴民協独自の目的、活動の方向性を整理、検討して行く必要があるという点が話し合われた。例えば、災害時の被災情報の共有も他の博物館の連携団体でもやっていることであり、後発の団体である歴民協に対して、加盟館が何を期待しているのか、アンケートをとり、再検討しても良いのではないかという意見も出された。事務局からは、検討して行くという回答があった。

さらに、日本博物館協会理事から、文化財保護法の改正や文化財防災ネットワークによるガイドラインの検討など、日本の博物館は、今、大きな潮目にさしかかっているとの指摘があった。国じたい大きな方針転換をしつつある。一方で歴史民俗系博物館は、小規模な館が多く、また日本全体の博物館の裾

野を支えており、たくさんの課題を抱えている。基礎にある自治体の運営実態が、国の描いている構図（文化財保護行政）と乖離しているとも述べられた。

午後の研究集会では、「歴史・文化の継承」をテーマとする5本の報告と、報告者をパネラーとする討論があった。報告はアイヌ民族の文化保存や、樺太から引き揚げてきた人々、とくにウィルタと呼ばれる北方民族の文化保存など、文化の担い手がどんどんいなくなっている状況の中での課題であり、北海道ならではの問題を取り上げていた。新鮮な内容であり、かつ大変に重いテーマでもあった。

2日目は、開催地の施設見学会を実施している。今回は、北海道開拓の村を見学した。開拓の村には、明治から昭和初期の建造物を創建時の姿で、52棟あまりが復元されており、建物内でのくらしの様子を再現した展示も行っている。開村から今日までの経緯、昨年9月5日の台風被害、翌6日の胆振東部地震による被災についての概要報告があり、その後、施設を案内していただいた。

昨年の被災後の修理の状況や、インバウンド対応の展示、建物維持の観点から、創建時の屋根材料（木材）ではなく、板金で修理した牛舎など、詳細な説明があった。

○第9回九州山岳霊場遺跡研究会「高良山と筑後の山岳霊場遺跡」

主催：九州山岳霊場遺跡研究会

共催：久留米市・九州歴史資料館

後援：高良大社・久留米市教育委員会・日本山岳修験学会

期日：令和元年8月24日（土）・25日（日）

参加人数：1日目49名・2日目157名

内容：8月24日（土）

現地研修会（高良大社・高良山・福聚寺）

8月25日（日）

研究集会（久留米商工会館5階大ホール）

趣旨説明「高良山と高良大社―山岳信仰からの視点―」

研究報告1「高良山の祭神と伝説」（吉田扶希子）

研究報告2「古代の高良山」（酒井芳司）

研究報告3「高良山山岳霊場遺跡の平面構造―縁起絵・絵図・現地遺構―」（岡寺 良）

研究報告4「高良玉垂宮の仏教美術」（國生知子）

研究報告5「高良山周辺の古代遺跡」（神保公久）

シンポジウム「高良山と高良大社―山岳信仰からの視点―」

○斎宮歴史博物館連携公開講座念

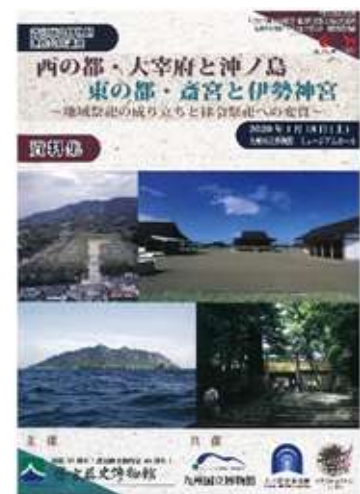
斎宮は、時の天皇に代わって伊勢神宮に仕える皇女の宮殿および役所群からなる古代の公的機関である。三重県立斎宮歴史博物館では昭和45年から発掘調査を実施しており、その成果発信の一環として全国の自治体と連携して公開講座を開催している。

本館では斎宮歴史博物館と連携して下記内容の公開講座を開催した。
タイトル：「西の都・大宰府と沖ノ島 東の都・斎宮と伊勢神宮～地域祭祀の成り立ちと律令祭祀への変質～」

会期：令和2年1月18日（土）

場所：九州国立博物館ミュージアムホール

内容：斎宮と大宰府について遺跡紹介を行った後、愛知教育大学西宮秀紀名誉教授に基調報告をいただいた。その後、考古資料からみた伊勢神宮と沖ノ島祭祀遺跡をそれぞれ報告し、総括としてシンポジウムを開催した。参加者数270名。



斎宮歴史博物館連携公開講座
念のポスター

○九州歴史資料館・三沢遺跡の森 自然体験活動

主催：NPO法人三沢遺跡の森を育む会

共催：九州歴史資料館

当館に隣接する県指定史跡三沢遺跡とその周辺の自然環境保全を目的として25年度に発足したNPO「三沢遺跡の森を育む会」と当館の共催事業として周辺住民への啓発活動を元年度も開催した。元年度は谷部で水田を作り、田植え体験を実施した。恒例の燭燭キャンドルイベントは、応募者が定員を超えたことから急遽2回目を実施した。イベントを通じて三沢遺跡の森ばかりでなく、自然環境保全の意識を育むことを目指した。



稲作体験事前説明の様子

開催日、内容、参加人数は以下のとおりである

開催日	内容	参加人数
6月26日（日）	のぞみが丘小学校稲作体験（共催）	116名
12月15・22日（日）	燭燭で作るマイキャンドル（共催）	130名

（7）重点施策

◎福岡国際交流史発信事業

（1）弥生時代の福岡の国際交流

○歴史観光ボランティア養成研修

本事業では、県内で活動している歴史観光ボランティアを対象に、ボランティアの知識の習得と技術・意識の向上を図り、文化財の保存・活用に対する意識の醸成と、観光客の増加に資すること等を目的として、初回研修を当館で、巡回研修を、県内7か所の歴史資料館で実施した。最後に当館で実施する予定であった総括研修は中止となった。

研修の内容は、専門家による魏志倭人伝に関する内容についての講話（魏志倭人伝の記載内容、主な遺構や遺物、最新の研究動向）と実際にボランティアとして活動する上での悩み等について、参加したボランティア団体同士で交流を行った。参加団体は全部で28団体、延べ参加人数は240名であった。本事業の成果としては、魏志倭人伝にかかわる県内の史跡等についての講演を通して、「魏志倭人伝のクニグニ」に関する理解を深めることができたこと等であった。課題としては、ボランティア団体同士の交流において、課題についての具体的な解決案を見出すまでには至らず、よりよい交流の在り方を考える必要があること等であった。

開催日	内容	会場	参加人数
9月27日（金）	初回研修	九州歴史資料館	26名
10月29日（火）	巡回研修1 福岡北部地区	奴国の丘歴史資料館	20名
11月7日（木）	巡回研修2 福岡東部地区	海の道むなかた館	38名
11月12日（火）	巡回研修3 喫筑後地区	甘木歴史資料館	14名
11月25日（月）	巡回研修4 京築地区	行橋市歴史資料館	21名
12月6日（金）	巡回研修5 南筑後地区	岩戸山歴史文化交流館	13名
12月12日（木）	巡回研修6 北九州・筑豊地区	飯塚市歴史資料館	31名
12月20日（金）	巡回研修7 福岡西部地区	伊都国歴史博物館	33名
3月18日（水）	総括研修	九州歴史資料館	中止
計			196名

（２）古墳時代の福岡の国際交流

沖ノ島と関連遺産群から出土した玉類の調査研究の実施

○沖ノ島から出土した玉に関する調査

古代歴史文化にゆかりの深い全国 14 県からなる「古代歴史文化協議会」では、平成 26 年度から 30 年度まで「古墳時代の玉類」の調査研究を実施し、その成果を広く発信し公開活用に努めてきた。その成果を県内の文化財保護に活かすため、元年度には宗像大社神宝館に保管される玉類の調査研究を行った。

（３）古代の福岡の国際交流

○大宰府史跡 100 年記念映像資料の作成・フォーラムの開催

2 年度は大宰府史跡が指定されてちょうど 100 年にあたる。その節目を記念して、大宰府史跡に関する映像を元年度・2 年度で製作する。元年度は各史跡の主要箇所について撮影し、簡単な編集作業を行った。

また、100 年の節目を記念して大宰府とともに日本の文化財保護行政をけん引してきた宮城県多賀城跡と連携し、東京でフォーラムを開催する計画だったが、コロナウィルス対策のため中止となった。事業内容は以下のとおり。

タイトル：大宰府史跡指定 100 年記念フォーラム『大宰府と多賀城』

会期：2 年 2 月 29 日（土）

場所：明治大学アカデミーホール（1, 100 名収容）

内容：記念講演「律令制国家の辺要政策」明治大学教授 吉村武彦

基調講演「大宰府と多賀城」東京大学名誉教授 佐藤信

報告 1 「西の拠点 大宰府」九州歴史資料館 酒井芳司

報告 2 「東の拠点 多賀城」宮城県教育委員会 吉野武

報告 3 「古代都市 大宰府」太宰府市教育委員会 井上信正

報告 4 「古代都市 多賀城」多賀城跡調査研究所 高橋透

パネルディスカッション「大宰府と多賀城」：報告者及び九歴館長・多賀城所長

コーディネーター 東京大学名誉教授 佐藤信・国立歴史民俗博物館副館長 林部均

期間：2 年 2 月 25 日（水）～ 29 日（土）

なお、フォーラムに関連して明治大学アカデミーコモン展示スペースでパネル展「大宰府史跡のあゆみ」を開催した。

内容は以下のとおり。

会期：2 年 2 月 25 日（火）～ 29 日（土）

場所：明治大学アカデミーコモン展示スペース（アカデミーホール 1F）

内容：大宰府史跡を紹介するポスター 18 点を掲示



明治大学フォーラム予稿集



大宰府パネル展（明治大学展示スペース）

（４）江戸時代の福岡の国際交流

○朝鮮通信使総合調査

・ホームページの作成

30 年度に県立図書館から移管された、黒田家文書（総数 597 件、1, 016 点）のうち、元年度は、ユネスコ世界の記憶登録資料 15 点（『朝鮮人來聘記』11 冊、『朝鮮人帰国記』4 冊）について紹介するホームペー

ジのデータを制作した。

ユネスコ世界の記憶や黒田家文書、黒田家文書の中の朝鮮通信使記録について解説し、あわせて、世界の記憶登録資料全帖の写真と釈文をウェブ上で閲覧・検索を可能とするデータベースを作成した。データベースを作る際には、既存の翻刻文を原文書の写真と照合し、検証と校正を行った新たな翻刻文を掲載した。また日本語ページの他、韓国語と英語のページも制作した。

完成したホームページは、2年度に公開予定である。

○朝鮮通信使関連遺跡群調査

福岡県糟屋郡新宮町の相島は、朝鮮通信使が立ち寄った島であるが、島内には滞在した通信使をもてなした客館の跡などの関連遺跡があり、「朝鮮通信使関連遺跡群」として新宮町の指定文化財（記念物）となっている。本事業では、これら関連遺跡群の考古学的なデータを得るため、二ヶ年で調査を実施することとした。二年目の元年度は、通信使の随行者が上陸したとされる前波止の石垣、ならびに福岡藩の遠見番所の伝物見櫓の石垣の測量調査（レーザー計測）ならびに周辺測量調査を実施した。2年度は、報告書を作成する予定である。

◎ふくおか歴史文化体験事業

①キッズミュージアム

○三沢遺跡を活用した弥生時代の生活体験学習エリアの整備

三沢遺跡は遺跡公園として整備し、館と連携して活用していくが、防災防犯の観点から復元住居を設置せずに、遺構プランの表示に留める予定である。そこで復元住居に変わるものとして、竪穴住居組み立てキットを2基購入し、来館学習での見学やイベントでの組立に提供した。一定の空間があれば屋内でも設置でき、天候に左右されないため、古代体験まつりでは東庭に、中学生職場体験では中庭に、小学校来館学習では新収蔵庫に、NHK福岡の取材では第4展示室に、中学校社会科研究会ではエントランスに設置した。



古代体験まつりでの竪穴住居組み立て

○キッズミュージアムパネル製作

当館では毎年春に小学6年生の歴史学習を支援するため企画展「きゅうおにとタイムトラベル」を開催している。その展示パネルの充実を図るとともに、開催期間外でも子どもたちが歴史を楽しく学べるようにキッズミュージアムコーナーを設けることにした。今回、製作したパネルは、常設展示の内容を理解してもらうための「経塚のおはなし」「仏像のおはなし」「古文書のおはなし」「境内絵図のおはなし」「焼き物のおはなし」パネル、イラストを使って床下の遺構展示を紹介するパネル、「令和」で脚光を浴びた大伴旅人の生涯をたどりながら大宰府史跡を紹介した「大伴旅人の大宰府ものがたり」パネルなどを製作した。また、「きゅうおにとタイムトラベル」のパンフレットの改訂版も作成した。

○自然環境を生かした体験エリアの整備

元年度は、屋外展示エリアの整備を実施した。本館周囲の遊歩道西側に祇園山2号墳下部箱式石棺墓（南棺）1基、東側には五輪塔3基の屋外展示物の設置を行った。祇園山2号墳下部箱式石棺墓は、久留米市御井町高良山に所在し、昭和※年に九州縦貫自動車道建設に伴い調査された。石棺墓の遺存状態が良好であったため、将来復元設置を行うために棺材を保存していたものである。九歴ボランティア制作の復元石棺墓の北側に配置し、説明版と安全柵を設けた整備を行った。

五輪塔は、3基のうち向かって右側2基が故岩崎光氏寄贈資料のもので、八女地域から出土した五輪塔で、凝灰岩製のものである。左端のものは、東九州自動車道建設に伴う下唐原居屋敷遺跡（築上郡上

毛町) 出土品で、花崗岩製である。新収蔵庫内の収蔵展示、石人模造品と連動して、屋外展示エリアの充実を図った。



祇園山古墳下石棺墓



五輪塔

○学校教育との連携による指導要領に沿った学習メニューの開発と提供

福岡県内の主な文化財・年中行事資料集

令和2年度より完全実施となる小学校学習指導要領では、社会科の内容構成の改善として、第4学年で、自分たちの県を中心とした地域を学習対象として取り上げることとなった。県内の伝統や文化に関する内容については、内容の取扱いにおいて、「県内の主な文化財や年中行事が大まかに分かるようにする」ことが示された。

しかし、実際に授業を行うときに、「県内の主な文化財や年中行事」として何を取り扱えばよいのかや、教材開発に困難さを感じている先生方も少なくない。そこで文化財保護課や当館の機能をいかし、県内の主な文化財や年中行事についての資料集を作成することで、先生方が抱える負担感を軽減する。さらに、地域社会に対する誇りと愛情をもった児童・生徒を育成するという県の機関としての役割も果たせると考え、本事業を行った。



ホームページのバナー

元年度に作成した項目

32	史跡 福岡城跡	37	無形文化財 博多織
33	史跡 求菩提山	38	有形文化財 関門ノスタルジック海峡
34	重要伝統的建造物群保存地区 うきは筑後吉井	39	有形文化財 首羅山遺跡の中国系石造物
35	世界遺産 山本作兵衛コレクション	40	有形文化財 浮嶽神社の古仏群
36	無形文化財 博多人形	41	有形文化財 太宰府天満宮の絵馬

作成に当たっては、文化財保護課や世界遺産室の職員にも執筆を依頼し、専門的な見地から福岡県内の文化財や年中行事について分かりやすく解説してもらい、それらを通して見えてくる福岡県の特徴について理解しやすい資料集となるようにした。ホームページに掲載しているものは以下のとおりである。

②歴史文化の森

○県指定史跡三沢遺跡の学術調査

三沢遺跡は、背振山系から東にのびる通称「三国丘陵」の東端部付近に位置する。標高 30 ～ 40 m の低丘陵が続き、ヤスデの葉状に細い尾根と深い谷が入り組んだ地形が特徴的である。昭和 46 年、九州

縦貫自動車道の建設のための土取場の候補地となったことを受け、当時の福岡県文化課による試掘調査が行われた。結果、弥生時代の集落跡が良好な状態で検出され、昭和 53 年、約 11ha が福岡県指定史跡に指定され、保存されることになった。

九州歴史資料館が小郡に移転・開館し、三沢遺跡と一体となった整備・活用を図るための基礎資料を得るため、令和元年度より遺跡の確認調査を実施することとなった。本年度は初年度にあたり、集落の中心部と想定される指定地内の西端の最も高い部分である標高約 60 m の丘陵で行った。試掘調査時の I・J 地区に該当する。丘陵頂部付近の平坦な部分に約 1,400 m² について重機で表土の掘削を行った他、周辺に 3 本のトレンチ計約 100 m² の掘削を行った。



写真：三沢遺跡全景

調査の結果、丘陵頂部付近は削られており、最終的に竪穴住居跡 2 棟、貯蔵穴 1 基、土坑 11 基、ピット多数、溝 1 条を検出した。うち、弥生時代前期～中期の竪穴住居跡 1 棟、貯蔵穴 1 基、土坑 1 基、溝 1 条の調査を行い、それ以外の遺構は保存のために調査を行わなかった。

また、本調査期間中の 11 月 10 日（日）には小郡市立三国小学校歴史クラブの生徒、同月 21 日（木）には筑紫野市立二日市中学校および春日市立春日南中学校の職場体験生を対象として体験発掘を実施した。

次年度は丘陵縁辺部で一部を確認した溝状遺構を中心に調査し、機能の特定をする予定である。

2 福岡みどころ文化財発信事業

①文化財情報データベース

○報告書・写真のデジタル化

今年度から令和 3 年までの 3 カ年をかけ、過去に福岡県が発掘調査を実施し、調査報告書として刊行した約 600 冊についてデジタル化を行い、順次公開することとした。あわせて、発掘調査の成果（現場・出土遺物）を撮影した銀映フィルムの写真資料をデジタル化し、記録の保存、および活用に資するための事業を開始した。初年度にあたる本年は、九州横断自動車道関係をはじめ、国道バイパス等の発掘調査報告書及び写真資料を中心に整理を行い、デジタル化の作業を行った。電子化を行った報告書については順次 HP 等を利用して公開し、写真資料については整理が整い次第、借用や公開など広く活用できるよう図っていく。

3 ネオ・ミュージアム快適事業

快適空間の創出

○観覧補助設備の整備

一般的に、博物館の展示の解説パネルの大人向けで子供には難しい内容である。当館では企画展「きょうおにタイムトラベル」を毎年実施し、来館学習時期にあわせて小学生向けの展示を行っているが、それ以外の展示物は職員やボランティアの解説で補っている。また、表記が繁多になることから多言語表記を行っておらず、高齢者には文字が小さいものもある。そこで、観覧を補助するタブレットを 20 台導入した。



タブレットと搭載アプリケーション

常設の展示物の解説を、子ども用の文章と多言語で提供し、高齢者には拡大表示や音声読み上げによりわかりやすくするとともに、用語の解説や関連する画像も提供する。

さらに、名誉館長講座などの動画も視聴できるようにして、来館者の要望に応える予定である。

(8) 広報活動

◎一般向け広報

当館では、25 年度から学芸調査室に「広報普及班」を設置し、幅広い手段や媒体を活用して広報活動を行っている。例年は有料広告や大々的な広報は難しいものの、元年度は予算の関係から 1 月末に有料広報を実施できた。無料広報としては、ホームページやポスター・チラシはもとより、公共の広報誌や民間のフリーペーパー、インターネット情報サイトなど様々な媒体を活用し、近隣施設には直接訪れて広報資料の掲示協力を依頼するなどして展示やイベントの周知を行っており、特に 30 年度からは近隣の 3 つの公民館では回覧板に添付してもらうことにした。こうした周知方法では、展示やイベントの企画内容や対象とする世代に合わせて、毎企画ごとに配布先、周知方法を考慮するなどの工夫もしている。さらに、マスコミ関係には展示等の情報を提供するとともに、取材と情報紹介について依頼を行っている。

また、来館者の利便性を考慮した広報を心がけ、文化情報広場に講座関係のチラシや資料を集めて。当館が展示と講座の情報の発信源となるよう工夫を行っている。

○有料広報

特別展「久留米ーその歴史と文化ー」

- ・西鉄駅ポスター掲示 8 クール
- ・朝日新聞 10 月 9 日 ふるさと NEWS 枠

企画展三題・「太宰府天満宮の境内絵図ーさいふまいの江戸・明治ー」

- ・朝日新聞ふるさと NEWS 1/22・28
- ・ドリームス FM 久留米六角堂デジタルサイネージ 2 週間
- 企画展「太宰府天満宮の境内絵図ーさいふまいの江戸・明治ー」
- ・西日本新聞 2 年 1 月 26 日 ニュースバリュータイトル枠
- ・朝日新聞
- ・毎日新聞・読売新聞 朝刊連合ミュージアムガイド 3 月枠
- ・久留米地域情報誌『ノーマジーン』2 月号 topic's ページ

2 月の企画展示

◎他施設等との相互広報

他施設や団体との連携については、県内各市町村の博物館・資料館を紹介することを目的として、各館にご協力いただき統一的な各館の紹介チラシを掲示している。予算の関係で配布はできないものの、当館ホームページや館内で紹介し、県内施設での相互広報などのネットワークの構築を進めている。今後は相互リンクや広報資料の共有などを進めていく予定である。

○大野城市こころのふるさと館 1 周年記念イベント

主催：大野城市こころのふるさと館

会期：30 年 7 月 23 日（火）

会場：大野城市こころのふるさと館 3 階

内容：大野城師こころのふるさと館 1 周年記念イベントで、近郊の博物館等やもの作り作家やアーティストによるワークショップを実施した。当館は古代体験で使用している拓本・政庁パズル・土器パズルの体験ブースを出



心のふるさと館オープニングイベント風景

店し、80名の参加があった。

○県庁夏休み子ども企画「わたしたちの福岡県展 2019」

主催：福岡県県民情報広報課

会期：元年 8月 19日～8月 23日

会場：福岡県庁 1階ロビー

内容：福岡県県政情報課主催の夏休みイベントで、各課や出先機関がブースを設けて来庁することも対象のパネル展示や体験イベントを実施するものである。当館は「きゅうおにとタイムトラベル」のうち、奈良時代の2枚のイラストパネルを掲示し、大宰府政庁の屋根に葺かれた大宰府式鬼瓦の実物大石膏レプリカを展示し、自由に触ってもらい立体感と質感を感じることが出来る展示を行った。また、8月19日にはワークショップとして古代体験の土器パズル・鬼瓦パズル・政庁パズル・投壺を体験できるブースを設置し、59名の参加があった。



夏休み子ども企画展示風景

○県政PR展示

主催：福岡県立図書館

会期：元年 4月 12日（金）～5月 30日（木）、8月 7日（水）～8月 30日（金）

会場：福岡県立図書館 1階ロビー

内容：県立図書館では、本館 1階第 1 閲覧室で県政に関わる PR 活動とともに関係する書籍を展示する事業を行っている。元年度は、4月に「大宰府と万葉集」に係る展示を、8月に「夏の催し物の押お知らせ」のポスターを掲示した。



県政PRでのパネル展

○アクロス福岡コミュニケーションエリア利用広報

主催：アクロス福岡

会期：元年 10月 26日（土）～11月 1日（日）

会場：コミュニケーションエリア

内容：アクロス副科では、コミュニケーションエリアで自治体や文化施設の企画展示やイベントを実施している。元年度は、期間中に特別展「久留米ーその歴史と文化ー」と関連イベントのポスター展示と大型スクリーンでの展示画像の上映し、26・27日には出張古代体験を実施した。



アクロス福岡コミュニケーションエリアでのパネル巡回展

○博学連携、学習支援に向けた広報

教室では味わうことのできない感動ある学習が、博物館を活用することによって可能となる。実際にむかしの人がつくり、使っていた出土品などの展示資料にふれる学習を1校でも多く、1人でも多く体験してもらえよう、当館の活用を呼びかける広報を行っている。

年度初めの小郡市校長会をはじめ学校支援に向けた広報資料「小学校・中学校による活用のご案内」の配布、学校訪問、研修会、棚入れや郵送など、様々な場、方法で広報を行い、館の活用促進を図った。

30年度の活用実績が来館学習9校、スクールミュージアム事業3校、職場体験13校、出前授業1校に対し、元年度は来館学習10校、スクールミュージアム事業6校、職場体験12校、出前授業7校であった。今後も、更に多くの学校による活用をめざしていきたい。

このほか元年度に行った主な広報は以下のとおりである。

- ・ホームページ・ツイッターの情報更新・管理
- ・ポスター・チラシの配布：歴史関係施設・団体、企画内容に則した団体、主催・共催や講師派遣先の講演会・講座参加者、他機関の講演会・イベント等、書店等の店舗
- ・県・市の広報媒体への情報掲載：教育福岡・福岡県だより・グラフ福岡・広報おごおりほか
- ・歴史系専門雑誌、イベント情報雑誌への情報掲載：「博物館研究」「古代文化」ほか
- ・情報サイトへの情報提供：イベントバンク・いこーよ ほか
- ・特別展・企画展開催直前のマスコミ向け内覧会の開催など情報提供
- ・県庁行政棟 1 階県民ホールでのポスター、デジタルサイネージの掲示

なお、館のアピールを行うため、29 年度から継続して「福岡県観光パスポート（ふくおかよかところパスポート）」と「ミュージアム周遊パス」に参加した。

「福岡県観光パスポート（ふくおかよかところパスポート）」は福岡県が、株式会社日本旅行へ委託し、観光客の動向調査及び県内周遊を目的として実施する事業である。「ミュージアム周遊パス」は大規模スポーツ国際大会の開催を契機として、九州各県の美術館・博物館等文化施設への周遊を促進する取り組みで、参加して施設情報を掲載した。

（９）実習・研修

◎実習

○博物館実習

元年度は 4 大学から 7 名の大学生を受け入れ、8 月 20 日（火）～ 8 月 30 日（金）の 10 日間、下記の内容で実施した。（8 月 25 日（日）は休み）

参加した実習生の在籍校および人数は以下のとおりである。



実習のようす

大学名	学部名	学科名	実習生（名）
久留米大学	文学部	情報社会学科	2
		国際文化学科	1
筑紫女学園大学	文学部	アジア文化学科	1
福岡大学	人文学部	歴史学科	1
佐賀大学	芸術地域デザイン学部	地域デザインコース	2

日 程	午前	午後	担当
第 1 日	開講式・オリエンテーション 9:30 西谷正名誉館長講和	13:00 講話「学芸員の実務」 14:00 施設見学	広報普及班 学芸研究班
第 2 日	大宰府史跡の見学		調査研究班
第 3 日	遺跡の調査と測量		調査研究班
第 4 日	考古資料の取り扱い（兼こども歴史教室）		学芸研究班
第 5 日	9:00 教育普及（古代体験） 15:00 教育普及（パネル展準備）		広報普及班
第 6 日	資料の保存修復と保管		保存管理班
第 7 日	美術工芸資料の取り扱い		学芸研究班
第 8 日	博物館の保存環境	図書資料整理	保存管理班 学芸研究班

第9日	歴史資料の取り扱い		学芸研究班 広報普及班
第10日	資料の写真撮影	実習のまとめ・閉講式	写真室 広報普及班

◎令和元年度福岡県文化財担当職員研修「埋蔵文化財発掘調査基礎研修」¹

昨年までは県内市町村文化財担当職員の埋蔵文化財の調査・事務処理の知識および技術の向上を目的として、発掘調査等の実務経験が少ない新採職員等を対象とした基礎研修を実施していたが、一度研修内容を見直すために実技中心の基礎研修は休止し、代わりに文化財保護法改正等に伴い、文化財保護制度への研修として、文化庁より近江俊秀文化財主任調査官を招いて1回の行政基礎講座を実施した。講義内容については以下のとおりである。

開催日：令和元年6月19日（水）

会場：九州歴史資料館研修室

講義内容：

講義1：「埋蔵文化財保護の制度と行政1」 文化庁

講義2：「埋蔵文化財保護の制度と行政2」

講義3：「埋蔵文化財行政を担う体制」

講義4：「埋蔵文化財発掘調査等に係る補助制度」

講義5：「埋蔵文化財保護行政の現状と課題」

講義6：「福岡県における埋蔵文化財保護行政」福岡県文化財保護課

講義7：「近代以降の埋蔵文化財保護に向けた取り組み」九州歴史資料館

なお、次年度以後の研修の内容や参加対象、実施回数等を検討するため、昨年度研修修了後に全市町村を対象として実施したアンケート調査を参考に、令和2年度には新たに基礎研修を実施する予定である。

(10) 刊行物一覧

元年度は以下の報告書等を刊行した。

No.	書名	刊行月
1	『九州歴史資料館研究論集 45』	3月
2	『九歴だより N0. 49』	4月
3	『九歴だより No. 50』	10月
4	『久留米—その歴史と文化—』	10月
5	『太宰府天満宮の境内絵図—さいふまいの江戸・明治—』	1月
6	『九州歴史資料館解説シート 74 シルクロードの文化遺産 3—海の道—』	6月
7	『九州歴史資料館解説シート 75 福岡鉄道遺産ものがたり 7—筑後地区編—』	9月
8	『九州歴史資料館解説シート 76 福岡の工芸 1 甘木絞り』	12月
9	『大宰府政庁周辺官衙跡Ⅻ』	3月
10	『福岡県文化財調査報告書第 272 集 三明寺古墳群』	3月
11	『福岡県文化財調査報告書第 273 集 中原遺跡』	3月
12	『福岡県文化財調査報告書第 273 集 福岡県の戦争遺跡』	3月
13	『船原古墳の世界』	12月
14	『X線 CT スキャナによる船原古墳出土遺物の研究』	3月
15	『彦山六峰・等覚寺の山岳信仰の研究』	3月

(11) 交流事業

◎日韓学術文化交流事業

福岡県教育委員会では、アジア文化交流センターからの執行委任事業として、百済・新羅の調査研究を行っている韓国国立文化財研究所との間で職員の相互派遣による学術交流事業を行っている。

元年度は新型コロナ感染予防のため本事業を中止した。

(12) 協議会等

◎九州歴史資料館協議会

元年年7月24日（水）に森会長ほか8名の委員が出席して協議会を開催した。

○協議・報告事項

- 1 報告事項 30年度事業報告
- 2 協議事項 元年度事業計画、元年度九州歴史資料館自己評価表（計画段階）

九州歴史資料館協議会委員名簿

令和元年6月1日現在

	氏 名	所 属
（会長）	森 醇一朗	元久留米大学比較文化研究所客員教授
（副会長）	藤口 悦子	鍋島報効会徴古館副館長
委 員	河上 信行	河上建築事務所所長
	佐古 和枝	関西外国語大学教授
	柴田 博子	宮崎産業経営大学教授
	小林 知美	筑紫女学園大学准教授
	清武 輝	小郡市教育委員会教育長
	樋田 京子	太宰府市教育委員会教育長
	高妻 洋成	奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター長
	木川 りか	九州国立博物館博物館科学課長
	中野 等	九州大学院比較社会文化研究院教授
	工藤 正則	小郡市立三国中学校長
	古賀 淳子	大野城市立平野小学校長
	黒田 修三	宇美町立図書館長

2 九州歴史資料館概要

(1) 沿革

昭和 43 年 7 月 7 日	大宰府史跡発掘調査指導委員会が発足し、第 1 回委員会が開催される。
昭和 44 年 9 月 5 日	福岡県が、九州歴史資料館設置計画の基本構想を発表
昭和 46 年 3 月 8 日	太宰府天満宮が九州歴史資料館・国立博物館用地として社有地約 14 万㎡を寄贈 福岡県は九州歴史資料館を建設することとし、建設工事に着手
昭和 47 年 3 月	建設工事竣工（落成式）
昭和 47 年 4 月	「福岡県公の施設及び管理に関する条例」に基づき九州歴史資料館設置 「九州歴史資料館組織規則」制定 副館長以下 19 名発令
昭和 47 年 5 月	鏡山猛、初代館長に就任
昭和 47 年 11 月	「九州歴史資料館協議会規則」制定（委員 15 名を委嘱）
昭和 48 年 2 月	「九州歴史資料館の利用に関する規則」制定
2 月 24 日	九州歴史資料館開館（展示室一般公開開始まる）
昭和 49 年 8 月	求菩提資料館開館
昭和 50 年 9 月 4 日	博物館相当施設（相当施設第 9 号）
昭和 53 年 10 月	大宰府史跡発掘調査 10 周年記念特別展「一甦る遠の朝廷—大宰府」開催
昭和 56 年 4 月	田村圓澄、第二代館長に就任
昭和 59 年 4 月	開館 10 周年記念特別展「国宝観世音寺鐘・妙心寺鐘とその時代」開催 開館 10 周年記念シンポジウム「古代の西海道と大宰府」開催
昭和 60 年 4 月 1 日	「九州歴史資料館条例」施行 求菩提資料館・甘木歴史資料館・柳川古文書館を分館とする
昭和 60 年 5 月 25 日	甘木歴史資料館開館
昭和 60 年 10 月 1 日	柳川古文書館開館
昭和 63 年 9 月	大宰府史跡発掘調査 20 周年記念特別展「発掘が語る遠の朝廷—大宰府」開催
平成 5 年 4 月	吉久勝美、第三代館長に就任
平成 5 年 10 月	開館 20 周年記念特別展「日本の鬼瓦」開催
平成 8 年 4 月	高橋良平、第四代館長に就任
平成 8 年 12 月 26 日	公開承認施設（第 51 号）
平成 9 年 6 月	福岡県教育委員会教育長 光安常喜、九州歴史資料館長に兼務発令
平成 10 年 10 月	大宰府史跡発掘調査 30 周年記念特別展「大宰府復元」開催
平成 14 年 4 月	福岡県教育委員会教育長 森山良一、九州歴史資料館長に兼務発令
平成 15 年 1 月	開館 30 周年企画展示「大宰府へ、こころが動き、ものが動く」開催
平成 15 年 8 月	特別展「大宰府へ、ひとが動き、ものが動く」開催
平成 16 年 4 月	特別展「大宰府へ、くになが動き、ものが動く」開催
平成 18 年 11 月	特別展「観世音寺」開催
平成 20 年 4 月	西谷 正、第七代館長に就任 組織規則の一部改正；課制を廃止し、室・班制とする 小郡市三沢に新九州歴史資料館建設工事着手
平成 20 年 10 月	大宰府史跡発掘調査 40 周年記念事業開催（～ 12 月） 『都府楼』刊行記念講演会、シンポジウム、企画展示など
平成 21 年 6 月	新九州歴史資料館建設工事竣工

平成 22 年 3 月	特集展示「九歴の歩み」開催
平成 22 年 7 月	組織移転（太宰府市→小郡市）
平成 22 年 11 月 20 日	開館記念式典・一般公開開始（21 日～） 開館記念特別展「大宰府—その栄華と軌跡—」開催（～ 1 月）
平成 22 年 12 月	開館記念シンポジウム「大宰府と西海道—古代の役所と人々のくらし—」開催
平成 23 年 2 月	常設展公開開始
平成 23 年 4 月	文化財調査室（文化財調査班、保存管理班）設置
平成 23 年 7 月 25 日	登録博物館（第 22 号）
平成 23 年 11 月	特別展「発掘された日本列島 2011」開催（～ 12 月）
平成 24 年 1 月	移転開館 1 周年記念企画展「北部九州の霊山と経塚」開催（～ 2 月）
平成 24 年 10 月	特別展「長崎街道—世界とつながった道—」開催（～ 12 月）
平成 25 年 1 月	企画展「聖地四王寺山」開催（～ 3 月）
平成 25 年 4 月	荒巻俊彦、第八代館長に就任 学芸調査室に広報普及班設置、学芸普及班は学芸研究班に名称変更、総務室に総務班設置
平成 25 年 9 月	開館 40 周年・移転開館 3 周年記念特別展 「戦国武将の誇りと祈り—九州の覇権のゆくえ—」開催（～ 11 月）
平成 25 年 10 月	開館 40 周年・移転開館 3 周年記念イベント開催
平成 26 年 1 月	企画展「五卿と志士—維新前夜の太宰府—」開催（～ 2 月）
平成 26 年 4 月	杉光 誠、第九代館長に就任
平成 26 年 8 月	企画展「黒田官兵衛と城」開催（～ 9 月） 企画展「水城築堤 1350 年記念企画展「徹底解説！！水城のすべて」」開催（～ 9 月）
平成 26 年 10 月	特別展「福岡の神仏の世界—北部九州に華ひらいた信仰と造形—」開催（～ 11 月）
平成 26 年 11 月	入館者 10 万人達成記念式典
平成 27 年 9 月	企画展「貝原益軒—大宰府研究の先賢たち—」開催（～ 10 月）
平成 27 年 10 月	大野城築城 1350 年記念・移転開館 5 周年記念特別展 「四王寺山の 1350 年—大野城から祈りの山へ—」開催（～ 12 月）
平成 27 年 10 月	移転開館 5 周年記念イベント開催
平成 28 年 9 月	特別展「八女の名宝」開催（～ 11 月）
平成 28 年 11 月	企画展「大宰府の役人と文房具」開催（～ 1 月）
平成 29 年 8 月	特別展「霊峰英彦山」開催（～ 9 月）
平成 29 年 10 月	企画展「福岡県の城」開催（～ 12 月）
平成 30 年 2 月	企画展「堅粕薬師と東光院の古仏たち」開催（～ 4 月）
平成 30 年 4 月	特別展「大宰府への道」開催（～ 6 月）
平成 30 年 9 月	企画展「発掘速報展 2018」開催（～ 12 月）
平成 30 年 12 月	企画展「歴史の宝石箱ダイジェスト展」開催（～ 3 月）
令和 元年 10 月	特別展「久留米—その歴史と文化—」（～ 12 月）
令和 2 年 1 月	企画展「太宰府天満宮の境内絵図—さいふまいの江戸・明治—」（～ 2 月）
令和 2 年 2 月	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館（～ 5 月）

(2) 施設概要

1) 本館棟	鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造、地上2階 展示室、図書閲覧室、研修室、会議室、保存科学諸室、文化財整理諸室、 特別収蔵庫、図書収蔵庫、調査研究室、写真室、文化情報広場
2) 敷地面積	43,438.62 m ²
3) 延床面積	9,475.92 m ²
4) 一般収蔵庫棟	鉄骨造 木器保存処理室・一般収蔵庫
5) 建設費	約36億円(本館・一般収蔵庫)

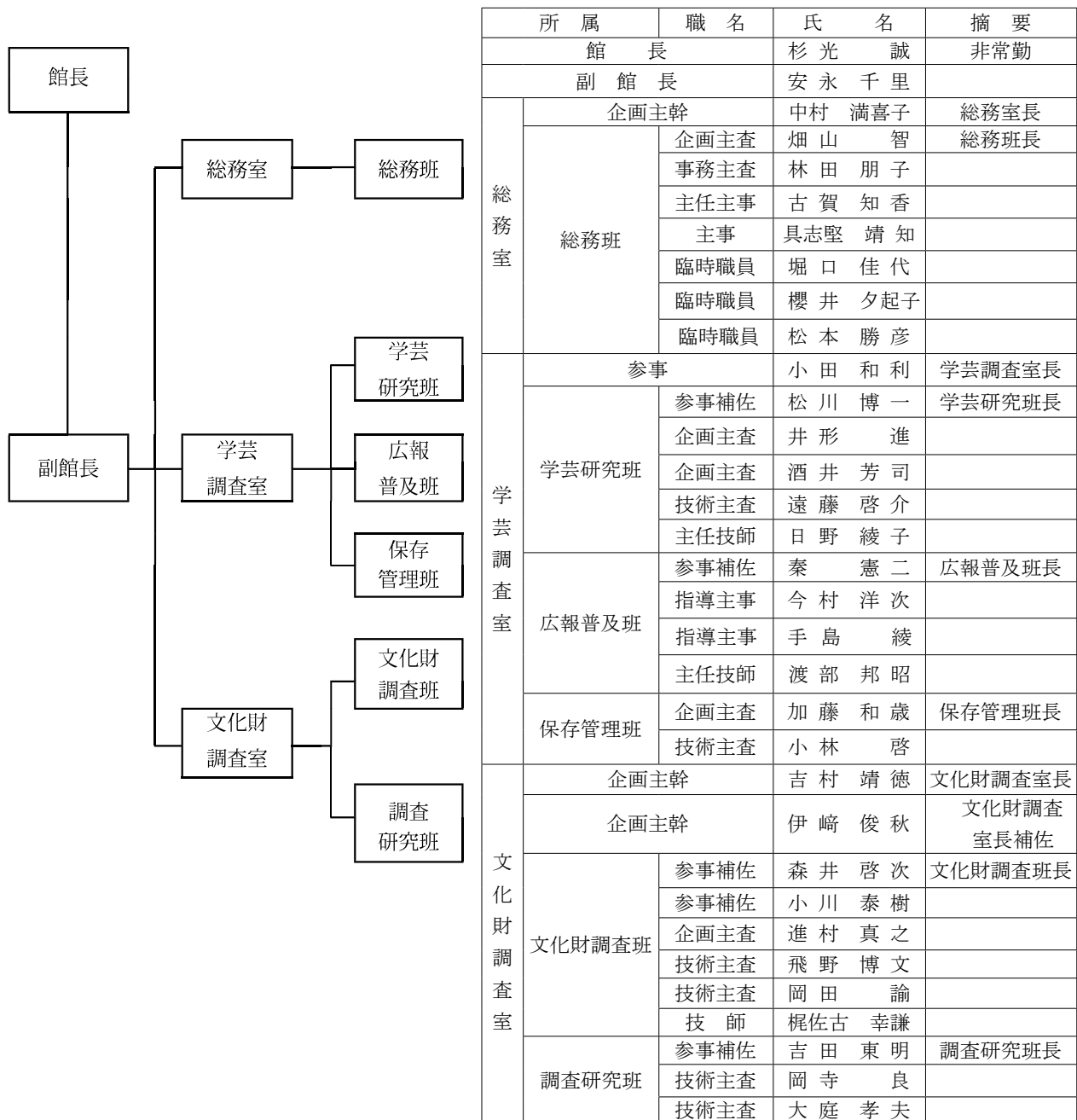
(3) 予算(元年度)

当館の事業費総額は175,329千円で、内訳別にみると次のとおりである。

1	九州歴史資料館費	175,329千円
	資料館運営費	103,471千円
	歴史資料調査研究費	1,487千円
	歴史資料等収集整備費	725千円
	資料館展示費	1,630千円
	特別展示事業費	9,595千円
	県史史料管理公開事業費	9,092千円
	九州歴史資料館整備費	40,287千円
	福岡国際交流史発信事業	9,042千円
2	文化財保護費	21,508千円
	大宰府史跡発掘調査費	21,508千円
	※執行委任事業は除く	

(4) 組織・職員（平成31年4月1日現在）

①九州歴史資料館



②九州歴史資料館研究論集委員会

委員長	館 長 杉 光 誠		
委 員	副館長 安 永 千 里	委 員	学芸研究班長 松 川 博 一
委 員	学芸調査室長 小 田 和 利	委 員	調査研究班長 吉 田 東 明

(5) 関係法規

○九州歴史資料館条例

(昭和 60 年 1 月 21 日福岡県条例第 4 号)

最終改正 令和元年 7 月 福岡県条例第 5 号 (設置)

第 1 条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 (昭和 31 年法律第 162 号) 第 30 条の規定に基づき、歴史資料の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、併せてこれを展示し、もって文化財の保護と文化財愛護思想の普及に資するため、歴史資料館を設置する。

(名称及び位置並びに分館の設置)

第 2 条 歴史資料館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
九州歴史資料館	小郡市

2 九州歴史資料館に分館を置き、その名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
求菩提資料館	豊前市
甘木歴史資料館	朝倉市
柳川古文書館	柳川市

(利用の承認等)

第 3 条 福岡県公の施設の設置及び管理に関する条例 (昭和 39 年福岡県条例第 5 号) 第 3 条から第 6 条まで及び第 9 条の規定は、九州歴史資料館の利用の承認等について適用する。この場合において、第 4 条第 1 項中「知事若しくは委員会から公の施設の管理に関し委任を受けた者」とあるのは、「指定管理者」と読み替えるものとする。

(九州歴史資料館協議会)

第 4 条 博物館法 (昭和 2 6 年法律第 2 8 5 号) 第 2 0 条第 1 項の規定に基づき、九州歴史資料館協議会 (次項及び第六項において「協議会」という。) を置く。

2 協議会の委員 (以下この条において単に「委員」という。) は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命する。

3 委員の定数は、1 5 人以内とする。

4 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、再任されることができる。

6 前各項に定めるもののほか、協議会に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(使用料)

第 5 条 九州歴史資料館を利用する者は、別表第 1 各表の区分に応じ、当該各表に掲げる金額の使用料を納めなければならない。

2 前項の規定により納付した使用料は、還付しない。ただし、規則で定める場合に該当するときは、その全部又は一部を還付することができる。

(手数料)

第 6 条 資料の複写を依頼しようとする者は、別表第 2 の区分に応じ、同表に掲げる金額の手数料を納めなければならない。

(使用料又は手数料の減免)

第 7 条 知事は、規則で定める場合に該当するときは、使用料又は手数料を減額し、又は免除することができる。

(適用除外)

第 8 条 前 3 条の規定は、第 2 条第 2 項に規定する分館 (以下単に「分館」という。) については、適用しない。

(指定管理者による管理)

第 9 条 分館の管理に関する業務のうち次に掲げるものは、地方自治法 (昭和 22 年法律第 67 号) 第 244 条の 2 第 3 項の規定により、法人その他の団体であって教育委員会が指定する者 (以下「指定管理者」という。) に行わせるものとする。

一 分館の利用の許可に関する業務

二 分館の諸施設の維持及び保守に関する業務

三 前 2 号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務

(指定管理者の指定の手続)

第 1 0 条 指定管理者の指定を受けようとする者は、教育委員会規則で定める申請書に、次に掲げる書類を添えて、教育委員会に提出しなければならない。

一 事業計画書

二 前号に掲げるもののほか、教育委員会規則で定める書類

2 教育委員会は、前項の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当する者の中から最も適切に分館の管理を行うことができると認めた者を指定管理者として指定するものとする。

一 事業計画の内容が、住民の平等な利用を確保することができるものであること。

二 事業計画の内容が、分館の効用を最大限に発揮させるとともに、効率的な管理ができるものであること。

三 分館の管理を安定して行うために必要な人員及び財政的基盤を有しているものであること。

四 法令並びに関係条例及び規則の規定を遵守し、適正な管理ができるものであること。

五 その他教育委員会が分館の設置の目的を達成するために必要と認めるものとして別に定める事項

3 教育委員会は、指定管理者の指定をしたとき、及び指定を取り消したときは、遅滞なく、その旨を公示するものとする。

（秘密保持義務）

第11条 指定管理者及び分館の管理に関する業務に従事する者（以下「従事者」という。）は、個人情報適切に保護されるよう配慮するとともに、分館の管理に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、又は指定を取り消され、及び従事者の職務を退いた後においても、同様とする。

（協議）

第12条 この条例に定めるもののほか、管理に要する経費その他必要な事項は、教育委員会と指定管理者が協議して定める。

（規則への委任）

第13条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則（抄）

（施行期日）

この条例は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則（令和元・7・16 福岡県条例第5号）

（施行期日）

この条例は、令和元年10月1日から施行する。

（九州歴史資料館条例の一部改正に伴う経過措置）

第二十九条の規定による改正後の九州歴史資料館条例の規定は、施行日以後にされる利用の承認に係る使用料について適用し、施行日前にされた利用の承認に係る使用料については、なお従前の例による。

別表第1（第5条関係）

1 九州歴史資料館が主催して展示する歴史資料館の観覧料

区 分		金額 (1回につき)
個人で観覧する場合	一般	210 円
	大学生・高校生	150 円
20人以上の団体で観覧する場合	一般	150 円
	大学生・高校生	100 円

備考

1 この表において「大学生・高校生」とは、大学、高等専門学校、高等学校、中等教育学校の後期課程、特別支援学校の高等部、専修学校又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。

2 この表において「一般」とは、大学生・高校生及び中学生（中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程、特別支援学校の中学部又はこれらに準ずる

ものに在学する者をいう。）以外の者であって、15歳以上の者をいう。

2 展示室の使用料

区 分		金額 (1日につき)
入場料を徴収しない場合	第2展示室	3,510 円
	第4展示室	8,500 円
入場料を徴収する場合	第2展示室	5,260 円
	第4展示室	12,750 円

3 会議室及び研修室の使用料

区 分	金額 (1時間につき)
会議室	390 円
研修室1	390 円
研修室2	390 円
研修室3	390 円

備考 使用時間に1時間に満たない端数があるときは、当該端数を1時間として計算する。

別表第2（第6条関係）

区分	金額 (1枚につき)
電子式複写（白黒）	10 円
マイクロフィルムからの引き伸ばし	10 円

○九州歴史資料館の利用、指定管理者の指定等に関する規則

（昭和48年2月20日教育委員会規則第4号）

最終改正 平成22年6月 教育委員会規則第10号

号

（目的）

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例（昭和60年福岡県条例第4号。以下「条例」という。）第13条の規定に基づき、九州歴史資料館（以下「資料館」という。）の利用、指定管理者の指定等について定めることを目的とする。

（休館日）

第2条 資料館の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その日後においてその日に最も近い休日でない日

二 12月28日から翌年1月4日まで

2 前項の規定にかかわらず、九州歴史資料館長等（分館にあつては指定管理者。以下「館長等」という。）が必要と認めた場合は、臨時に休館又は開館することができる。ただし、この場合は、館長等がその都度あらかじめ日時を公示しなければならない。

3 前項の規定により、指定管理者が分館を臨時に休館又は開館しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。

（開館時間）

第3条 資料館の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、入館は、午後4時までとする。

2 館長等は、特別の事情があるときは、前項に規定する開館時間を変更することができる。

3 前項の規定により、指定管理者が分館の開館時間を変更しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。

（利用の申込）

第4条 資料館（分館を除く。）の展示室、会議室及び研修室を利用しようとする者は、別に定める利用申込書を、事前に九州歴史資料館長に提出しなければならない。

（利用申込の取消又は変更）

第5条 前条の申込みをした者が、利用を中止し、又は利用内容を変更しようとするときは、直ちに九州歴史資料館長にその旨を通知しなければならない。

（利用の承認）

第6条 九州歴史資料館長は、第4条の使用申込が提出されたときは、速やかにこれを審査して使用の承認又は不承認を決定し、申込者に通知しなければならない。

（資料の複写）

第7条 資料の複写を必要とする場合は、九州歴史資料館長が別に定めるところにより、これを依頼することができる。ただし、次の各号の一に該当する場合は、九州歴史資料館長は、複写を認めないことがある。

一 著作権法（昭和45年法律第48号）に違反するおそれがあると認められるとき。

二 資料館の管理上支障があると認められるとき。

三 その他九州歴史資料館長が複写を不適当と認めたとき。

2 前項の複写は、九州歴史資料館に設置された複写機器により行うものとする。

（利用制限）

第8条 館長等は、次の各号の一に該当すると認められる者については、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

一 他人に迷惑をかけ、展示品又は施設設備を損傷するおそれがあると認められる者

二 その他係員の指示に従わない者

（資料の館外貸出し）

第9条 資料の館外貸出しは、原則として行なわないものとする。ただし、博物館、図書館、学校、官公署、その他館長等が適当と認めたものに対しては、この限りでない。

2 前項ただし書に掲げるものが資料の館外貸出を受けようとする場合は、別に定めるところにより、館長等の許可を受けなければならない。

3 資料の館外貸出しを受けたものは、館長等の指示するところにより、管理に当らなければならない。

4 館外貸出しを受けた資料は、これを他に転貸してはならない。

5 資料の貸出期間は、品目によって館長等がその都度定めるものとする。

（損害の賠償）

第10条 観覧者、利用者又は資料の館外貸出しを受けたものが、自己の責に帰すべき理由により、施設設備、展示品又は資料を損傷し、又は滅失したときは、館長等の指示を受けてこれを原形に復し、又は館長等が定める相当の代価をもって損害を賠償しなければならない。

（寄贈又は寄託）

第11条 資料館は、資料の寄贈又は寄託をうけることができる。

2 資料館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、別に定めるところにより、館長等にその旨申出るものとする。

3 館長等が寄贈又は寄託を受けることを決定した場合は、本人にこの旨を通知するものとする。

（寄贈資料の取扱い）

第12条 寄贈を受けた資料には、寄贈者の氏名及び寄贈年月日を標記し、永くその篤志を伝えるものとする。

（寄託資料の取扱い）

第13条 寄託を受けた資料（以下「寄託資料」という。）の寄託期間は、その都度館長等が寄託者と協議して定めるものとする。

2 寄託資料は、資料館所蔵の資料と同一の取扱いとする。

3 寄託資料は、寄託者の請求又は資料館の都合によりこれを返還することがある。

4 寄託資料が天災その他不可抗力によって滅失又は損傷したときは、資料館は損害賠償の責を負わない。

（申請書及び添付書類）

第14条 条例第10条第1項の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。

2 条例第10条第1項第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げる書類とする。

一 同種の施設の管理及び運営に係る活動実績報告

書

二 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして別に定める書類
(その他)

第15条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、館長等が別に定める。

附 則

この規則は、昭和48年2月24日から施行する。

附 則 (平成22・6・30教育委員会規則第10号)

この規則は、平成22年7月1日から施行する。

○ 九州歴史資料館組織規則

(昭和47年4月1日教育委員会規則第2号)
最終改正 平成23年3月 教育委員会規則第2号
(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号)第3条の規定に基づき、九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の組織その他必要な事項を定めるものとする。

(職員の職)

第2条 資料館職員の職として、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表下欄に掲げるとおりとする。

館 長	教育長の命を受け、資料館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副 理 事	上司の特命に係る事務を処理する。
副 館 長	館長を補佐し、館長が不在のとき又は館長が欠けたときは、その職務を代理する。
参 事	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
参事補佐	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
企画主幹	上司の命を受け、企画・調整等に関する事務に関し、館長又は副館長を補佐する。
指導主事	上司の命を受け、学校教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
社会教育主事	上司の命を受け、社会教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
企画主査	上司の命を受け、調査、計画立案等の事務を処理する。
事務主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、事務を処理する。
技術主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、技術を処理する。 上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項を処理する。
主任主事	上司の命を受け、複雑な事務をつかさどる。

主任技師	上司の命を受け、複雑な技術をつかさどる。 上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について複雑な専門的事項をつかさどる。
主 事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
技 師	上司の命を受け、技術をつかさどる。 上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項をつかさどる。
主任技能員	上司の命に従い、高度な技能を要する労務に従事する。
技 能 員	上司の命に従い、労務に従事する。

(所掌事務)

第3条 資料館の所掌事務は、次のとおりとする。

- 一 古文書、典籍等の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 二 美術工芸品、民俗資料等の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 三 古文書、典籍、美術工芸品、民俗資料等の展示及び文化財愛護思想の普及に関すること。
- 四 考古資料の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 五 考古資料の展示に関すること。
- 六 歴史資料の科学的保存処理に関すること。
- 七 史跡の発掘調査及び研究に関すること。
- 八 史跡に関する歴史資料の収集、保管、調査、研究、展示及び整備に関すること。
- 九 公印の管守並びに職員の身分及び服務並びに文書の収受、発送、編集及び保存、公文書の開示等に関すること。
- 十 予算並びに税外諸収入の収入並びに経費の支出並びに物品の出納及び保管並びに現金及び有価証券等の保管に関すること。
- 十一 九州歴史資料館協議会に関すること。
- 十二 職員の研修及び福利厚生に関すること。
- 十三 施設設備の管理に関すること。
- 十四 埋蔵文化財の発掘調査受託事業等の事務に関すること。
- 十五 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。

(補則)

第4条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (平成23・3・30教育委員会規則第2号)

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

○ 九州歴史資料館協議会規則

(昭和60年3月30日教育委員会規則第4号)

最終改正 平成24年3月 教育委員会規則第1号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号)第4条第1項に規定する九州歴史資料館協議会(以下「協議会」という。)の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長各1名を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によるものとし、任期は1年とする。ただし、再選することができる。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議の招集)

第3条 協議会の会議は、必要に応じ、会長が招集する。

2 資料館の館長は、必要と認めるときは、会長に協議会の招集を求めることができる。

(議決)

第4条 協議会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開き議決することができない。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第5条 協議会の庶務は、九州歴史資料館において処理する。

(補則)

第6条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営及び会議に関し必要な事項は、会長が協議会にはかつて定める。

附 則(抄)

(施行期日等)

1 この規則は、昭和60年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日の前日において九州歴史資料館協議会委員に任命されている者については、別に辞令が発せられない限り改正後の九州歴史資料館協議会規則(以下「改正後の規則」という。)第四条の規定により任命されたものとみなし、当該委員の期間は改正後の規則第五条の規定による委員の期間に通算する。

附則(平成24年3月28日教育委員会規則第1号抄)

(施行期日)

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

○ 九州歴史資料館の使用料及び手数料に関する規則

(平成22年6月30日福岡県規則

第30号)

最終改正 平成29年2月 教育委員会規則第34号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例((昭和60年福岡県条例第4号。以下「条例」という。))に規定する九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の使用料及び手数料に関し必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収時期)

第2条 使用料(条例第5条第1項の使用料をいう。以下同じ。)は、資料館の利用の承認の際に徴収する。ただし、国又は地方公共団体が利用する場合にあっては、当該利用の後に徴収することができる。

(使用料の還付)

第3条 条例第5条第2項ただし書の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合とし、同項ただし書の規定により還付する使用料の額は当該各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額(その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額)とする。

一 天災地変その他資料館の利用の承認を受けた者の責めに帰することができない場合 当該利用に係る使用料の全額

二 前号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合

知事が必要と認める額

(手数料の徴収時期)

第4条 手数料(条例第6条の手数料をいう。以下同じ。)は、資料の複写の依頼を受けるときに徴収する。

(使用料及び手数料の減免)

第5条 条例第7条の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合とし、同条の規定により減額又は免除(「以下「減免」という。)」をする使用料又は手数料の額は、当該各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額(その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額)とする。

一 学校教育法(昭和22年法律第26号)に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部の生徒が教育上の目的のために教職員に引率されて観覧(資料館が主催して展示する歴史資料の観覧をいう。以下同じ。)をする場合 当該観覧に係る観覧料(条例別表第一の一の表の観覧料をいう。以下同じ。)の全額

二 学校教育法に規定する幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校又は特別支援学校の

- 幼児、児童又は生徒を教育上の目的のために引率する教職員が観覧をする場合
当該観覧に係る観覧料の全額
- 三 児童福祉施設（児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条第1項に規定するものをいう。以下同じ。）に入所又は通所している少年（同法第4条第3号に規定する少年をいう。
以下同じ。）が教育上の目的のために児童福祉施設の職員に引率されて観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 四 児童福祉施設に入所又は通所している幼児（同法第4条第2号に規定する幼児をいう。）又は少年を教育上の目的のために引率する児童福祉施設の職員が観覧をする場合 当該観覧料に係る観覧料の全額
- 五 学校教育法に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程若しくは特別支援学校の高等部の生徒又はこれに準ずる者が土曜日に観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 六 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条に規定する身体障害者手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 七 療育手帳制度要綱（昭和48年9月27日厚生省発児第156号）に規定する療育手帳（以下単に「療育手帳」という。）の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 八 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条に規定する精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 九 福岡県男女共同参画センター、福岡県人権啓発情報センター及び福岡県総合福祉センターの設置及び管理に関する条例施行規則（平成8年福岡県規則第55号）第9条第5号に規定する身体障害者若しくは身体障がいのある人、療育手帳の交付を受けている者又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行令（昭和25年政令第155号）第6条第3項に規定する1級若しくは2級の精神障害者（以下「障がいのある人」と総称する。）の介護人が当該障がいのある人とともに観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 十 65歳以上の者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 十一 県又は県教育委員会の主催する行事の用に供するため、入場料を徴収して展示室、会議室又は研修室（以下「展示室等」という。）の使用をする場合 当該使用に係る

- 使用料の50パーセントに相当する額
- 十二 前号の用に供するため、入場料を徴収しないで展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額
- 十三 学校教育法第1条に規定する学校が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額
- 十四 地方公共団体が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額
- 十五 県の機関が資料の複写を依頼する場合 当該複写に係る手数料の全額
- 十六 前各号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合 知事が必要と認める額
- 十七 中等教育学校の後期課程若しくは特別支援学校の高等部の生徒又はこれに準ずる者が土曜日に観覧する場合 当該
（減免の申請）
- 第6条 前条第一号から第四号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する引率をする者は、九州歴史資料館観覧料免除申請書（様式第1号）を知事に提出しなければならない。
- 2 前条各五号から第十号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する者（前条第九号に該当する場合にあっては、障がいのある人）は、これらの号に該当することを証明することができる書類を資料館の職員に提示しなければならない。
- 3 前条第十一号から第十四号までのいずれかに該当する場合の使用料の減免を受けようとする者は、九州歴史資料館使用料減免申請書（様式第2号）を知事に提出しなければならない。
- 4 前条第十五号に該当する場合の手数料の免除を受けようとする者は、九州歴史資料館複写手数料免除申請書（様式第3号）を知事に提出しなければならない。
- 5 前条第十六号に該当する場合の使用料又は手数料の減免を受けようとする者は、別に指示する方法により申請しなければならない。
- 附 則
この規則は、平成22年7月1日から施行する。
- 附 則（平成29・9・29教育委員会規則第34号）
この規則は、平成29年10月1日から施行する。

3 諸 統 計

(1) 入館者状況

ア 平成 30 年度入館者状況

期 間	開館日数	入館者数	1 日平均入館者数
平成 31 年 4 月 1 日から 令和 2 年 2 月 27 日まで	278 日	31,500 人	113 人

イ 過去 5 年間の入館者推移

単位・人

年 度 区 分	開 館 日 数	合 計 入館者数	合 計 有料入館者数	合 計 入 館 者 内 訳			1 日平均 入館者数
				大 人	高大生	中学生以下	
27 年度	307	23,435	3,589	18,750	744	3,941	76
28 年度	307	23,962	3,869	19,764	551	3,647	78
29 年度	306	24,254	3,390	19,871	761	3,622	79
30 年度	302	23,367	1,585	19,504	731	3,132	77
元年度	278	31,500	1,489	11,616	588	2,599	113

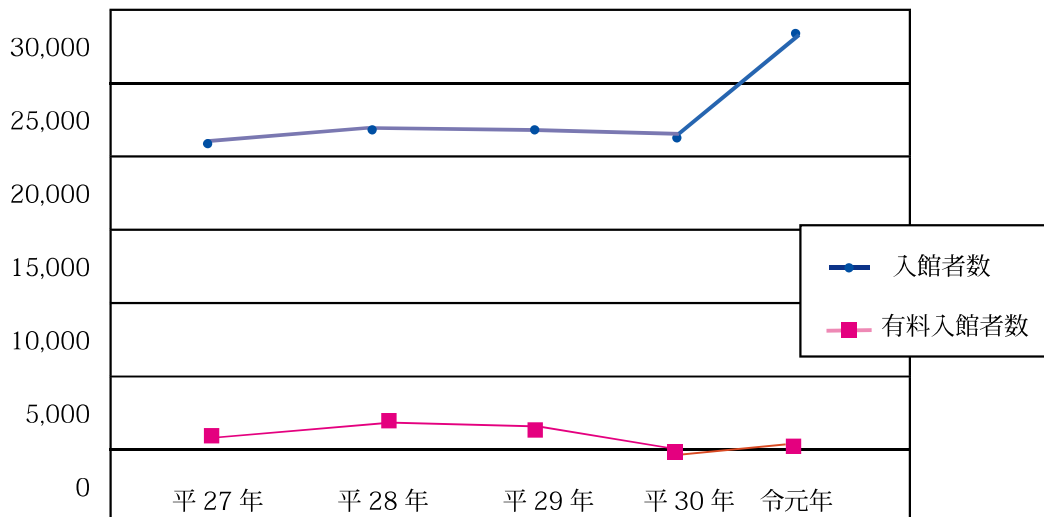
※つり天井工事実施のため、平成 30 年 8 月 13 日から令和元年 10 月 11 日まで、第 1.3 展示室(有料展示室)を閉室。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和 2 年 2 月 28 日から令和 2 年 5 月 18 日まで臨時休館。

ウ 過去 5 年間の入館者推移

35,000

単位・人



(2) 収蔵資料・図書

< 寄贈等資料 >

考古資料

287,372 点

歴史資料

127,306 点

< 図 書 >

購 入

4,951 冊

寄 贈

174,260 冊

4 日 誌 抄

年 月 日	内 容
平成31年3月19日(火)	企画展「きゅうおにとタイムトラベラー大昔のくらしと国づくりー」(～7月15日(月・祝))
3月19日(火)	企画展「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線2018-2019」(～7月15日(月・祝))
3月26日(火)	パネル展「保存科学成果展ー古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線2018-2019」(～6月16日(日))
4月7日(日)	桜コンサート(共催:桜コンサート実行委員会)
4月14日(日)	あすみマルシェ(共催:あすみパビリオン)
4月28日(日)	小郡高等学校琴部演奏会・茶道部茶会(共催:県立小郡高等学校)
4月29日(月・祝)	新元号「令和」決定特別講座
5月16日(木)	大人組紐講座1
5月23日(木)	
5月21日(火)	文化財安全パトロール
6月2日(日)	新元号「令和」記念特別講演会
6月15日(土)	ナイトミュージアム
6月18日(火)	パネル展「シルクロードの文化遺産3 海の道」(～9月16日(月・祝))
7月17日(水)	企画展「三沢遺跡と三国丘陵周辺の遺跡」(～10月6日(日))
7月17日(水)	埋蔵文化財安全衛生講習会
7月24日(水)	九州歴史資料館協議会
7月30日(火)	平日古代体験
8月7日(水)	
8月3日(土)	きゅうれき七タイイベント
8月23日(金)	なるほど!!歴史教室2019
9月18日(水)	パネル展「福岡鉄道遺産ものがたり7 筑後地区編」(～12月15日(日))
10月12日(土)	特別展「久留米ーその歴史と文化ー」(～12月8日(日))
10月23日(水)	大宰府史跡調査研究指導委員会(～10月24日(木))
10月26日(土)	大宰府史跡発掘調査現地説明会
10月27日(日)	特別展開催記念茶会(共催:小郡市文化協会)
11月10日(日)	アクロス福岡ミュージアムコンサート
11月16日(土)	特別展「久留米ーその歴史と文化ー」開催記念講演会
11月21日(木)	大人組紐講座2
11月28日(木)	
11月24日(日)	文化財めぐり(特別展開連バスツアー)
11月30日(土)	古代体験まつり
12月10日(火)	企画展「福岡の工芸1 甘木絞り」(～2月27日(木))
12月17日(火)	パネル展「記念物100年」(～2月27日(日))
12月21日(土)	常設展「歴史の宝石箱」(福岡県の通史・基準資料展示)※リニューアルオープン
12月21日(土)	企画展「炭都・三池ー「明治日本の産業革命遺産」企画展2ー」(～1月26日(日))
12月21日(土)	企画展「船原古墳の世界」(～1月26日(日))
12月22日(日)	ナイトミュージアムin九歴&おもちゃ病院
1月19日(日)	企画展「炭都・三池ー「明治日本の産業革命遺産」企画展2ー」開催記念講演会
1月29日(水)	企画展「太宰府天満宮境内絵図ーさいふまいの江戸・明治ー」(～2月27日(木))
2月11日(火)	機織り教室(企画展開連イベント)
2月15日(土)	企画展「太宰府天満宮境内絵図ーさいふまいの江戸・明治ー」開催記念講演会
2月28日(金)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館(～5月18日(月))

福岡県行政資料	
分類記号 J H	所属コード 2120261
登録年度 2	登録番号 0001

九州歴史資料館年報（令和元年度）

発 行 日 令和2年9月30日

編集・発行 九州歴史資料館

〒838－0106

福岡県小郡市三沢5208-3

T E L 0942-75-9575

F A X 0942-75-7834

ANNUAL BULLETIN

OF

KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

2019

CONTENTS

九州
歴史
資料
館
年
報

令和
元
年
度

九州
歴史
資料
館

Preface

1	2019 Report of Kyushu Historical Museum	1
(1)	Survey and Research	1
(2)	Exhibition	15
(3)	Item Available	22
(4)	Study Support/Museum, school Cooperation	35
(5)	Volunteer	39
(6)	Dissemination/ Utilization	42
(7)	Priority Measures	54
(8)	Public Relations Activities	59
(9)	Practice and Training Opportunities	61
(10)	Published matter	62
(11)	Interchange	63
(12)	Conference and Meeting Facilities	63
2	Organization of Kyushu Historical Museum	64
(1)	History	64
(2)	Building and Grounds	66
(3)	Budget	66
(4)	Organization Chart and Staff	67
(5)	Rules and Regulations	68
3	Statistics of Kyushu Historical Museum	74
(1)	Museum Visitors	74
(2)	Total Materials and Books	74
4	Outline of 2019 Activities	75